

# 第2回 JFAグラスルーツアンケート 調査報告書

公益財団法人 日本サッカー協会

**JFA**



# はじめに

## 1. JFAグラスルーツ宣言

2014年5月15日、日本サッカー協会（JFA）は「Football for All サッカーを、もっとみんなのものへ。」というスローガンを掲げ、「JFAグラスルーツ宣言」を発表し、誰もがいつでもどこでも、安心・安全にサッカーやスポーツが楽しめる環境づくりを行っていくことを宣言しました。

「Football For All サッカーを、もっとみんなのものへ。」というコンセプトのもとでグラスルーツサッカーを改めて捉えます。下記のとおり、必要な活動すべてを網羅し、全体像を見据えながら、包括的に取り組んでいきます。

- ・ 参加者の増加と継続
- ・ 安心・安全の確保のための、ハード面、ソフト面など、様々な環境の整備
- ・ サッカー体験を生み出す場という観点での施設環境の確保、活用、質の向上
- ・ 選手の育成基盤という観点でのトレーニング環境の質的向上
- ・ 必要かつ適切な大会やイベントの創出と効果的な実施・運営
- ・ 専門人材、ボランティアの確保と養成
- ・ クラブのコミュニティ機能の充実と発展（クラブ文化の醸成）
- ・ サッカーファミリー全体とのつながりづくりとサポート（メンバーシップの最適化）
- ・ サッカーを通じた社会貢献の検討
- ・ 継続的な調査・研究と情報共有、効果的なプロモーションによる啓発

## 2. 本調査

本調査は2015年に初めて第1回目の調査を行い、2018年の調査で第2回目となります。

第1回目の調査では、「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」「他スポーツとの協働」「施設の確保」「社会課題への取り組み」をグラスルーツの環境を改善する6つのキーワードと考え、グラスルーツの現状の調査を行いました。その結果、全てのキーワードに賛同される方が非常に多い結果となりました。この6つのキーワードは、グラスルーツの現状を改善するキーワードとして、今後も継続して動向を調査していきたいと考えています。

第1回目の調査では取り上げていなかった「各キーワードの取り組みがもっと行われるようにするために必要と考えること」についても調査をしました。さらに、現場の方々からのJFAに対するご意見やご提案も取り上げ、現場の方の声がより反映された資料となっております。

最後に、本調査の実施にあたって貴重なご意見やご指導をいただいた皆様には心より御礼申し上げます。

2019年11月  
公益財団法人日本サッカー協会  
技術部グラスルーツ推進グループ

# アンケート調査実施概要

## 1. 目的

日本サッカー協会（JFA）は2014年5月15日に「JFAグラスルーツ宣言」を行い、「だれもが、いつでも、どこでも」サッカーを身近に心から楽しめる環境が広がることを目指して様々な活動を行っています。2015年に、JFAグラスルーツ宣言の具現化につながる取り組みを把握するために、現場で実際に活動しているクラブの関係者、指導者を主な対象としたアンケート調査を行いました。その時に調査した6つのキーワードである「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」「他スポーツとの協働」「施設の確保」「社会課題への取り組み」について、2015年以降の状況をさらに把握するために第2回目のアンケート調査を行いました。

## 2. 調査内容

- 1) 回答者の状況  
年齢、活動場所、サッカーとの関係
- 2) チーム/スクールについて  
種目、JFAへのチーム登録状況、選手の年代、選手の性別、選手の人数、活動場所（施設）、障がい者サッカー
- 3) 引退なし  
取り組み状況とその詳細、今後必要と思うこと
- 4) 補欠ゼロ  
取り組み状況とその詳細、アマチュア選手移籍の状況、大会やリーグへの参加状況
- 5) 障がい者サッカー  
取り組み状況とその詳細、今後必要と思うこと
- 6) 他スポーツとの協働  
取り組み状況とその詳細、今後必要と思うこと
- 7) 施設の確保  
取り組み状況とその詳細、活動場所、施設の利用状況
- 8) 社会課題への取り組み  
取り組み状況とその詳細、今後必要と思うこと
- 9) グラスルーツの取り組みについて  
グラスルーツの状況、JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー制度の認知度、JFAに対するご意見

## 3. 調査対象

全国のサッカー関係者（サッカークラブの関係者、指導者、サッカーを楽しんでいる方など）

## 4. 調査時期

2018年5月9日（水）～ 2018年6月8日（金）

## 5. 調査方法

- 1) JFA公式ウェブサイト「JFA.jp」上の専用フォームから回答
- 2) 下記の媒体や会議体にて告知  
JFA 公式サイト、JFAnews（約3万部）、テクニカルニュース（約7万部）、JFAグラスルーツ推進・賛同パートナーカンファレンス、JFA ID 登録者（約40万人）へのメール

## 6. 回収結果

9,874人

# 要約

## 1. 引退なし

「引退なし」の取り組み状況については、「とても行われていると思う」が7.2%、「行われていると思う」が33.8%、「どちらでもない」が22.9%、「行われていないと思う」が25.2%、「全く行われていないと思う」が5.4%、「わからない」が5.5%であった。

## 2. 補欠ゼロ

「補欠ゼロ」の取り組み状況については、「とても行われていると思う」が7.3%、「行われていると思う」が36.9%、「どちらでもない」が27.9%、「行われていないと思う」が20.2%、「全く行われていないと思う」が4.9%、「わからない」が2.8%であった。

アマチュア選手移籍に関する通達の認知度については、「知っていた」が39.8%、「知らなかった」が60.2%であった。また、アマチュア選手の移籍が不当に制限されている状況については「あると思う」が17.0%、「ないと思う」が37.6%、「わからない」が45.3%であった。

## 3. 障がい者サッカー

「障がい者サッカー」の取り組み状況については、「とても行われていると思う」が2.6%、「行われていると思う」が17.6%、「どちらでもない」が24.7%、「行われていないと思う」が28.5%、「全く行われていないと思う」が8.2%、「わからない」が18.3%であった。

## 4. 他スポーツとの協働

「他スポーツとの協働」の取り組み状況については、「とても行われていると思う」が1.9%、「行われていると思う」が16.0%、「どちらでもない」が32.6%、「行われていないと思う」が33.0%、「全く行われていないと思う」が7.9%、「わからない」が8.6%であった。

## 5. 施設の確保

「施設の確保」の取り組みが行われているかどうかをたずねたところ、「十分にあると思う」が5.4%、「どちらかという十分にあると思う」が22.8%、「どちらでもない」が14.0%、「どちらかという十分でないと思う」が48.7%、「全くないと思う」が8.4%、「わからない」が0.6%であった。

普段活動している場所のピッチは、サッカーでは、「サッカー クレー（土）」が81.7%と最も高く、次ぐ「サッカー 人工芝」が34.3%、「サッカー 天然芝」が23.1%と大きな差があった。フットサルでは、「フットサル フローリング」が19.8%と最も高く、次いで「フットサル 屋外 人工芝」が11.4%、「フットサル 屋内 人工芝」が6.5%であった。

## 6. 社会課題への取り組み

「社会課題への取り組み」状況については、「とても行われていると思う」が2.0%、「行われていると思う」が24.8%、「どちらでもない」が38.8%、「行われていないと思う」が21.9%、「全く行われていないと思う」が3.8%、「わからない」が8.7%であった。

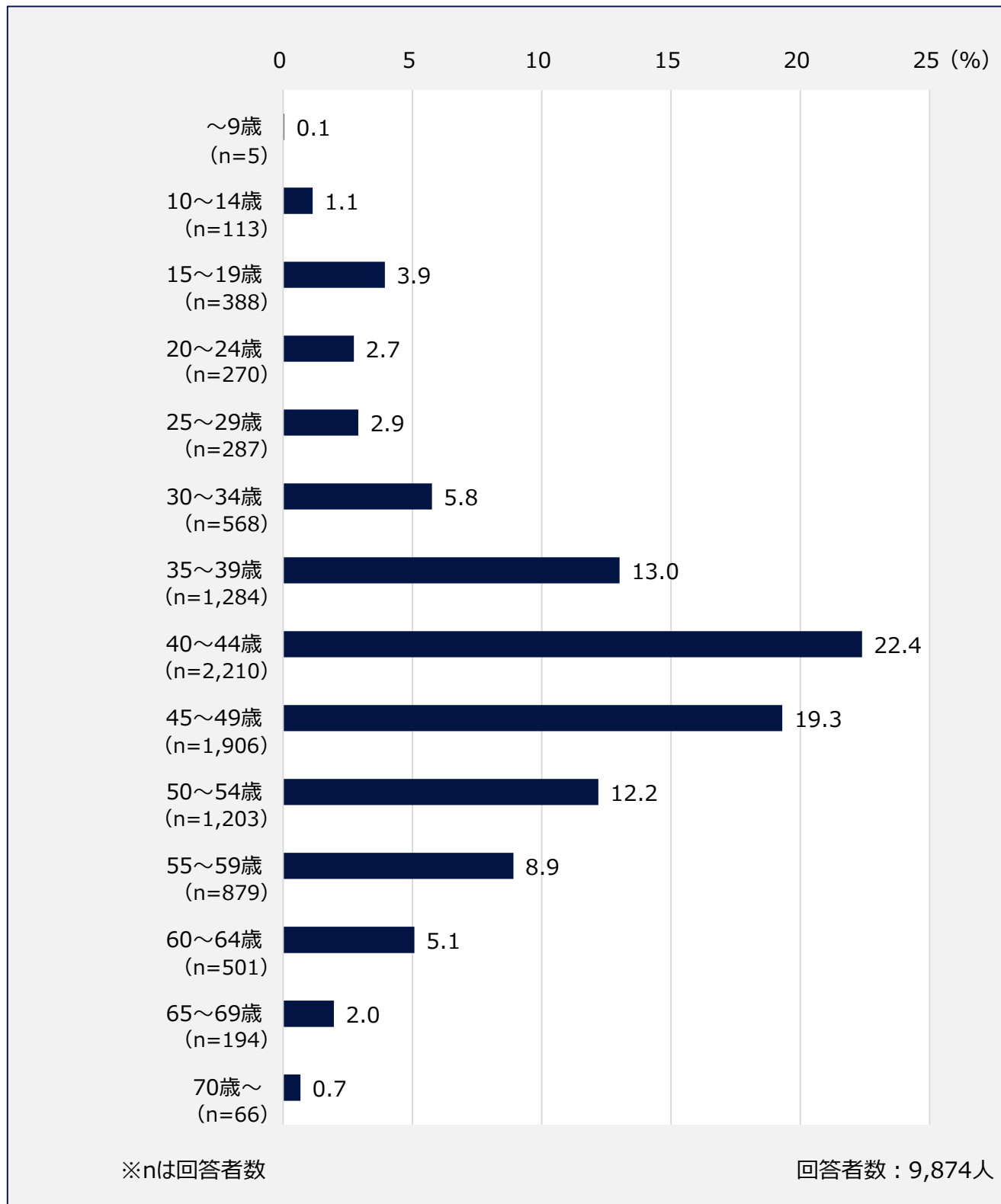
SDGsの17項目に沿ってサッカーやスポーツを通じて取り組めると思う項目についてたずねたところ、「教育」が74.4%と最も高く、次いで「健康・福祉」が58.3%であり、その他の15項目については全て35%以下と大きな差があった。

**回答者の属性**

## 回答者の属性

本アンケートの回答者は10歳未満から70歳以上までと全ての年代から回答があった。年代別の回答は、「40～44歳」が22.4%と最も高く、次いで「45～49歳」が19.3%、「35～39歳」が13.0%であった（図A-1）。

【図A-1】回答者の各年代の割合



## A. 回答者の属性

回答者の主な活動場所を都道府県別にみたところ、「東京都」が15.2%と最も高く、次いで「神奈川県」が9.1%、「埼玉県」が6.5%、「千葉県」が5.5%であり、関東地区から多くの回答があった（表A-1）。

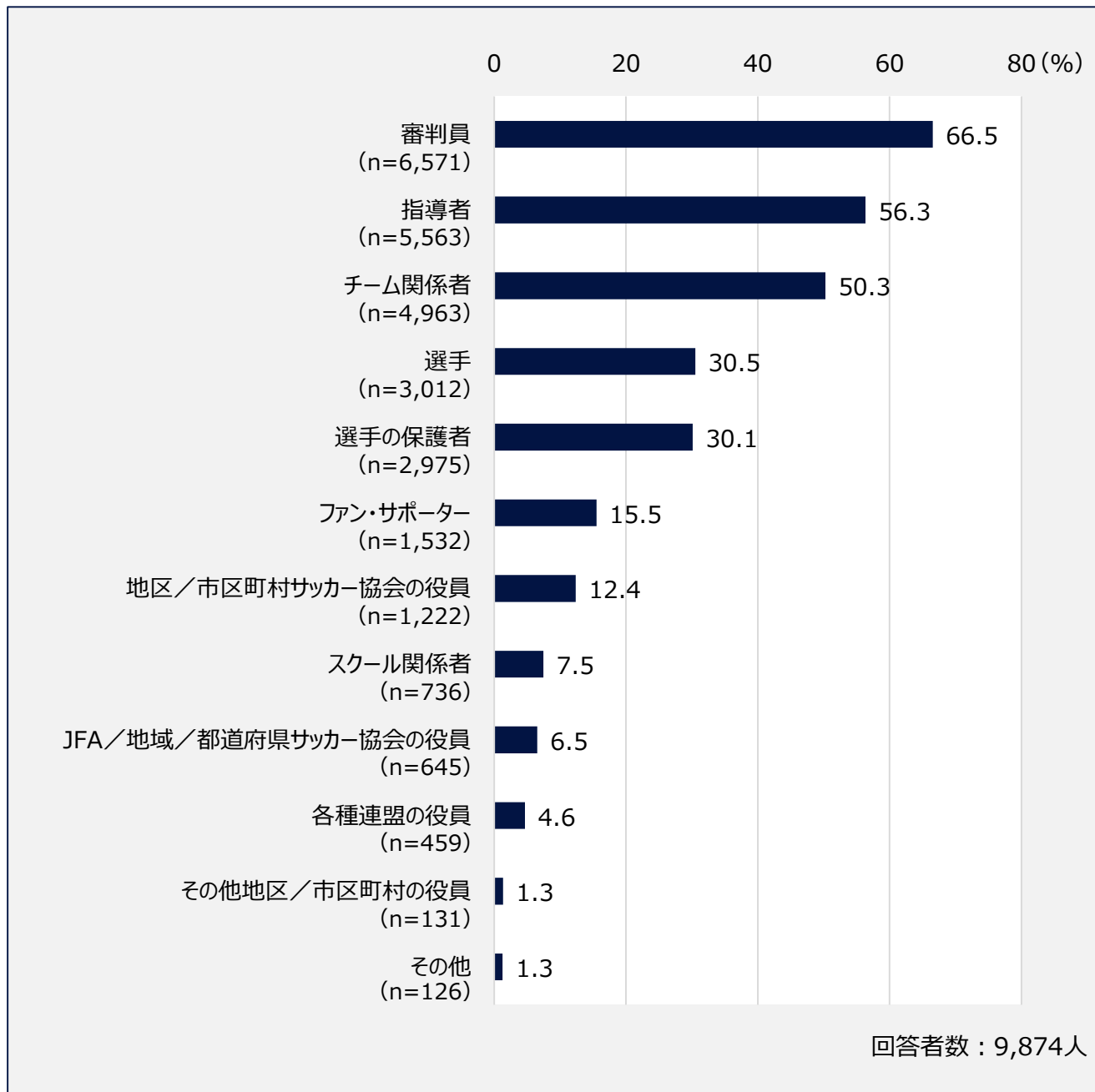
【表A-1】回答者の主な活動場所（都道府県）

回答者の 主な活動場所	今回		前回
	回答数	%	回答数
全国	9,874	100.0	1,507
01北海道	298	3.0	38
02青森県	75	0.8	21
03岩手県	104	1.1	14
04宮城県	168	1.7	23
05秋田県	63	0.6	8
06山形県	95	1.0	5
07福島県	140	1.4	7
08茨城県	292	3.0	44
09栃木県	178	1.8	22
10群馬県	159	1.6	19
11埼玉県	639	6.5	67
12千葉県	543	5.5	71
13東京都	1,501	15.2	253
14神奈川県	897	9.1	188
15山梨県	59	0.6	34
16長野県	184	1.9	26
17新潟県	156	1.6	33
18富山県	107	1.1	26
19石川県	131	1.3	31
20福井県	61	0.6	7
21静岡県	480	4.9	64
22愛知県	402	4.1	38
23三重県	117	1.2	60
24岐阜県	188	1.9	27
25滋賀県	119	1.2	12
26京都府	140	1.4	19
27大阪府	331	3.4	64
28兵庫県	382	3.9	44
29奈良県	88	0.9	14
30和歌山県	65	0.6	13
31鳥取県	66	0.7	11
32島根県	52	0.5	9
33岡山県	127	1.3	35
34広島県	206	2.1	32
35山口県	114	1.2	7
36香川県	98	1.0	3
37徳島県	65	0.6	10
38愛媛県	116	1.2	5
39高知県	49	0.5	4
40福岡県	180	1.8	24
41佐賀県	62	0.6	9
42長崎県	82	0.8	10
43熊本県	119	1.2	15
44大分県	90	0.9	9
45宮崎県	78	0.8	13
46鹿児島県	88	0.9	11
47沖縄県	122	1.2	8

## 回答者とサッカーとの関係

回答者とサッカーとの関係をたずねたところ、「審判員」が66.5%と最も高く、次いで「指導者」が56.3%、「チーム関係者」が50.3%であった。その他に少数ではあったが、「サッカー協会の役員や市区町村の役員」からも回答があった（図A-2）。

【図A-2】回答者とサッカーとの関係（複数回答可）





## A. 回答者の属性

回答者とサッカーとの関係を都道府県別にみたところ、指導者の割合が最も高かった県は「和歌山県」が78.1%であり、審判員は「鹿児島県」が75.0%、選手は「香川県」が49.0%、保護者は「沖縄県」が48.4%であった（表A-2）。

【表A-2】回答者とサッカーとの関係（複数回答可）／都道府県別①

都道府県	回答者	選択肢 (%)					
		チーム関係者	スクール関係者	指導者	審判員	選手	保護者
全国	9,874	50.3	7.5	56.3	66.5	30.5	30.1
01北海道	298	50.7	8.1	56.4	70.5	35.2	26.8
02青森県	75	44.0	17.3	52.0	56.0	26.7	26.7
03岩手県	104	45.2	6.7	58.7	70.2	23.1	29.8
04宮城県	168	53.0	6.0	56.0	66.1	31.5	26.8
05秋田県	63	52.4	9.5	49.2	73.0	36.5	30.2
06山形県	95	50.5	2.1	49.5	74.7	34.7	37.9
07福島県	140	45.0	10.0	47.9	74.3	28.6	29.3
08茨城県	292	56.8	4.8	58.2	72.9	22.6	38.7
09栃木県	178	51.1	6.2	47.2	73.0	25.8	30.3
10群馬県	159	43.4	6.9	43.4	62.3	37.1	28.9
11埼玉県	639	46.9	6.4	55.7	70.7	27.9	29.6
12千葉県	543	56.5	5.0	61.9	71.8	19.7	35.0
13東京都	1,501	53.5	5.5	53.4	68.4	34.3	33.1
14神奈川県	897	52.4	4.1	57.0	67.8	27.0	38.1
15山梨県	59	45.8	5.1	59.3	47.5	47.5	13.6
16長野県	184	44.0	12.5	43.5	63.6	30.4	36.4
17新潟県	156	51.3	3.8	59.0	62.2	30.8	32.1
18富山県	107	43.0	5.6	63.6	71.0	30.8	26.2
19石川県	131	48.1	7.6	39.7	64.9	26.7	32.1
20福井県	61	49.2	11.5	67.2	62.3	47.5	36.1
21静岡県	480	46.9	6.7	55.0	63.1	21.0	31.7
22愛知県	402	49.5	13.7	60.2	67.4	35.1	21.4
23三重県	117	43.6	13.7	76.1	72.6	30.8	19.7
24岐阜県	188	51.6	4.8	67.0	74.5	28.2	37.2
25滋賀県	119	53.8	11.8	71.4	58.8	16.8	23.5
26京都府	140	58.6	7.1	57.9	64.3	40.0	20.0
27大阪府	331	47.7	10.3	59.5	57.4	27.5	15.4
28兵庫県	382	52.1	6.0	63.1	60.5	35.1	26.2
29奈良県	88	48.9	8.0	56.8	60.2	23.9	20.5
30和歌山県	64	60.9	12.5	78.1	62.5	23.4	29.7
31鳥取県	66	62.1	6.1	66.7	62.1	30.3	31.8
32島根県	52	44.2	13.5	53.8	65.4	32.7	23.1
33岡山県	127	52.8	16.5	59.1	70.9	33.1	22.8
34広島県	206	40.3	5.8	53.9	61.2	38.8	27.2
35山口県	114	51.8	14.0	63.2	57.9	42.1	27.2
36香川県	98	48.0	8.2	44.9	69.4	49.0	39.8
37徳島県	64	45.3	9.4	50.0	65.6	25.0	32.8
38愛媛県	116	50.9	17.2	52.6	68.1	44.8	18.1
39高知県	49	46.9	10.2	57.1	63.3	38.8	24.5
40福岡県	180	47.8	11.1	57.8	55.6	28.9	25.0
41佐賀県	62	54.8	8.1	69.4	61.3	37.1	12.9
42長崎県	82	39.0	3.7	58.5	68.3	31.7	30.5
43熊本県	119	46.2	12.6	45.4	44.5	26.9	28.6
44大分県	90	44.4	16.7	45.6	57.8	35.6	21.1
45宮崎県	78	51.3	5.1	59.0	70.5	39.7	38.5
46鹿児島県	88	43.2	6.8	53.4	75.0	37.5	20.5
47沖縄県	122	43.4	4.9	47.5	69.7	27.0	48.4

# A. 回答者の属性

回答者とサッカーとの関係をたずねたところ、ファン・サポーターの割合が最も高かった県は「香川県」が22.4%であり、JFA/地域/都道府県サッカー協会の役員は「佐賀県」が21.0%、各種連盟の役員は「鹿児島県」が11.4%、地区/市区町村サッカー協会の役員は「山形県」が26.3%であった（表A-3）。

【表A-3】回答者とサッカーとの関係（複数回答可）／都道府県別②

ファン・サポーター	選択肢 (%)					回答者	都道府県
	JFA/地域/都道府県サッカー協会の役員	各種連盟の役員	地区/市区町村サッカー協会の役員	其他地区/市区町村の役員	その他		
15.5	6.5	4.6	12.4	1.3	1.3	9,874	全国
14.4	6.0	7.7	21.5	1.7	0.7	298	01北海道
9.3	14.7	1.3	12.0	1.3	1.3	75	02青森県
8.7	6.7	7.7	16.3	0.0	4.8	104	03岩手県
13.1	11.3	3.0	12.5	2.4	3.0	168	04宮城県
15.9	7.9	4.8	20.6	1.6	3.2	63	05秋田県
9.5	13.7	2.1	26.3	2.1	2.1	95	06山形県
11.4	5.0	3.6	10.7	2.1	1.4	140	07福島県
15.8	7.2	5.5	19.2	2.4	0.7	292	08茨城県
11.2	4.5	6.2	9.6	1.1	0.0	178	09栃木県
10.7	8.8	6.3	15.1	0.6	0.0	159	10群馬県
17.5	2.0	4.5	10.0	1.4	1.3	639	11埼玉県
16.2	3.7	3.9	14.4	1.3	1.8	543	12千葉県
19.5	2.8	5.1	10.1	0.8	1.2	1,501	13東京都
19.4	2.7	2.3	7.5	0.3	1.4	897	14神奈川県
8.5	16.9	5.1	10.2	0.0	0.0	59	15山梨県
15.2	7.6	6.0	16.3	2.2	0.5	184	16長野県
14.7	7.1	4.5	13.5	2.6	0.0	156	17新潟県
10.3	8.4	6.5	8.4	1.9	0.0	107	18富山県
16.0	10.7	10.7	10.7	0.0	1.5	131	19石川県
8.2	11.5	4.9	21.3	1.6	0.0	61	20福井県
16.3	8.3	3.1	16.9	1.5	1.0	480	21静岡県
16.7	6.5	5.2	13.2	1.0	2.2	402	22愛知県
12.0	19.7	10.3	19.7	3.4	1.7	117	23三重県
13.3	6.4	3.7	14.4	2.1	1.6	188	24岐阜県
6.7	16.8	4.2	8.4	1.7	0.0	119	25滋賀県
10.7	5.7	10.0	12.1	3.6	1.4	140	26京都府
16.0	6.6	5.1	7.3	0.6	1.8	331	27大阪府
16.0	5.2	2.9	13.4	0.5	0.8	382	28兵庫県
9.1	9.1	5.7	9.1	3.4	1.1	88	29奈良県
14.1	7.8	6.3	14.1	4.7	1.6	64	30和歌山県
12.1	7.6	6.1	7.6	3.0	0.0	66	31鳥取県
11.5	9.6	1.9	11.5	0.0	0.0	52	32島根県
16.5	16.5	7.9	16.5	2.4	2.4	127	33岡山県
16.5	6.3	2.9	10.7	0.0	1.5	206	34広島県
19.3	9.6	4.4	13.2	0.9	0.9	114	35山口県
22.4	8.2	1.0	5.1	1.0	0.0	98	36香川県
12.5	12.5	3.1	10.9	1.6	0.0	64	37徳島県
10.3	9.5	3.4	12.9	2.6	0.0	116	38愛媛県
14.3	16.3	0.0	10.2	2.0	0.0	49	39高知県
8.9	7.2	2.2	10.6	3.3	2.2	180	40福岡県
12.9	21.0	4.8	16.1	1.6	0.0	62	41佐賀県
17.1	11.0	2.4	19.5	1.2	2.4	82	42長崎県
16.0	6.7	2.5	10.1	0.0	3.4	119	43熊本県
15.6	13.3	6.7	5.6	1.1	1.1	90	44大分県
7.7	9.0	6.4	16.7	0.0	0.0	78	45宮崎県
10.2	6.8	11.4	15.9	3.4	0.0	88	46鹿児島県
8.2	13.1	4.9	11.5	2.5	2.5	122	47沖縄県

## A. 回答者の属性

回答者とサッカーとの関係について、2つの立場に関わっている状況をたずねました。下の表（表A-4）において、灰色で塗りつぶされた数値（①）は回答者数を、塗りつぶしなしの数値（②）は全回答者（9,874人）に対する回答者の割合を示した。また、①と②の数値は青で塗りつぶされたマスを軸に対称に位置している。回答者とサッカーとの関係で2つの立場で関わっている組み合わせは「指導者かつ審判員」が40.6%と最も高く、次いで「チーム関係者かつ審判員」が37.3%、「チーム関係者かつ指導員」が34.8%であった。

【表A-4】回答者とサッカーとの関係／複数回答の集計

	チーム関係者	スクール関係者	指導者	審判員	選手	保護者	ファン・サポーター	JFA/地域/都道府県サッカー協会の役員	各種連盟の役員	地区/市区町村サッカー協会の役員	その他地区/市区町村の役員	その他
チーム関係者	4,963 50.3%	5.6%	34.8%	37.3%	14.1%	14.5%	7.5%	4.6%	3.7%	9.1%	1.0%	0.5%
スクール関係者	555	736 7.5%	6.3%	4.9%	2.1%	1.6%	1.1%	1.0%	0.8%	1.5%	0.2%	0.1%
指導者	3,432	624	5,563 56.3%	40.6%	12.0%	15.5%	7.4%	4.7%	3.5%	9.5%	1.1%	0.5%
審判員	3,681	481	4,008	6,571 66.5%	21.5%	21.8%	12.1%	4.6%	3.6%	9.7%	1.1%	0.5%
選手	1,391	210	1,188	2,119	3,012 30.5%	6.3%	6.6%	1.8%	1.3%	3.7%	0.4%	0.2%
保護者	1,427	154	1,530	2,152	618	2,975 30.1%	6.5%	0.8%	0.7%	1.8%	0.2%	0.2%
ファン・サポーター	736	109	733	1,197	656	644	1,532 15.5%	0.9%	0.6%	1.7%	0.1%	0.3%
JFA/地域/都道府県サッカー協会の役員	458	97	468	458	181	79	84	645 6.5%	1.9%	2.8%	0.3%	0.1%
各種連盟の役員	362	75	348	351	130	67	63	191	459 4.6%	2.1%	0.3%	0.1%
地区/市区町村サッカー協会の役員	899	149	939	960	365	180	164	276	205	1,222 12.4%	0.6%	0.1%
その他地区/市区町村の役員	101	18	107	105	38	24	11	31	31	60	131 1.3%	0.0%
その他	47	12	49	54	22	19	31	10	7	12	1	126 1.3%

**チームやスクールの属性**

## チームやスクールの状況

※本章における「チームやスクール」は回答者が関係しているチームやスクールを指す。

チームやスクールで実施している種目についてたずねたところ、「サッカー」が98.0%、「フットサル」が23.5%、「ビーチサッカー」が1.0%、「障がい者サッカー」が1.4%であった。また、「サッカーのみ」が75.4%、「フットサルのみ」が1.7%、「ビーチサッカーのみ」が0.01%、「障がい者サッカーのみ」が0.2%であった（表B-1）。

それぞれの実施種目別に実施状況をみると、サッカーを選択した人の中で割合が最も高かった組み合わせは、「サッカーのみ」で、サッカーを選択した人全体の77.0%であった。フットサルを選択した人の中で割合が最も高かった組み合わせは、「サッカーとフットサル」で、フットサルを選択した人全体の88.0%であった。ビーチサッカーを選択した人の中で割合が最も高かった組み合わせは、「サッカーとフットサルとビーチサッカー」で、ビーチサッカーを選択した人全体の70.4%であった。障がい者サッカーを選択した人の中で割合が最も高かった組み合わせは、「サッカーと障がい者サッカー」で、障がい者サッカーを選択した人全体の50.9%であった。

実施種目がサッカーとフットサルの両方を実施している人は、サッカーを選択した人全体の22.1%であり、フットサルを選択した人全体の92.5%であった。サッカーとビーチサッカーの両方を実施している人は、ビーチサッカーを選択した人全体の93.8%であった。サッカーと障がい者サッカーの両方を実施している人は、障がい者サッカーを選択した人全体の78.4%であった。

【表B-1】チームやスクールで実施している種目

	回答の組み合わせ				回答数	対全回答	対サッカー	対フットサル	対ビーチサッカー	対障がい者サッカー
						8,471	8,298	1,988	81	116
A	サッカー	フットサル	ビーチサッカー	障がい者サッカー	6	0.1%	0.1%	0.3%	7.4%	5.2%
B	サッカー	フットサル	ビーチサッカー		57	0.7%	0.7%	2.9%	70.4%	
C	サッカー	フットサル		障がい者サッカー	26	0.3%	0.3%	1.3%		22.4%
D	サッカー	フットサル			1,749	20.7%	21.0%	88.0%		
E	サッカー		ビーチサッカー	障がい者サッカー	0	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%
F	サッカー		ビーチサッカー		13	0.2%	0.2%		16.0%	
G	サッカー			障がい者サッカー	59	0.7%	0.7%			50.9%
H	サッカー				6,388	75.4%	77.0%			
I		フットサル	ビーチサッカー	障がい者サッカー	2	0.0%		0.1%	2.5%	1.7%
J		フットサル	ビーチサッカー		2	0.0%		0.1%	2.5%	
K		フットサル		障がい者サッカー	2	0.0%		0.1%		1.7%
L		フットサル			144	1.7%		7.2%		
M			ビーチサッカー	障がい者サッカー	0	0.0%			0.0%	0.0%
N			ビーチサッカー		1	0.0%			1.2%	
O				障がい者サッカー	21	0.2%				18.1%
P	サッカーとフットサルの両方を含む（A～Dの合計）				1,838	21.7%	22.1%	92.5%		
Q	フットサルとビーチサッカーの両方を含む（A,B,I,Jの合計）				67	0.8%		3.4%	82.7%	
R	サッカーとビーチサッカーの両方を含む（A,B,E,Fの合計）				76	0.9%	0.9%		93.8%	
S	サッカーまたはフットサルとビーチサッカーを含む（A,B,E,F,I,Jの合計）				80	0.9%			98.8%	
T	サッカーと障がい者サッカーの両方を含む（A,C,E,Gの合計）				91	1.1%	1.1%			78.4%
U	フットサルと障がい者サッカーの両方を含む（A,C,I,Kの合計）				36	0.4%		1.8%		31.0%
V	サッカーまたはフットサルと障がい者サッカーの両方を含む（A,C,E,G,I,Kの合計）				95	1.1%				81.9%

チームやスクールで実施している種目を都道府県別にみると、サッカーは全都道府県において90.0%以上であった（表B-2）。フットサルは「北海道」が69.6%と最も高く、次いで「新潟県」が53.4%、「秋田県」が51.0%であった。ビーチサッカーは「岡山県」が5.4%と最も高く、障がい者サッカーは「大分県」が3.8%と最も高かった。特にフットサルは「北海道」の69.6%から「熊本県」の5.3%と都道府県によって大きな差があり、冬季に屋外での活動が限定される地域では実施割合が高かった。

【表B-2】チームやスクールで実施している種目（複数回答可）／都道府県別

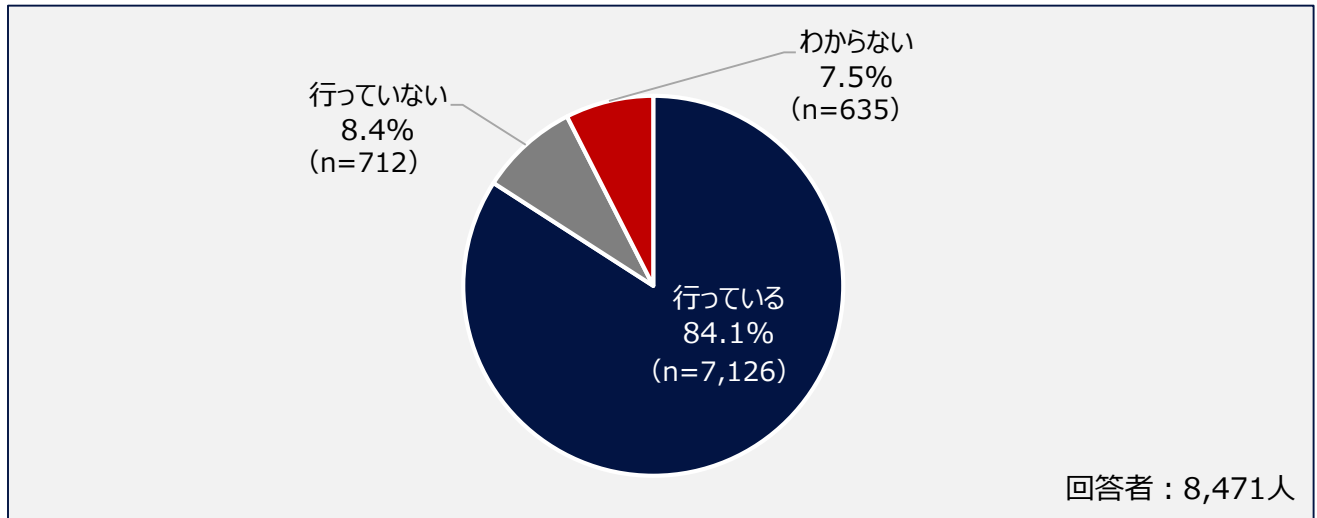
都道府県	回答者数	選択肢（%）				
		サッカー	フットサル	ビーチサッカー	障がい者サッカー	その他
全国	8,471	98.0	23.5	1.0	1.4	0.2
01北海道	257	96.1	69.6	0.4	3.5	0.0
02青森県	59	96.6	39.0	3.4	0.0	0.0
03岩手県	85	97.6	50.6	1.2	1.2	0.0
04宮城県	140	99.3	20.7	0.0	2.1	0.7
05秋田県	49	98.0	51.0	0.0	0.0	2.0
06山形県	79	100.0	40.5	2.5	0.0	0.0
07福島県	113	98.2	43.4	0.0	0.0	0.0
08茨城県	251	100.0	18.3	0.4	2.4	0.4
09栃木県	156	98.1	26.9	0.6	0.6	0.0
10群馬県	132	98.5	9.1	0.0	1.5	0.0
11埼玉県	543	98.3	14.0	0.4	0.9	0.4
12千葉県	476	98.7	16.0	1.1	0.8	0.0
13東京都	1,288	98.3	23.4	0.4	1.3	0.2
14神奈川県	770	98.2	17.5	0.5	1.2	0.3
15山梨県	50	98.0	8.0	0.0	0.0	2.0
16長野県	153	100.0	21.6	1.3	1.3	0.0
17新潟県	133	97.7	53.4	1.5	0.8	0.8
18富山県	98	98.0	31.6	0.0	1.0	0.0
19石川県	104	99.0	26.9	0.0	1.9	0.0
20福井県	55	98.2	36.4	1.8	0.0	0.0
21静岡県	406	98.0	20.7	2.0	2.2	0.2
22愛知県	342	98.0	14.6	0.9	1.5	0.0
23三重県	102	97.1	20.6	4.9	2.0	0.0
24岐阜県	175	98.3	24.0	0.0	1.7	0.0
25滋賀県	110	98.2	17.3	0.0	0.9	0.0
26京都府	121	99.2	10.7	0.8	1.7	0.8
27大阪府	273	96.7	17.9	1.1	1.8	0.4
28兵庫県	347	94.8	32.3	1.4	2.6	0.0
29奈良県	77	98.7	11.7	1.3	2.6	0.0
30和歌山県	57	98.2	15.8	0.0	1.8	0.0
31鳥取県	62	98.4	38.7	4.8	0.0	1.6
32島根県	44	95.5	31.8	0.0	0.0	0.0
33岡山県	112	94.6	25.0	5.4	2.7	1.8
34広島県	168	97.0	13.7	1.2	1.8	0.0
35山口県	101	97.0	16.8	2.0	0.0	0.0
36香川県	87	98.9	24.1	1.1	1.1	0.0
37徳島県	55	100.0	25.5	1.8	0.0	0.0
38愛媛県	105	98.1	20.0	0.0	1.0	0.0
39高知県	43	90.7	25.6	0.0	0.0	0.0
40福岡県	150	98.0	25.3	3.3	2.0	0.0
41佐賀県	58	96.6	24.1	1.7	0.0	3.4
42長崎県	69	95.7	33.3	2.9	0.0	0.0
43熊本県	95	98.9	5.3	1.1	0.0	0.0
44大分県	78	96.2	14.1	1.3	3.8	2.6
45宮崎県	71	100.0	15.5	1.4	0.0	0.0
46鹿児島県	70	98.6	21.4	0.0	0.0	0.0
47沖縄県	102	99.0	34.3	0.0	0.0	0.0

## B. チームやスクールの属性

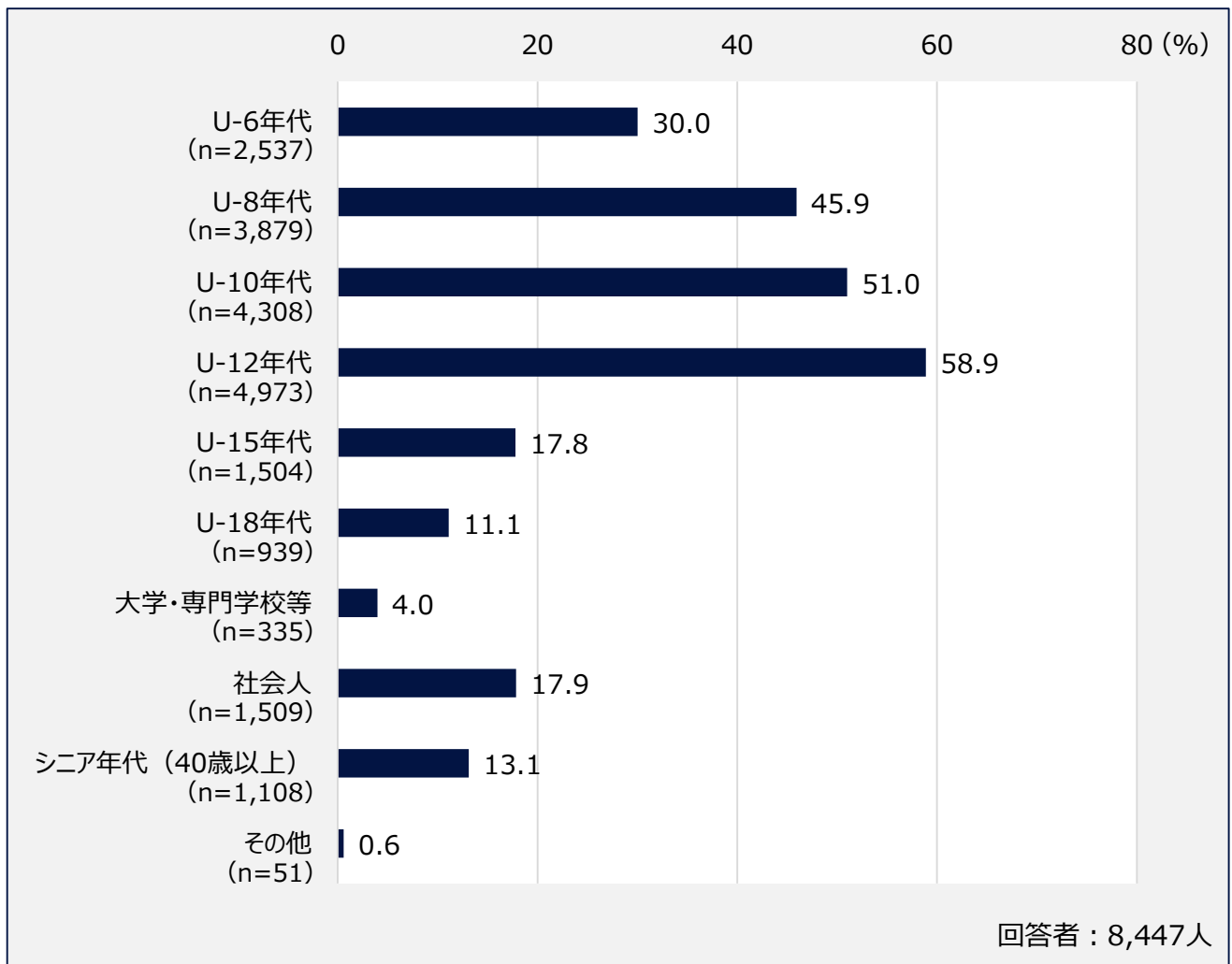
チームやスクールがJFAチームに登録しているかどうかをたずねたところ、「行っている」が84.1%、「行っていない」が8.4%、「わからない」が7.5%であった（図B-1）。

回答者が関わっているチームやスクールに所属している選手の年代をたずねたところ、「U-12年代」が58.9%と最も高く、「大学・専門学校等」が4.0%と最も低かった。また、「U-12年代」（58.9%）と「U-15年代」（17.8%）では、41.1ポイントと大きな差があった（図B-2）。

【図B-1】JFAチーム登録の有無



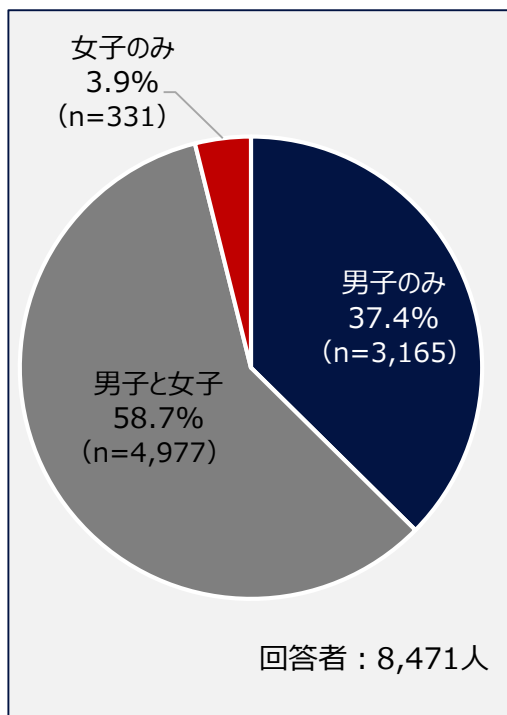
【図B-2】チームやスクールに所属している選手の年代（複数回答可）



## B. チームやスクールの属性

回答者が関わっているチームやスクールで活動している選手を性別にみたところ、男子と女子が一緒に活動している割合が最も多く（58.7%）、次いで男子のみ（37.4%）、女子のみ（3.9%）であった（図B-3）。さらに都道府県別にみたところ、男子と女子が一緒に活動している割合は「鳥取県」が72.7%と最も高く、男子のみは「石川県」が57.7%と最も高く、女子のみは「徳島県」が16.4%と最も高かった（表B-3）。

【図B-3】チームやスクールに所属している選手の性別



【表B-3】チームやスクールに所属している選手の性別／都道府県別

都道府県	回答者	選択肢 (%)		
		男子のみ	男子と女子	女子のみ
全国	8,471	37.4	58.7	3.9
01北海道	257	36.2	61.1	2.7
02青森県	59	33.9	66.1	0.0
03岩手県	85	34.1	62.4	3.5
04宮城県	140	47.1	49.3	3.6
05秋田県	49	38.8	59.2	2.0
06山形県	79	31.6	60.8	7.6
07福島県	113	44.2	52.2	3.5
08茨城県	251	35.1	61.4	3.6
09栃木県	156	41.7	55.8	2.6
10群馬県	132	42.4	53.8	3.8
11埼玉県	543	35.9	60.2	3.9
12千葉県	476	29.0	67.9	3.2
13東京都	1,288	33.5	62.4	4.1
14神奈川県	770	30.0	67.0	3.0
15山梨県	50	52.0	44.0	4.0
16長野県	153	41.8	54.2	3.9
17新潟県	133	45.1	50.4	4.5
18富山県	98	51.0	43.9	5.1
19石川県	104	57.7	40.4	1.9
20福井県	55	43.6	54.5	1.8
21静岡県	406	39.2	56.7	4.2
22愛知県	342	41.2	53.5	5.3
23三重県	102	33.3	61.8	4.9
24岐阜県	175	32.0	66.3	1.7
25滋賀県	110	31.8	64.5	3.6
26京都府	121	39.7	57.0	3.3
27大阪府	273	38.5	59.3	2.2
28兵庫県	347	34.9	56.8	8.4
29奈良県	77	39.0	59.7	1.3
30和歌山県	57	35.1	64.9	0.0
31鳥取県	62	30.6	62.9	6.5
32島根県	44	20.5	72.7	6.8
33岡山県	112	39.3	54.5	6.3
34広島県	168	41.7	54.8	3.6
35山口県	101	41.6	52.5	5.9
36香川県	87	46.0	51.7	2.3
37徳島県	55	29.1	54.5	16.4
38愛媛県	105	55.2	41.0	3.8
39高知県	43	44.2	51.2	4.7
40福岡県	150	44.0	53.3	2.7
41佐賀県	58	36.2	62.1	1.7
42長崎県	69	42.0	53.6	4.3
43熊本県	95	48.4	47.4	4.2
44大分県	78	53.8	43.6	2.6
45宮崎県	71	40.8	56.3	2.8
46鹿児島県	70	41.4	57.1	1.4
47沖縄県	102	45.1	49.0	5.9



## B. チームやスクールの属性

チームやスクールに所属している人数を都道府県別にみたところ、10人以下は「和歌山県」が7.0%と最も高く、次いで「福島」が6.3%、「秋田県」が6.1%であった。51～100人と101～150人が所属しているチームやスクールの割合はいずれも「千葉県」「東京都」「神奈川県」が上位3位であった。151人以上が所属しているチームやスクールの割合は、「大阪府」が8.5%と最も高く、次いで「山梨県」が8.2%、「愛知県」が7.1%であった（表B-4）。

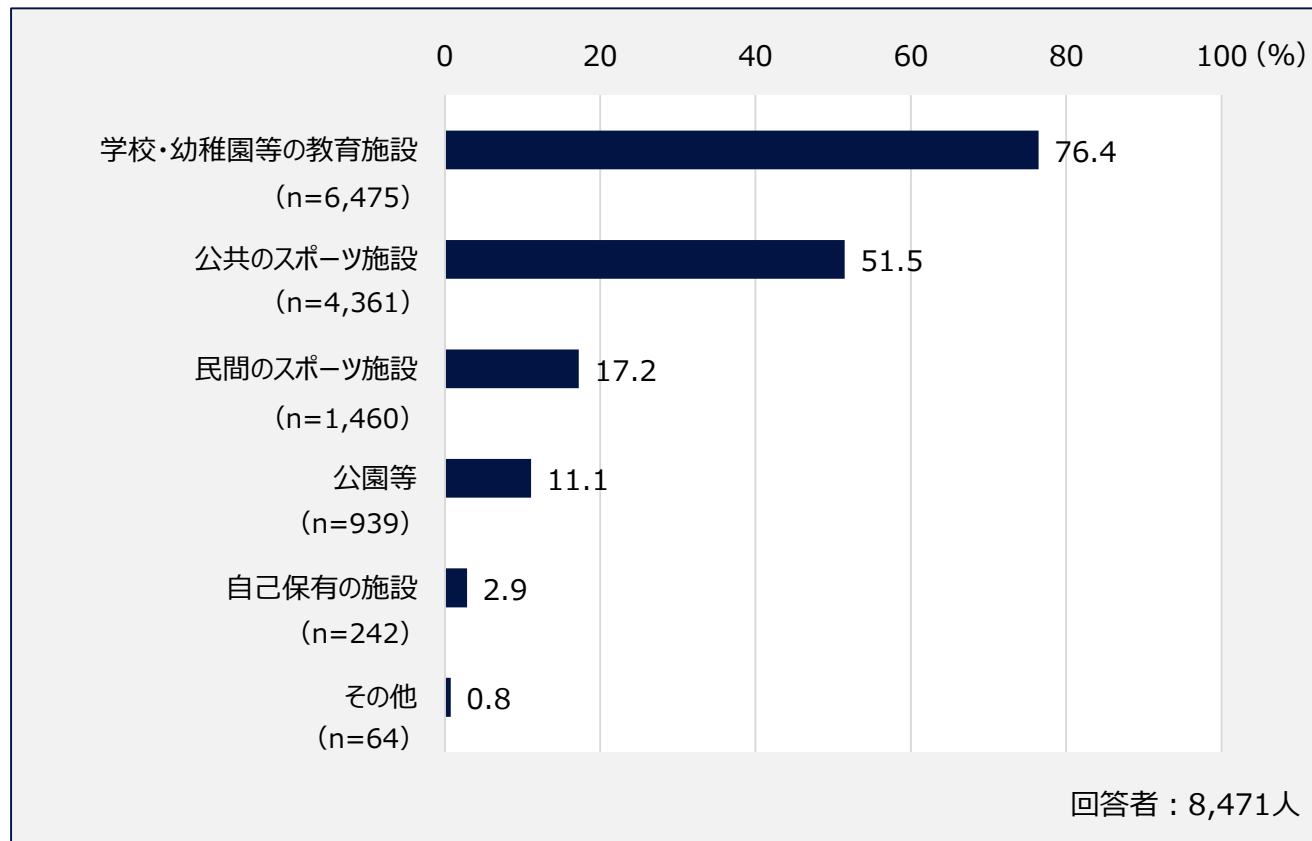
【表B-4】チームやスクールに所属している選手の人数／都道府県別

都道府県	回答者	選択肢 (%)							
		10人以下	11～20人	21～30人	31～40人	41～50人	51～100人	101～150人	151人以上
全国	8,471	2.2	17.3	20.7	14.0	11.2	26.5	4.9	3.2
01北海道	257	1.9	22.6	29.2	17.1	12.8	13.2	1.6	1.6
02青森県	59	3.5	15.8	33.3	17.5	12.3	14.0	3.5	0.0
03岩手県	85	2.4	11.8	34.1	18.8	11.8	18.8	2.4	0.0
04宮城県	140	5.0	19.3	32.9	17.1	9.3	13.6	1.4	1.4
05秋田県	49	6.1	24.5	12.2	10.2	28.6	16.3	0.0	2.0
06山形県	79	5.1	16.5	29.1	24.1	10.1	13.9	1.3	0.0
07福島県	113	6.3	25.0	27.7	21.4	9.8	7.1	0.9	1.8
08茨城県	251	1.6	20.8	21.6	15.6	11.6	20.8	5.6	2.4
09栃木県	156	1.9	29.0	26.5	14.8	14.8	7.1	3.9	1.9
10群馬県	132	2.3	17.7	33.8	19.2	7.7	16.2	2.3	0.8
11埼玉県	543	2.0	15.6	19.3	12.6	12.3	32.7	3.9	1.5
12千葉県	476	2.1	17.1	12.6	9.8	9.4	35.4	10.2	3.4
13東京都	1,288	1.0	14.0	15.9	10.1	9.7	36.2	8.9	4.2
14神奈川県	770	2.6	13.9	15.4	8.6	10.6	37.3	8.1	3.5
15山梨県	50	0.0	16.3	24.5	22.4	4.1	18.4	6.1	8.2
16長野県	153	2.7	18.0	20.7	12.0	10.7	26.7	4.0	5.3
17新潟県	133	1.5	15.0	25.6	17.3	15.0	20.3	4.5	0.8
18富山県	98	2.1	18.6	32.0	12.4	17.5	14.4	2.1	1.0
19石川県	104	2.9	23.1	22.1	17.3	10.6	16.3	4.8	2.9
20福井県	55	0.0	21.8	21.8	14.5	18.2	20.0	1.8	1.8
21静岡県	406	3.2	17.9	15.6	15.6	13.2	28.3	3.7	2.5
22愛知県	342	1.8	14.2	20.1	13.9	11.5	25.7	5.9	7.1
23三重県	102	3.0	15.8	25.7	16.8	21.8	13.9	0.0	3.0
24岐阜県	175	5.7	16.6	17.1	16.0	15.4	25.1	1.7	2.3
25滋賀県	110	0.0	12.7	15.5	12.7	12.7	34.5	6.4	5.5
26京都府	121	1.7	13.3	18.3	15.8	10.8	29.2	4.2	6.7
27大阪府	273	1.1	9.9	21.0	11.8	12.5	29.8	5.5	8.5
28兵庫県	347	2.0	20.1	19.5	13.1	8.1	30.5	4.1	2.6
29奈良県	77	1.3	20.8	18.2	13.0	9.1	32.5	2.6	2.6
30和歌山県	57	7.0	17.5	17.5	19.3	15.8	15.8	3.5	3.5
31鳥取県	62	1.6	16.4	47.5	14.8	6.6	9.8	3.3	0.0
32島根県	44	2.3	6.8	31.8	13.6	9.1	34.1	2.3	0.0
33岡山県	112	0.9	22.7	20.9	22.7	6.4	20.9	1.8	3.6
34広島県	168	1.8	19.2	22.2	15.6	13.8	21.0	4.2	2.4
35山口県	101	3.0	21.0	17.0	24.0	17.0	14.0	3.0	1.0
36香川県	87	2.3	14.9	27.6	13.8	8.0	29.9	1.1	2.3
37徳島県	55	1.8	29.1	29.1	25.5	9.1	5.5	0.0	0.0
38愛媛県	105	1.9	21.2	19.2	20.2	10.6	20.2	1.9	4.8
39高知県	43	2.3	23.3	18.6	16.3	4.7	32.6	0.0	2.3
40福岡県	150	2.0	16.8	26.2	18.1	10.1	19.5	2.0	5.4
41佐賀県	58	1.7	20.7	24.1	22.4	12.1	17.2	0.0	1.7
42長崎県	69	2.9	26.5	27.9	20.6	5.9	8.8	1.5	5.9
43熊本県	95	0.0	15.2	29.3	10.9	13.0	25.0	2.2	4.3
44大分県	78	3.9	16.9	26.0	23.4	11.7	11.7	2.6	3.9
45宮崎県	71	0.0	25.4	32.4	14.1	7.0	21.1	0.0	0.0
46鹿児島県	70	2.9	30.0	28.6	17.1	7.1	14.3	0.0	0.0
47沖縄県	102	2.0	27.5	19.6	16.7	9.8	20.6	3.9	0.0

## B. チームやスクールの属性

チームやスクールが主に活動している場所についてたずねたところ、「学校・幼稚園等の教育施設」が76.4%と最も高く、次いで「公共のスポーツ施設」が51.5%であった（図B-4）。「自己保有の施設（その団体が保有している施設）」で活動している割合は2.9%であり、グラウンド等を自己保有しているチームやスクールはとてま少なかつた。その他の回答からは「企業のグラウンド」「高速道路の高架下広場」「旧中学校跡地のグラウンド」等の回答があつた（表B-5）。

【図B-4】チームやスクールの主な活動場所（複数回答可）



【表B-5】チームやスクールの主な活動場所（その他の回答）

その他の回答（一部抜粋）
企業のグラウンド
高速道路の高架下広場
旧中学校跡地のグラウンド
市からの委託管理施設
スポンサーさん所有施設

## B. チームやスクールの属性

チームやスクールが主に活動している場所を都道府県別にみたところ、全体として「学校・幼稚園等の教育施設」を利用している県が多い一方で、「秋田県」「香川県」のように、「学校や幼稚園等の教育施設」よりも「公共のスポーツ施設」を利用している割合が多い県もあった（表B-6）。また、「福井県」「和歌山県」「高知県」「長崎県」では、「自己保有の施設（その団体が保有している施設）」の回答はなかった。

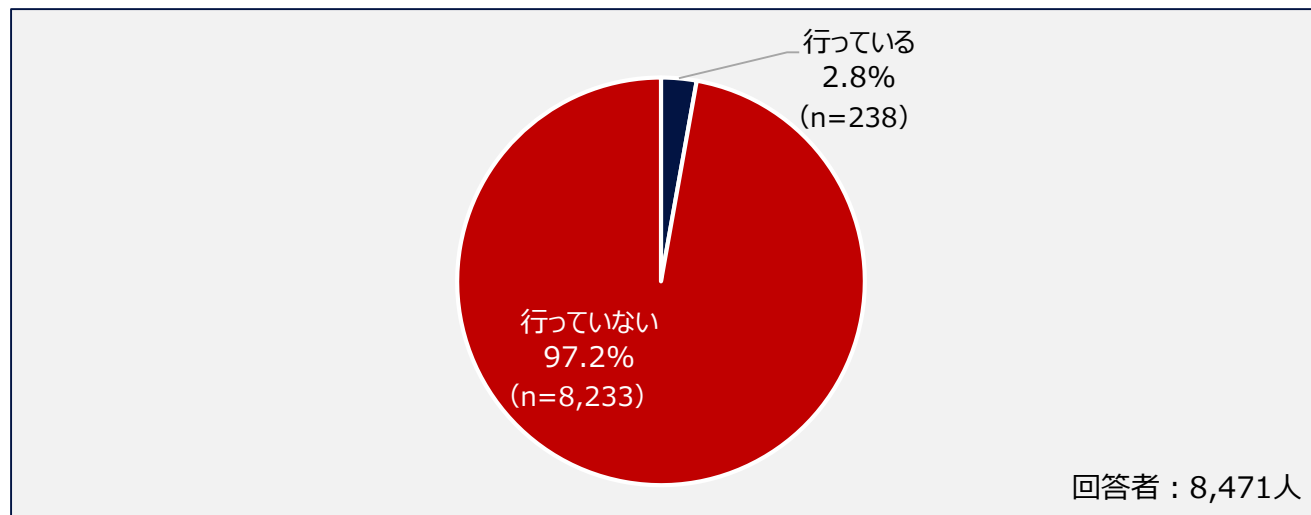
【表B-6】チームやスクールの主な活動場所（複数回答可）／都道府県別

都道府県	回答数	公共の スポーツ施設	公園等	学校・幼稚園等の 教育施設	民間の スポーツ施設	自己保有の施設	その他
全国	8,471	51.5	11.1	76.4	17.2	2.9	0.8
01北海道	257	58.0	11.7	71.6	17.9	1.6	0.4
02青森県	59	49.2	5.1	74.6	8.5	5.1	0.0
03岩手県	85	57.6	3.5	87.1	8.2	1.2	0.0
04宮城県	140	45.7	6.4	74.3	19.3	4.3	0.0
05秋田県	49	63.3	2.0	59.2	12.2	2.0	0.0
06山形県	79	65.8	1.3	81.0	15.2	1.3	0.0
07福島県	113	65.5	1.8	77.0	23.9	2.7	0.0
08茨城県	251	48.2	10.4	77.7	14.7	3.6	3.2
09栃木県	156	55.1	7.7	72.4	14.1	0.6	0.0
10群馬県	132	46.2	11.4	63.6	15.2	5.3	0.0
11埼玉県	543	52.3	14.9	76.8	16.2	3.1	0.0
12千葉県	476	38.0	7.4	88.2	14.7	2.5	1.1
13東京都	1,288	57.5	10.6	80.5	19.3	1.6	0.4
14神奈川県	770	53.6	21.6	82.6	22.2	2.5	0.6
15山梨県	50	52.0	4.0	68.0	22.0	4.0	0.0
16長野県	153	64.7	6.5	73.2	11.1	2.0	0.7
17新潟県	133	50.4	10.5	80.5	19.5	3.8	0.0
18富山県	98	39.8	7.1	88.8	20.4	5.1	0.0
19石川県	104	51.9	7.7	76.0	19.2	3.8	3.8
20福井県	55	49.1	7.3	80.0	5.5	0.0	1.8
21静岡県	406	44.8	6.2	78.8	16.0	4.7	2.0
22愛知県	342	45.3	16.4	74.9	17.8	2.9	0.9
23三重県	102	42.2	6.9	84.3	16.7	1.0	0.0
24岐阜県	175	62.9	10.3	74.3	9.7	1.7	1.1
25滋賀県	110	61.8	9.1	76.4	15.5	6.4	0.9
26京都府	121	47.9	14.9	74.4	18.2	2.5	1.7
27大阪府	273	45.4	15.0	77.3	27.8	3.3	0.0
28兵庫県	347	48.7	14.4	69.5	22.8	5.5	1.2
29奈良県	77	49.4	6.5	72.7	20.8	7.8	0.0
30和歌山県	57	57.9	8.8	61.4	3.5	0.0	0.0
31鳥取県	62	56.5	8.1	69.4	17.7	8.1	1.6
32島根県	44	63.6	9.1	72.7	9.1	2.3	0.0
33岡山県	112	55.4	5.4	66.1	18.8	4.5	0.0
34広島県	168	37.5	11.9	80.4	15.5	1.8	0.0
35山口県	101	48.5	4.0	70.3	14.9	2.0	1.0
36香川県	87	65.5	9.2	58.6	19.5	2.3	0.0
37徳島県	55	50.9	7.3	63.6	9.1	5.5	0.0
38愛媛県	105	51.4	8.6	71.4	11.4	3.8	0.0
39高知県	43	51.2	4.7	69.8	9.3	0.0	0.0
40福岡県	150	46.7	15.3	72.0	20.0	2.0	1.3
41佐賀県	58	53.4	6.9	60.3	1.7	1.7	3.4
42長崎県	69	49.3	4.3	71.0	11.6	0.0	1.4
43熊本県	95	58.9	8.4	69.5	14.7	3.2	1.1
44大分県	78	48.7	6.4	57.7	24.4	1.3	2.6
45宮崎県	71	56.3	12.7	57.7	12.7	5.6	1.4
46鹿児島県	70	42.9	12.9	65.7	5.7	4.3	1.4
47沖縄県	102	37.3	14.7	77.5	3.9	1.0	2.0

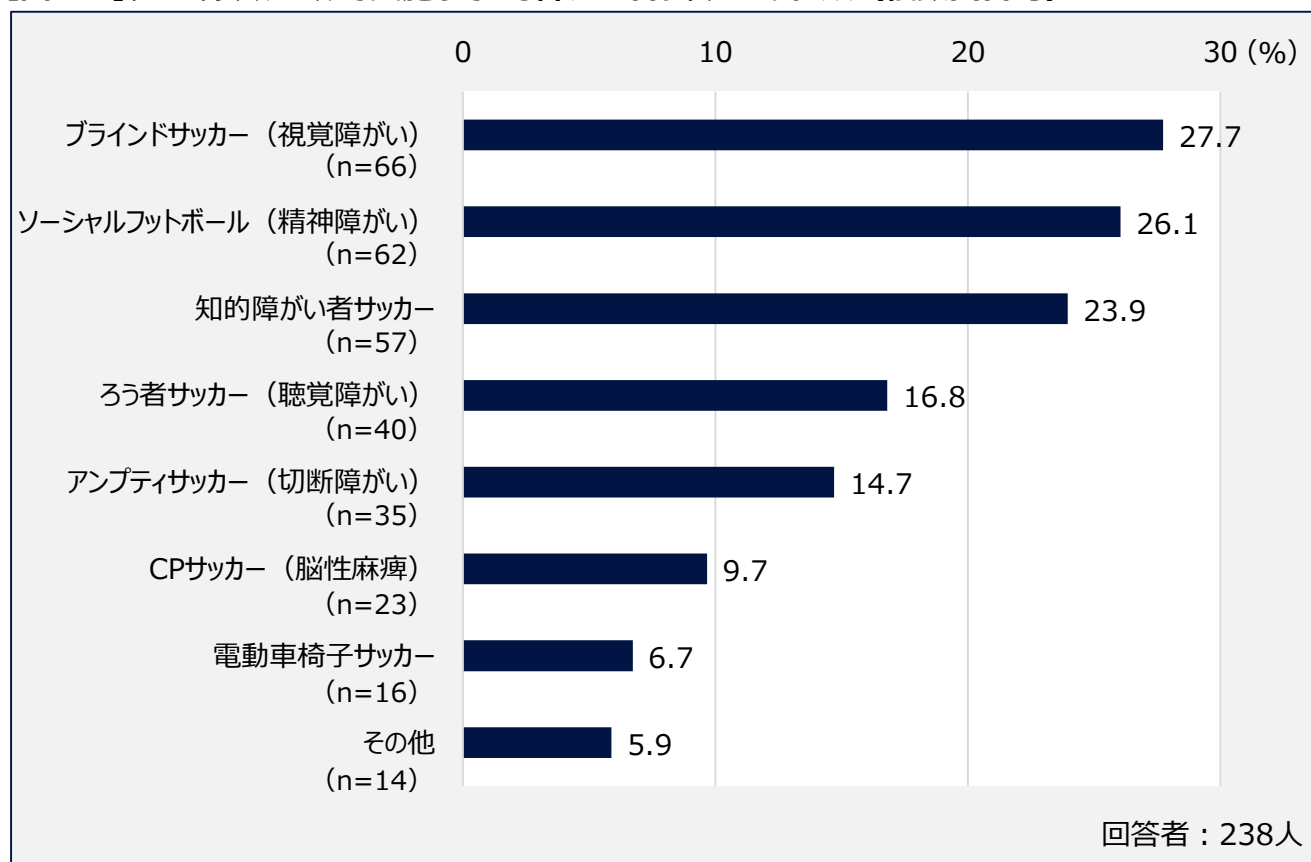
## B. チームやスクールの属性

チームやスクールで障がい者サッカーを実施しているかどうかをたずねたところ、「行っている」が2.8%、「行っていない」が97.2%であった（図B-5）。また、実施している障がい者サッカーの種類は、「ブラインドサッカー」が27.7%と最も高く、次いで「ソーシャルフットボール」が26.1%、「知的障がい者サッカー」が23.9%であった（図B-6）。また、日本障がい者サッカー連盟に加盟している7つの障がい者サッカー以外の障がい者サッカーとして、「ダウン症」「自閉症」「発達障がい」の回答もあった（表B-7）。

【図B-5】障がい者サッカーの実施の有無



【図B-6】チームやスクールで実施している障がい者サッカーの種類（複数回答可）



【表B-7】チームやスクールで実施している障がい者サッカーの種類（その他の回答）

その他の回答（一部抜粋）
ダウン症
自閉症
発達障がい

## アンケートへの回答

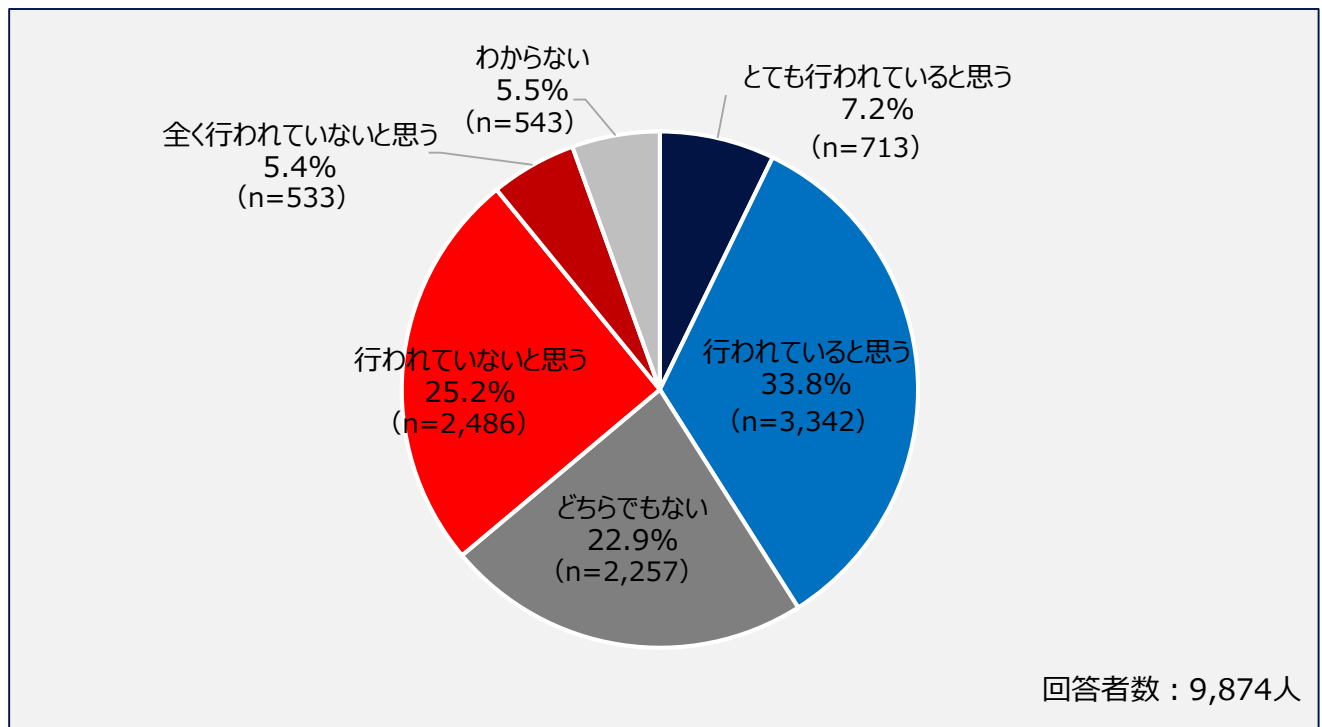
## キーワード：1. 引退なし

日本では、中学、高校、大学、社会人と、年齢が上がるごとにチーム数が少なくなり、生涯にわたってサッカーができる環境が整っているわけではありません。サッカーができる環境がないことで、サッカーを続けたくても、サッカーを続けられない人がいます。学校を卒業して「引退する」が当たり前ではなく、「継続する」を当たり前の環境にするために、生涯にわたってサッカーを楽しめるクラブやいくつになっても気軽にサッカーが楽しめる環境づくりを進めていきたいと考えています。

### 「引退なし」の取り組み状況

「引退なし」の取り組みが行われているかどうかをたずねたところ、「とても行われていると思う」が7.2%、「行われていると思う」が33.8%、「どちらでもない」が22.9%、「行われていないと思う」が25.2%、「全く行われていないと思う」が5.4%、「わからない」が5.5%であった（図C1-1）。

【図C1-1】あなたのまわりでの「引退なし」の取り組み状況



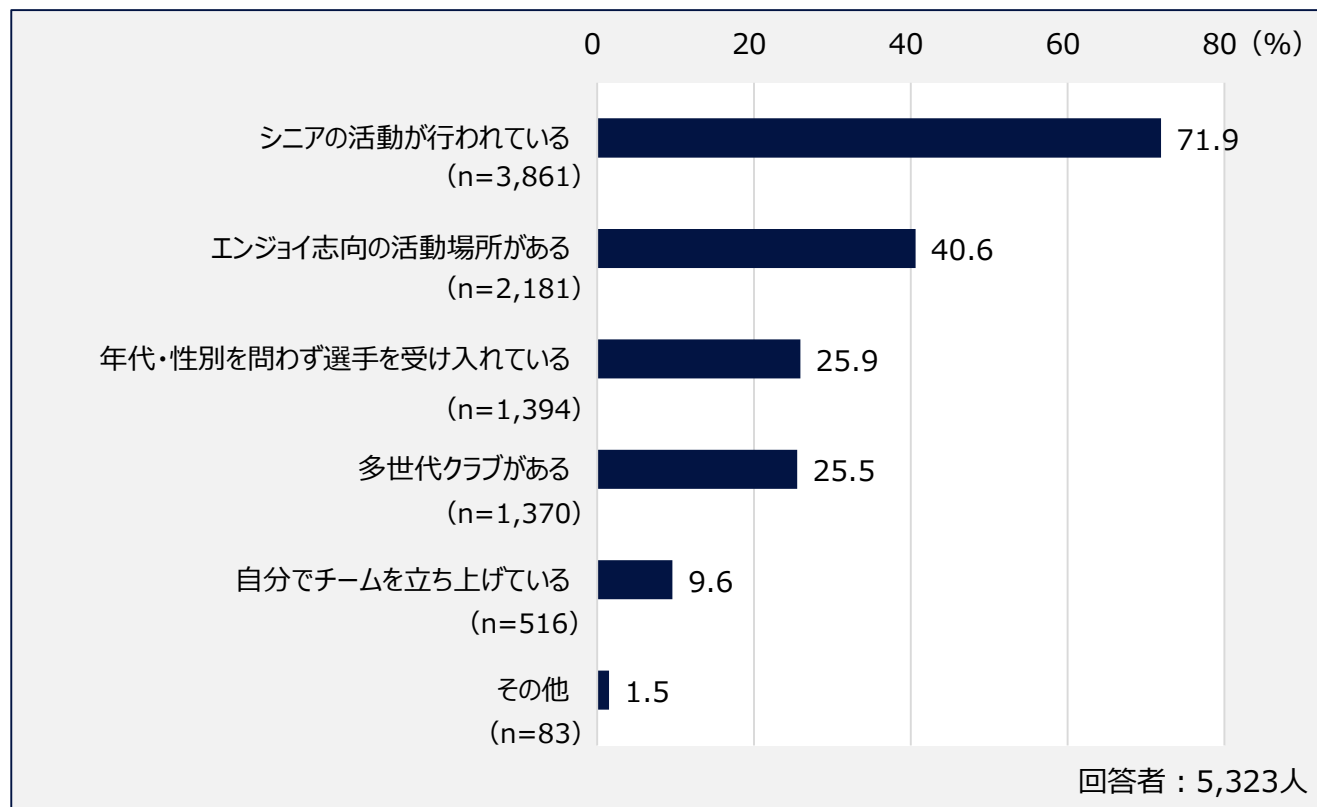
「引退なし」の取り組みが行われているかどうかを都道府県別にみたところ、「とても行われていると思う」の割合が最も高かったのは、「長崎県」（14.6%）であり、次いで、「東京都」（11.9%）、「鳥取県」（10.6%）であった（表C1-1）。一方で「全く行われていないと思う」が最も高かったのは、「青森県」（14.7%）であった。

【表C1-1】「引退なし」の取り組みが行われていると思う割合／都道府県別

	回答者数	とても行われていると思う	行われていると思う	どちらでもない	行われていないと思う	全く行われていないと思う	わからない
全国	9,874	7.2	33.8	22.9	25.2	5.4	5.5
01北海道	298	5.0	38.3	24.2	22.1	4.4	6.0
02青森県	75	5.3	24.0	13.3	32.0	14.7	10.7
03岩手県	104	5.8	26.0	22.1	35.6	7.7	2.9
04宮城県	168	7.1	35.1	23.8	26.8	3.6	3.6
05秋田県	63	7.9	41.3	19.0	22.2	3.2	6.3
06山形県	95	8.4	29.5	22.1	28.4	3.2	8.4
07福島県	140	6.4	33.6	24.3	24.3	8.6	2.9
08茨城県	292	5.1	32.5	22.3	24.3	6.8	8.9
09栃木県	178	3.4	33.1	24.2	25.8	7.3	6.2
10群馬県	159	5.7	35.8	30.2	18.9	3.8	5.7
11埼玉県	639	6.6	31.1	23.5	28.0	5.8	5.0
12千葉県	543	5.3	35.0	21.5	25.6	7.4	5.2
13東京都	1,501	11.9	34.6	20.5	23.5	5.1	4.5
14神奈川県	897	6.7	29.9	22.3	29.7	5.9	5.6
15山梨県	59	8.5	35.6	25.4	22.0	5.1	3.4
16長野県	184	3.3	29.3	25.0	29.3	6.5	6.5
17新潟県	156	5.8	26.9	20.5	35.9	7.1	3.8
18富山県	107	6.5	29.9	25.2	27.1	5.6	5.6
19石川県	131	4.6	36.6	28.2	19.1	4.6	6.9
20福井県	61	4.9	39.3	23.0	23.0	6.6	3.3
21静岡県	480	7.3	36.7	23.3	24.6	3.3	4.8
22愛知県	402	8.7	31.8	21.1	26.9	6.0	5.5
23三重県	117	4.3	45.3	20.5	20.5	4.3	5.1
24岐阜県	188	6.9	34.6	23.4	28.2	3.7	3.2
25滋賀県	119	8.4	21.0	33.6	22.7	3.4	10.9
26京都府	140	5.0	35.0	22.1	25.0	6.4	6.4
27大阪府	331	8.5	34.4	23.0	25.1	5.1	3.9
28兵庫県	382	7.9	32.5	22.8	25.4	4.5	7.1
29奈良県	88	3.4	28.4	28.4	21.6	9.1	9.1
30和歌山県	64	3.1	29.7	29.7	26.6	9.4	1.6
31鳥取県	66	10.6	42.4	22.7	18.2	0.0	6.1
32島根県	52	9.6	40.4	17.3	17.3	9.6	5.8
33岡山県	127	3.1	38.6	23.6	25.2	6.3	3.1
34広島県	206	3.9	35.0	23.8	27.7	3.4	6.3
35山口県	114	8.8	34.2	27.2	18.4	5.3	6.1
36香川県	98	2.0	35.7	32.7	17.3	6.1	6.1
37徳島県	64	1.6	40.6	17.2	21.9	6.3	12.5
38愛媛県	116	8.6	46.6	18.1	21.6	3.4	1.7
39高知県	49	6.1	49.0	22.4	12.2	2.0	8.2
40福岡県	180	6.7	36.7	24.4	25.0	2.2	5.0
41佐賀県	62	6.5	38.7	29.0	19.4	1.6	4.8
42長崎県	82	14.6	31.7	23.2	19.5	8.5	2.4
43熊本県	119	5.9	26.1	31.9	23.5	3.4	9.2
44大分県	90	5.6	37.8	18.9	23.3	4.4	10.0
45宮崎県	78	6.4	43.6	15.4	25.6	6.4	2.6
46鹿児島県	88	5.7	33.0	21.6	25.0	8.0	6.8
47沖縄県	122	8.2	36.1	20.5	22.1	4.1	9.0

「引退なし」の取り組みが行われていると思う理由についてたずねたところ、「シニアの活動が行われている」が71.9%と最も高く、次いで「エンジョイ志向の活動場所がある」が40.6%、「年代・性別を問わず選手を受け入れている」が25.9%、「多世代クラブがある」が25.5%、「自分でチームを立ち上げている」が9.6%であった（図C1-2）。その他の回答からは、「OBがいつでもサッカーができる環境」「パパ・ママチームがある」「指導者としての関わりがある」等の回答があった（表C1-2）。

【図C1-2】「引退なし」の取り組みが行われていると思う理由（複数回答可）



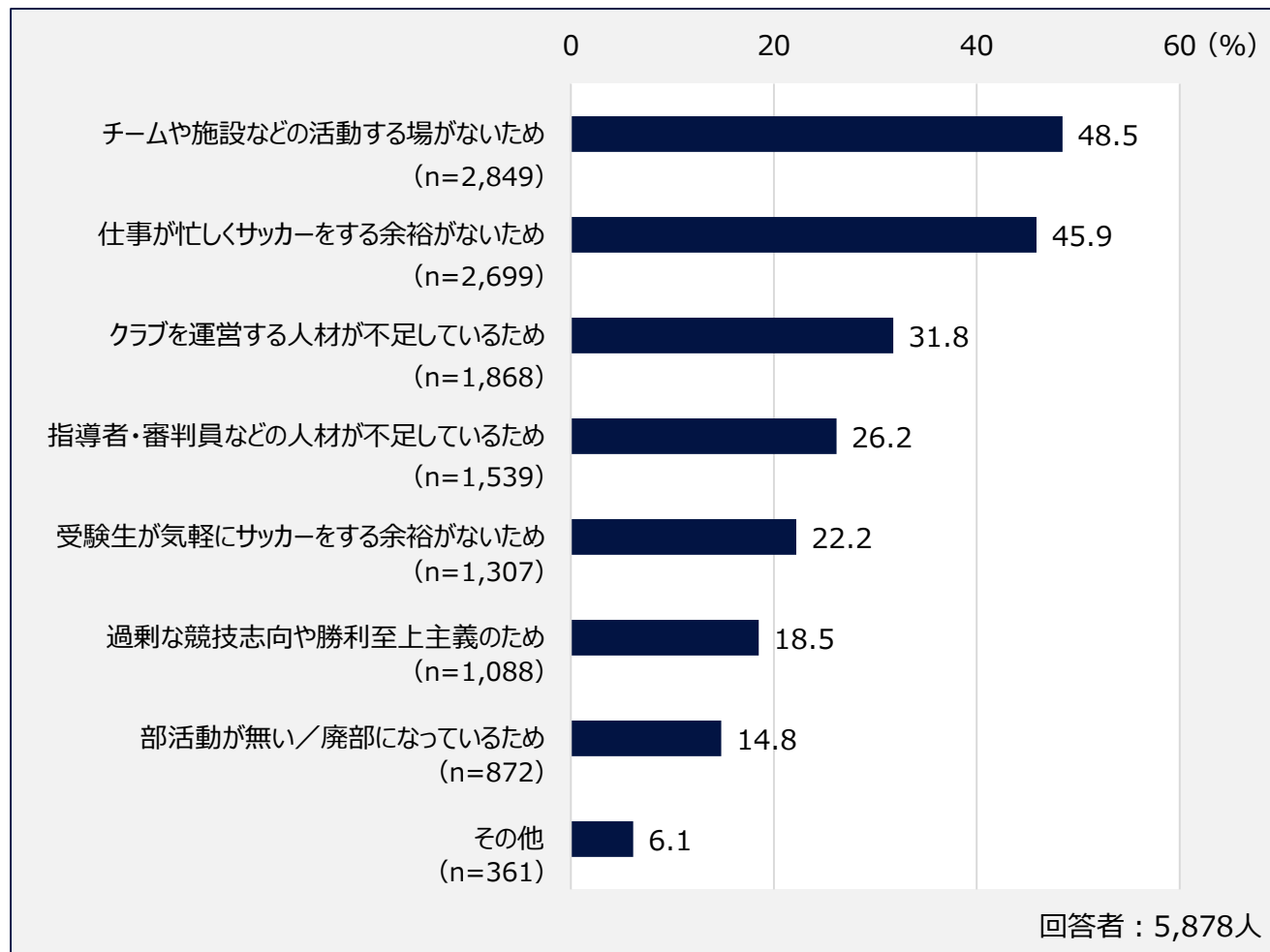
【表C1-2】「引退なし」の取り組みが行われていると思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
OBがいつでもサッカーができる環境がある	チームのOBが来てゲームなどをする機会がある。
	OBサッカー開催やOBコーチとして団との関わりを継続している。
	修了生がいつでも遊びにこれる環境がある。
パパ・ママチームがある	ママさんチームがある。
	ジュニアのクラブチーム等によっては、大人サッカー等の名称で保護者や保護者周辺の大人に対してサッカーができる機会を設けている。
	子供のクラブチームのパパチームを作って活動し始めた。
指導者としての関わりがある	生涯スポーツにしたいと考えている指導者が多い。
	保護者で指導希望者が増えてきている。
	地域の指導者同士の交流があり、次ステージでも受け入れ体制がある。
その他	50～60代中心のフットサルの市リーグがある。
	機会に応じて年齢を超えたチーム編成をして試合に参加している。
	カテゴリーが変わっても関係を保てる環境づくりをしている。
	地域の中学校と連携しているから。
	会社が補助を出して活動している場がある。
女子チームは年代を問わず受け入れている。	



「引退なし」の取り組みが行われていないと思う理由についてたずねたところ、「チームや施設などの活動する場がないため」が48.5%と最も高く、次いで、「仕事が忙しくサッカーをする余裕がないため」が45.9%、「クラブを運営する人材が不足しているため」が31.8%であった（図C1-3）。その他の回答からは「カテゴリーが上がった時に、活躍できる場がない」「女性が活動できる場が少ない」「『引退なし』に関する情報が少ない、または無い」等の回答があった（表C1-3）。

【図C1-3】「引退なし」の取り組みが行われていないと思う理由（複数回答可）

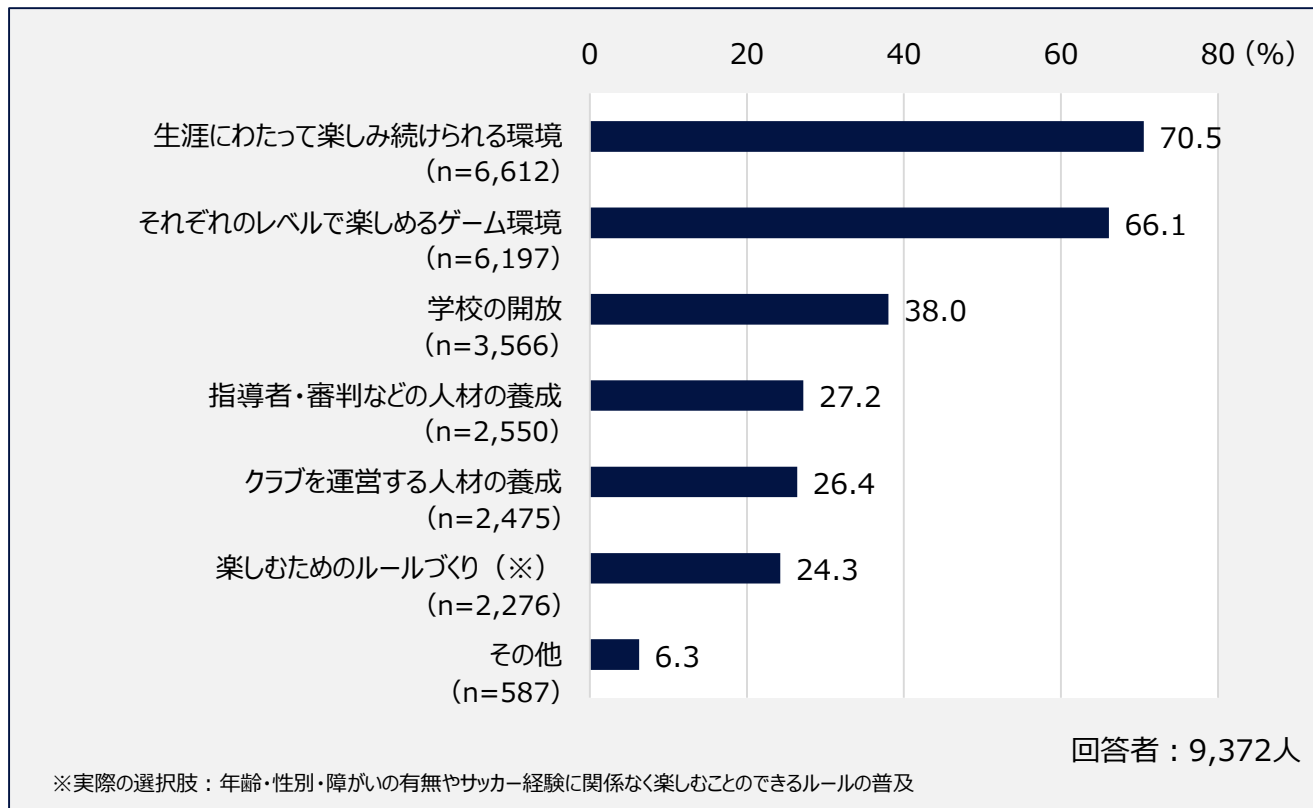


【表C1-3】「引退なし」の取り組みが行われていないと思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
カテゴリーが上がった時に、活動できる場が無い	本来楽しくサッカーをするという環境がすべての面で欠如しているため、高校でも部活動を最後に終わる人が多い。 各カテゴリー間の交流がない。 高校で引退してから、途端にサッカーをする環境が無くなるから。 U15のカテゴリーまでしかないため。
女性が活動できる場が少ない	女性はとくに、結婚出産で離れていくことが多い、また戻る場所が少ない。 高校サッカー選手権で高校三年生で負けると同時にプレーヤー人生が終わるような環境になっているから。社会人リーグのチーム登録費が高額など、お金を掛け続けてまでプレーする人は少ないのが現状。 女性が気軽にできるところがない。試合ありきで、下手でもできるところがない。 女子の場合、居住する県下では極めて活動場所が少なく競技から遠ざかってしまう子が多い。 結婚や出産で時間があいて以前のチームでプレーできない。 特に女子は12歳以上になるとチームもグラウンドもない。 中学、高校に女子サッカー部がない。
「引退なし」に関する情報が少ない、または無い	そもそも「引退なし」という概念や意識がないため。 ケガの予防等が浸透していないため、競技生活をあきらめざるを得ない状況がある。 活動しているチームの情報が見つからない。 社会人のサッカーチームの活動がわからず参加できない。 近くにチームがあったとしてもチームの雰囲気やレベルが自分と合っているかが不明瞭なため。
ボールを蹴られる場所が少ない	フットサルができる体育館が無い。人工芝のコートも少なく、コートレンタル料が高い。 公園などサッカーが禁止されているところが多い。
シニアになると体力的に厳しい	サッカーという競技の激しさが年齢的に厳しい。 コンタクトスポーツなので怪我の心配が他のスポーツより高い。
活動にかかる費用や負担が大きい	社会人チームの年間登録料が高い。 社会人リーグに登録しているが、審判、管理チーム、ユニフォーム、マネージャーズミーティングなど条件が厳しい。上を目指すわけではなく楽しみたいというのが当チームの方針なので、そういうチームにとっては前述した内容は形だけであまり意味がないし、足かせでしかない。 多額の登録費、登録手続きの手間、審判有資格者の義務化により、手軽に参加できる状況ではない。また、新社会人が新チームを立ち上げ辛い。 審判、会場、ユニフォームなどの費用負担が大きい。公式大会以後のモチベーションがない。
活動のモチベーション低下	審判員に対する誹謗中傷があり審判活動を続けたいと思わない。今後、審判をやりたいと思う人が現れない。 中学部活指導者によりサッカーをもうしたくないという子が多い。 社会人チームの活動でレギュラーになれない選手の活動が限られてしまい、続かない。補欠リーグの創出やチーム移籍を容易にするなどの施策が少ない。
社会人チームの集まりの悪さ	社会人チームを結成してはみたものの、市の社会人リーグが日曜の日中に行われるため、メンバーが集まらない。 仕事や家庭でイレブンが集まらなくなって活動できなくなってしまう。 選手が協力的ではない。（チーム運営が困難→チームが減る。活動場所の確保も困難になる。）
その他	以前は、一種登録とシニア登録を併用できたが、それができなくなり活動の幅が狭まった。 プレーヤー兼チーム運営の難しさ。 どのカテゴリーも新規チームの参入ルールが厳しい。サッカーを研究するという考え方に対する理解不足。 学業優先により中学年代から高校・大学と進むにつれスポーツ離れが進んでいく。また、個人競技ではないため本人がやりたくてもチームの存在・施設の確保・金銭面・交通手段・その他諸々の環境が揃わなくては出来ない。 クラブチームが増え過ぎて子供の人数が集まらず、廃団せざるを得ないところが今後増えると思う。

「引退なし」の取り組みがもっと行われるようにするために必要と考えることについてたずねたところ、「生涯にわたって楽しみ続けられる環境」が70.5%と最も高く、次いで「それぞれのレベルで楽しめるゲーム環境」が66.1%、「学校の開放」が38.0%、「指導者・審判などの人材の養成」が27.2%、「クラブを運営する人材の養成」が26.4%、「楽しむためのルールづくり」が24.3%あった（図C1-4）。その他の回答からは「気軽に施設を利用できる環境」「気軽にサッカーができる環境」「『引退なし』の活動に関する情報配信、またはネットワーク」等の回答があった（表C1-4、表C1-5）。

【図C1-4】「引退なし」の取り組みがもっと行われるようにするために必要と思うこと（複数回答可）



【表C1-4】「引退なし」の取り組みがもっと行われるようにするために必要と思うこと（その他の回答）①

	その他の回答（一部抜粋）
気軽に施設を利用できる環境	コート等の施設の充実とコート料金の手軽さ。
	チームや組織関係なく、ふらっとサッカーができる環境。
	圧倒的に施設が足りていない。公共の施設は協会による試合で占有されており、1団体が利用できることが少なく、民間施設も少ない。プレーするには他市に遠出して初めてできる環境に出会えるため、仕事帰りや休日気軽にプレーできる環境はない。人口の多い都市、富裕層が多い都市では施設が充実しているが、ベッドタウンではそれが望めない。結局小規模都市在住で家庭を持つ者は経済、時間的な面で引退を余儀なくされる。
	公園での球技禁止の規制緩和。
	サッカーボールを蹴られる場所の確保。最近は公共の公園でもボールを使う事が禁止されている。そもそもボールを蹴る事が出来る場所が不足している。
	安価に借用することができる施設。主に天然芝、人工芝グラウンドがあればボールを蹴りたい、サッカーしたいと思える。板橋区には天然、人工ともに芝のグラウンドがない。
	もっと天然芝グラウンドを多くするなどインフラ環境の構築を実施すべき。年齢が高くなるほど土のグラウンドでは体に対する負担が大きい。
サッカーができるグラウンドの整備（そもそも場所が少ない）。	
気軽にサッカーができる環境	チームとかでなく集まったメンバーで気軽にサッカーをツールにできたらいい。
	気軽に入れるチームを増やす。
	市町村、地域での各レベルで楽しめる活動の推進。交流の場の提供。
	それぞれのレベルを楽しめる+レベルの共存。

【表C1-5】「引退なし」の取り組みがもっと行われるようにするために必要と思うこと（その他の回答）②

	その他の回答（一部抜粋）
「引退なし」の活動に関する情報配信、またはネットワーク	大掛かりでしっかりとしたアプリなどの交流サイトがあるといいと思います。例えば、練習や試合の情報を載せて誰でも閲覧でき参加の有無も行えるなど。おそらく仲間内ではメールなどで勧誘などしていると思いますが、どこにも属していない、本当に最初のとっかかりになるものがあれば参加しやすいと思います。
	ケガや慢性疾患の予防に対する知識と啓発、指導者や大会運営方法などのFAの考え方を見直してほしい。
	生涯スポーツ活動の認識。
	個サルのようなことの広報。
	カテゴリーを超えて情報共有が必要。続けられる環境づくり。 チームを探すことが難しいので、チームを検索、コンタクトを取れるシステムの始動（誰でも情報を得られる環境）。
女性がサッカーでできる環境づくり	女子サッカー部のある中学、高校を増やす。
	女性ができる環境を考えることが環境理解には必要と思います。 高校女子のチームがある学校が少ない為、サッカーをあきらめた選手もいます。近隣の別の高校であってチームのある高校に選手登録できたら良いと思います。（合動チームではなく、選手個人を登録できる仕組み）
縦のカテゴリーのある総合型クラブを作る	企業（コナミスポーツ等のフィットネスクラブ）やJクラブのような組織がグラスルーツとしてのチームを各年代（特に高校年代と社会人）に作れば良いと思います。
	3世代の性別関係無く集える総合スポーツ施設エリア。 各少年団、クラブ、学校部活動の縦のカテゴリー登録に関し、柔軟にする。連携や提携をしていることを一般人にもわかるように明確化し、多世代の長期的視野をもつ総合型クラブの普及を増進させる。
試合における規制緩和	全てのカテゴリーにおいて、主催者や審判部がユニフォーム等の細かい規定にこだわり過ぎるので、緩くしてほしい。 気軽に参加できる大会やリーグを増やすことが大事だと思います。例えば最近ユニフォームの規定が厳しくなっていますが、周りの友人や知人を集めて大会やリーグに試しに参加したいと思っても、ホーム＆アウェイの2着のユニフォームが必要で、作るのには時間やけっこうなお金がかかりますので、腰が重くなって結局話が進まないことが多いです。ピブスなどで気軽に参加できる大会やリーグがあれば…とよく思います。
	ユニフォーム規定や交代選手の数や再度出場できる等レベルに合わせて柔軟に対応するルールづくり。
	参入ルールの緩和と競技場の増設。人間性の向上とサッカーを研究していくという土壌づくり。
	ユニフォーム規定の緩和による「家庭内サッカー経費」の削減。
登録手続きの緩和	協会からの情報発信の徹底、登録や参加について分かりやすく情報を提供していくこと。 登録費の削減、登録手続きの簡素化が必要。 クラブ登録要件の緩和（ライセンスの有無を問わないでチーム登録できるなど）。
	指導者の改善
その他	サッカーを楽しめないものにさせている指導者の改善、テレビ実況等メディアの改善。 2種、3種時代に指導者が選手を追い込みすぎないこと。「サッカーはもういや」と思わせる指導者が多すぎる。
	初心者の大人向けや能力が低いシニア向けの環境を整える必要性を感じる。
	サッカーとは、ボールがあり蹴る人がいれば、それはサッカーと考え、必ずしもJFAに登録している事がサッカーの定義とは考えていません。また、選手に限る事でもなく、サッカーという協議に携わる事も、ひとつのサッカーと考えます。当地区においては、過疎化、人口の減少に伴い、選手・チームが減っています。『引退』というキーワードと共に『始める』というワードも含み、金銭的にも肉体的にも環境的にも続け(始め)やすい環境の構築が必要と考えます。その方法については、自分たちに何ができるか模索中であり、明確な答えと方向が定まらない状況にあります。
	年代によるカテゴリー別の大会やイベント。
	部活動を継続していく学校現場の理解。 怪我に対するサポートの充実。サッカーに関わる人の倫理観の向上と幅広い知見。

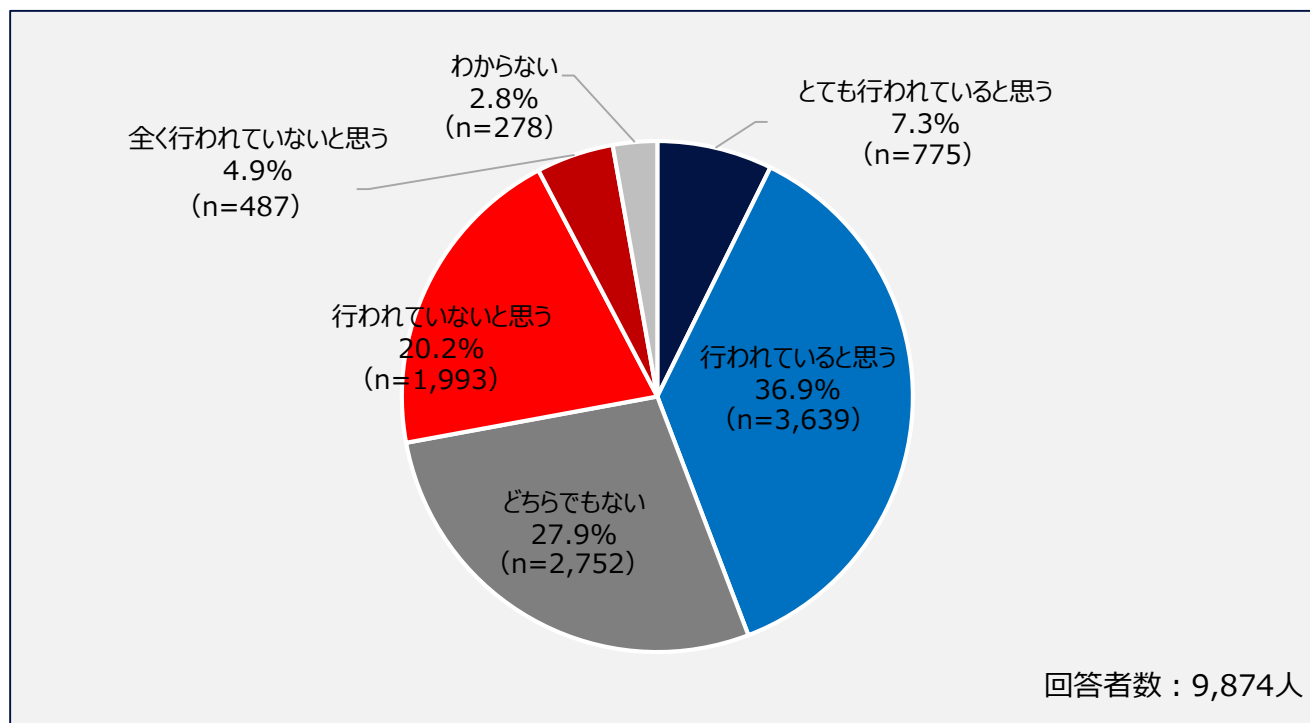
## キーワード：2. 補欠ゼロ

サッカーの楽しみの1つとして、試合に出場することがあげられます。近年はサッカー関係者の方々の努力により、リーグの整備が進み、試合の機会は増えています。しかし、多くの選手をかかえるチームでは、大会／リーグ等の公式戦に出場できない選手が多くなります。また、指導者の偏った勝利至上主義で試合に出場できない、指導者不足で複数のチームを編成できない、競技会に複数チームのエントリーができない等、出場できない様々な理由があります。「万年補欠は仕方がない」ではなく、それぞれの選手のレベルに応じて、みんなが必ず試合を楽しめるプレーヤーズ・ファーストの観点で考えられるような環境づくりを進めていきたいと考えています。

### 「補欠ゼロ」の取り組み状況

「補欠ゼロ」の取り組みが行われているかどうかをたずねたところ、「とても行われていると思う」が7.3%、「行われていると思う」が36.9%、「どちらでもない」が27.9%、「行われていないと思う」が20.2%、「全く行われていないと思う」が4.9%、「わからない」が2.8%であった（図C2-1）。

【図C2-1】あなたのまわりでの「補欠ゼロ」の取り組み状況



補欠ゼロの取り組みが行われているかどうかを都道府県別にみたところ、「とても行われていると思う」の割合が最も高かったのは、「岩手県」（15.4%）であり、次いで「千葉県」（10.9%）、「島根県」（9.6%）であった（表C2-1）。一方で「全く行われていないと思う」が最も高かったのは、「青森県」（12.0%）であった。

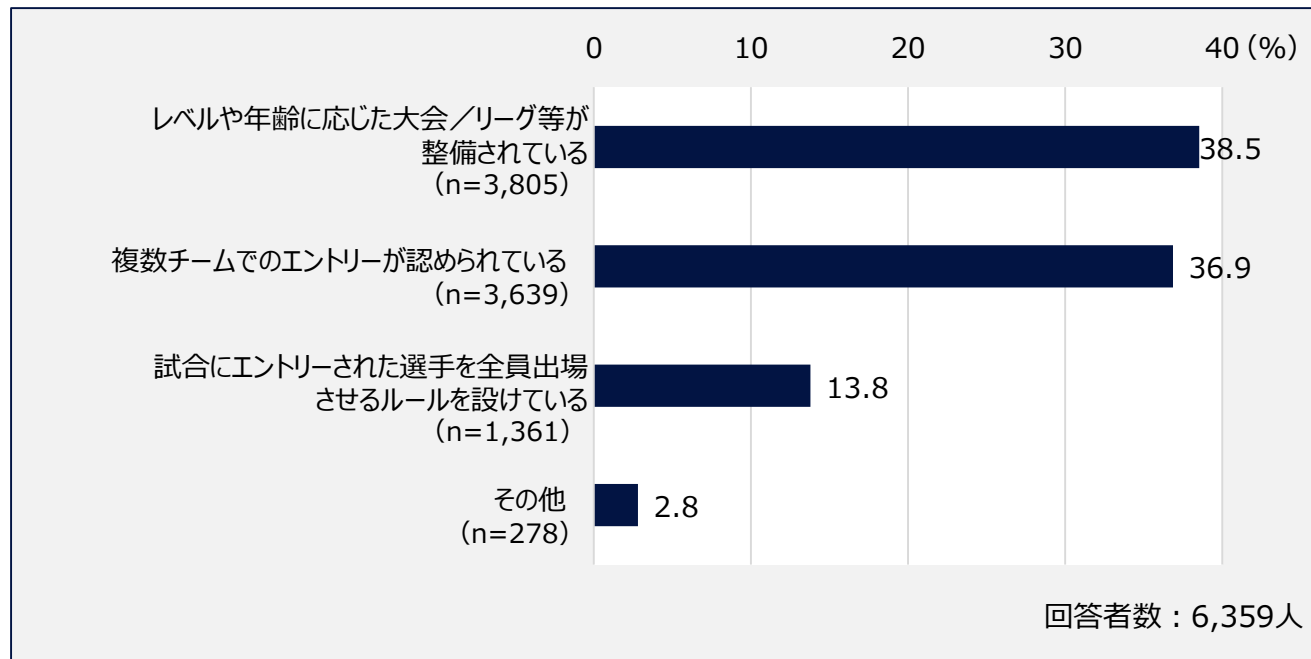
【表C2-1】「補欠ゼロ」の取り組みが行われていると思う割合／都道府県別

	回答者数	とても行われていると思う	行われていると思う	どちらでもない	行われていないと思う	全く行われていないと思う	わからない
全国	9,874	7.3	36.9	27.9	20.2	4.9	2.8
01北海道	298	8.4	40.3	30.5	14.8	3.4	2.7
02青森県	75	1.3	33.3	24.0	22.7	12.0	6.7
03岩手県	104	15.4	42.3	26.9	9.6	5.8	0.0
04宮城県	168	7.7	31.5	33.3	20.2	4.8	2.4
05秋田県	63	4.8	39.7	23.8	23.8	3.2	4.8
06山形県	95	9.5	33.7	27.4	27.4	2.1	0.0
07福島県	140	3.6	35.0	27.9	25.7	5.7	2.1
08茨城県	292	7.2	39.0	27.1	17.8	5.1	3.8
09栃木県	178	6.7	30.3	27.0	21.9	9.0	5.1
10群馬県	159	3.8	35.2	30.8	22.0	6.3	1.9
11埼玉県	639	7.2	33.3	28.5	23.9	4.9	2.2
12千葉県	543	10.5	38.7	26.7	16.4	4.4	3.3
13東京都	1,501	9.3	38.2	25.2	19.5	5.7	2.1
14神奈川県	897	8.5	36.7	24.9	22.1	4.8	3.1
15山梨県	59	6.8	42.4	25.4	15.3	5.1	5.1
16長野県	184	3.8	39.7	26.6	19.6	2.7	7.6
17新潟県	156	5.1	34.6	35.9	19.9	3.8	0.6
18富山県	107	6.5	43.0	30.8	12.1	7.5	0.0
19石川県	131	7.6	42.0	26.7	16.8	6.1	0.8
20福井県	61	3.3	41.0	24.6	23.0	1.6	6.6
21静岡県	480	6.5	38.5	32.7	17.1	3.5	1.7
22愛知県	402	7.0	35.1	24.4	23.6	6.0	4.0
23三重県	117	6.0	34.2	30.8	25.6	2.6	0.9
24岐阜県	188	7.4	41.0	29.8	19.7	1.6	0.5
25滋賀県	119	6.7	34.5	24.4	26.9	4.2	3.4
26京都府	140	5.7	42.9	20.0	22.1	5.0	4.3
27大阪府	331	7.3	32.9	27.8	19.9	8.2	3.9
28兵庫県	382	8.1	37.2	27.5	22.0	3.4	1.8
29奈良県	88	6.8	28.4	36.4	15.9	9.1	3.4
30和歌山県	64	1.6	26.6	40.6	25.0	4.7	1.6
31鳥取県	66	9.1	47.0	27.3	13.6	3.0	0.0
32島根県	52	9.6	38.5	26.9	13.5	7.7	3.8
33岡山県	127	5.5	39.4	31.5	20.5	2.4	0.8
34広島県	206	3.9	36.4	25.7	24.8	3.9	5.3
35山口県	114	6.1	43.9	26.3	17.5	3.5	2.6
36香川県	98	7.1	36.7	30.6	16.3	7.1	2.0
37徳島県	64	7.8	32.8	29.7	20.3	4.7	4.7
38愛媛県	116	5.2	38.8	31.9	19.0	2.6	2.6
39高知県	49	4.1	34.7	30.6	16.3	2.0	12.2
40福岡県	180	6.1	29.4	31.7	25.6	3.3	3.9
41佐賀県	62	8.1	40.3	35.5	14.5	1.6	0.0
42長崎県	82	7.3	42.7	26.8	17.1	6.1	0.0
43熊本県	119	3.4	36.1	32.8	16.8	4.2	6.7
44大分県	90	4.4	31.1	31.1	22.2	6.7	4.4
45宮崎県	78	5.1	38.5	28.2	20.5	5.1	2.6
46鹿児島県	88	3.4	29.5	34.1	22.7	6.8	3.4
47沖縄県	122	8.2	33.6	29.5	19.7	6.6	2.5

## 大会／リーグに関して

大会／リーグに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていると思う理由についてたずねたところ、「レベルや年齢に応じた大会／リーグ等が整備されている」が38.5%と最も高く、次いで「複数チームでのエントリーが認められている」が36.9%、「試合にエントリーされた選手を全員出場させるルールを設けている」が13.8%であった（図C2-2）。その他の回答からは、「交代自由／再交代のルールがある」「フレンドリーマッチやB戦がある」「補欠ゼロのリーグ戦を主催している」の回答があった（表C2-2）。

【図C2-2】大会／リーグに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていると思う理由（複数回答可）

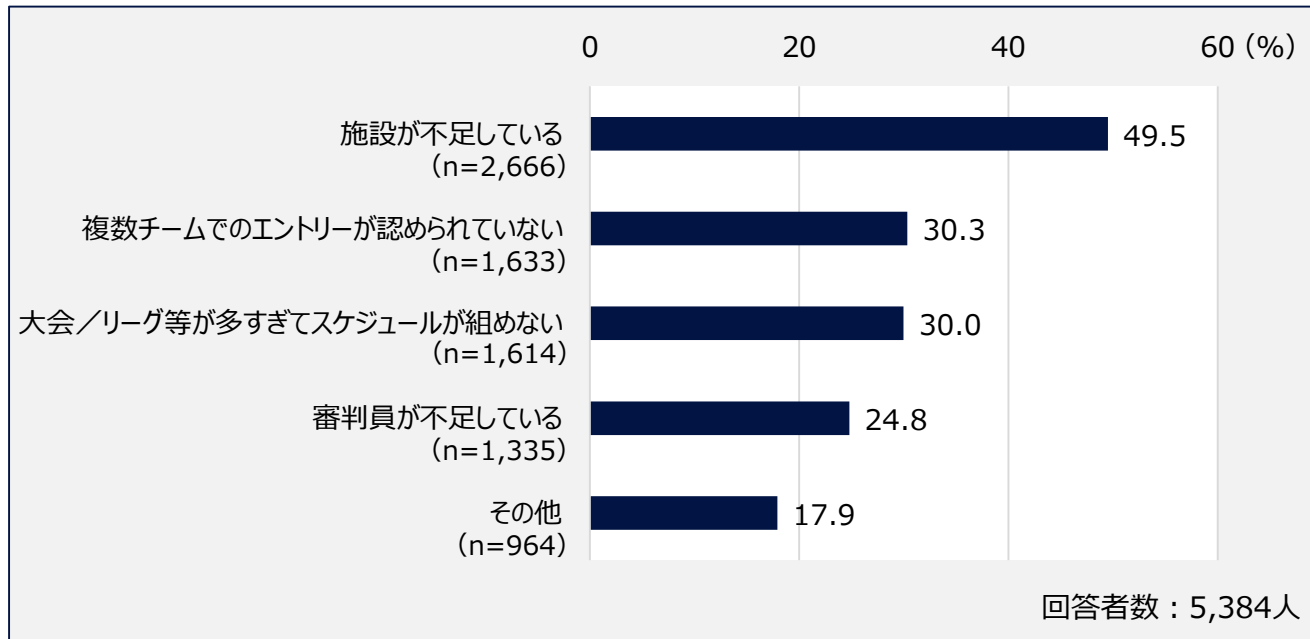


【表C2-2】大会／リーグに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていると思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
交代自由/再交代のルールがある	交代自由制を採用している。
	シニア(40以上)は交代が何度でも自由に出来る。
	ルールでベンチ入りメンバーを全員出場させるルールがある。
	一度交代した選手が再出場できる制度がある。
	交替人数の緩和（10名とする）。
フレンドリーマッチやB戦がある	シニアでのローカルルールで一度交代した選手が何度でもピッチに戻ることができる。フットサルと同じ方式。
	フレンドリーマッチなどの創設。
	B戦が設けられている。
補欠ゼロのリーグ戦を主催している	フレンドマッチ等のチーム間での友好的なゲームを開催されている。
	公式戦に出場機会の少ない子の出番を確保するための育成リーグなどの運営、参加をしている。
	自主リーグで試合に出られない子のプレー機会を確保しようと努力している。
	うちのチームは県のU12リーグには参加せず（弱いので）、参加していないレベルの合ったチーム同士でリーグ戦を創設した。大会要綱にも「全員が出場できるように努める」という一文を入れ、全員がサッカーを楽しめるようにしている。

**大会／リーグに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていないと思う理由**についてたずねたところ、「施設が不足している」が49.5%と最も高く、次いで「複数チームでのエントリーが認められていない」が30.3%、「大会／リーグ等が多すぎてスケジュールが組めない」が30.0%、「審判員が不足している」が24.8%であった（図C2-3）。その他の回答からは、「大会ルールのため」「『補欠ゼロ』の周知不足、浸透不足」「リーグ戦の成績が全国大会の予選も兼ねているため全員出場させる余裕がない」等の回答があった（表C2-3、表C2-4）。

**【図C2-3】大会／リーグに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていないと思う理由（複数回答可）**



**【表C2-3】大会／リーグに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていないと思う理由（その他の回答）**

①

	その他の回答（一部抜粋）
大会ルールのため（全員参加のルールが徹底されていない。1団体複数チーム登録不可。1人の指導者が複数チームを率いるのは不可。）	JFAシニア大会の単独チーム登録の義務化。
	全員参加のルールが徹底されていない。
	2チーム出しの場合に指導者の重複が許されていないため、指導者不足でエントリーできない。2チーム出したいが、単学年での人数が決められており、ギリギリその人数に届かない場合に出場機会が激減する(単学年ではなく下の学年を呼びたい)。
	8人制の公式戦において、複数チームエントリーをおこなうためには、チーム内に該当学年の選手数が20名以上(1チーム10名以上)の制限があるため、ベンチメンバー数が最大で11人になり、ある意味補欠と変わらなくなっている。
	複数チームでの登録できる大会、リーグが少ない。
	中学は部活で学校単位なので複数チームエントリー自体ができない。
	1団体複数チームが許されない場合がある。
	レベルや年齢に応じたリーグはあるが、1登録1チームの原則があるので全員を出場させる事は困難。また上部リーグに参戦となるとベンチメンバーや交代人数も制限されるので、そういった選手は移籍するしか方法がない現状。
	努力目標であって強制ではない為、罰則も無く監視の目も無い状態では、勝つ為に子供達を切り捨てる事が安心して出来てしまう。子供達の出場時間をチェックする機構が無い。
	全員が必ず出場するルールがない。8人制になりもっと出場機会が無くなっているのが事実です。
	指導者資格が無いと、登録出来ない。資格保有者がベンチ入りしないと試合が出来ない。また、資格取得については、平日に合宿に参加では、職業監督が必須となる。また、各地域連盟や協会と連携がとれていない為、それぞれで選手登録や、各種資料作成に追われる。無報酬で、一般人が他の仕事をしながらするには、負担が大きすぎる。
	U12小学生高学年の女子になると男子との体格、技量の差も出てきて、会場に行っても見ているだけ、または数分だけ出るだけ出場。女子はどの試合でも下のカテゴリーも参加OKにしていって欲しい。



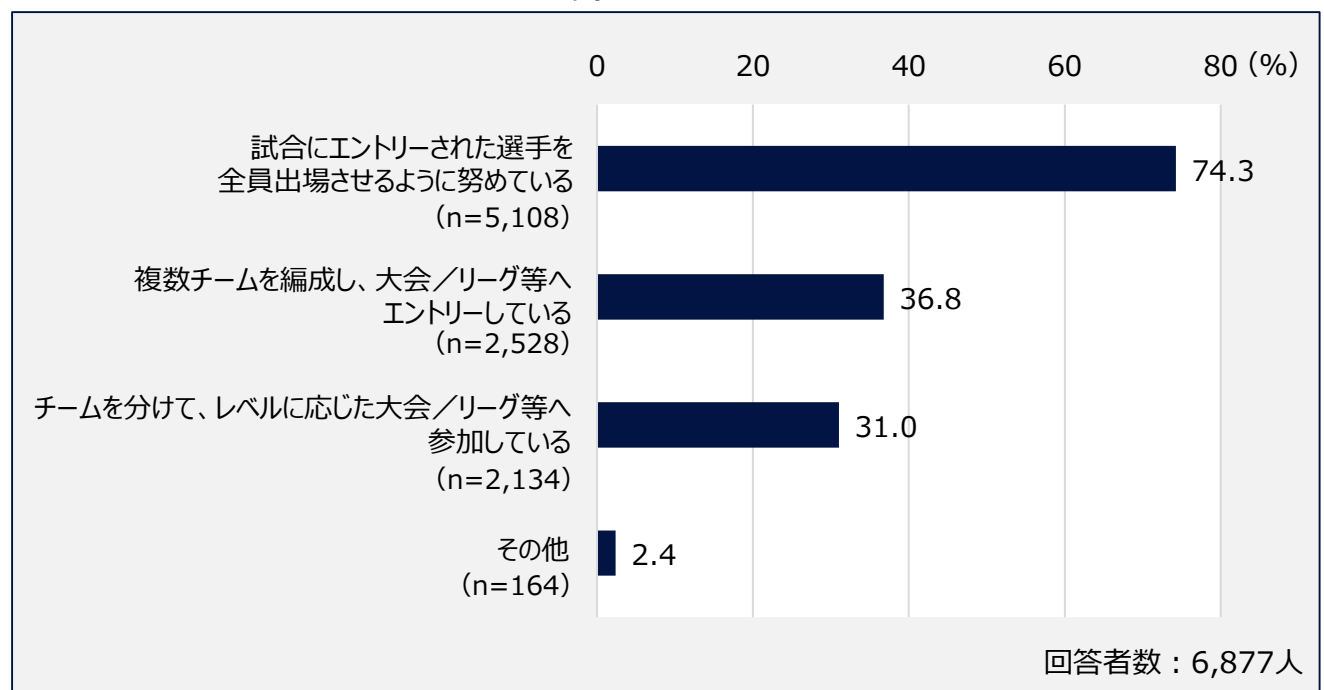
【表C2-4】大会／リーグに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていないと思う理由（その他の回答）

②

	その他の回答（一部抜粋）
「補欠ゼロ」の周知不足、浸透不足	コンセプトの周知不足。 「補欠ゼロ」の考え方が浸透していない。
リーグ戦の成績が全国大会の予選も兼ねているため全員出場させる余裕がない	全日小の予選と育成の為のリーグ戦が一緒になってしまっている為、試合に出場出来ない選手を相手チームでよく見る。 リーグ戦の結果が県大会出場権に直結しているため、全員をプレーさせることが出来ない状況が多い。 交代選手数の制限。リーグの場合でも勝負がかかってくるとそちらに走る傾向がある。
レベルに応じた大会やリーグ戦がない	レベルにあった大会などの開催。レベルに合ったチーム選びなどが出来ない環境。 レベルにあった大会が無い。登録していないと連絡すらない。登録の方法も事務局がわかりにくく、参加しにくい。 レベルや年齢に合わせた大会／リーグが用意されていない。
トーナメント形式がない	トーナメント重視の地域サッカー協会の大会システム(3種)が、指導者を勝利至上主義に誘導してる。トーナメントとリーグを両立となると、スケジュールを組むのが困難、選手への負担も多くなる！ トーナメント形式が多い。年間リーグ形式が少ない。
「補欠ゼロ」を実施するために複数チームを登録すると、金銭面や人員面で負担が大きくなる	チーム登録等に係る金銭面。チームが抱える人数が多い場合など2チームなどに分けたいが、そうなった場合は2チーム分の登録費を払わされる現状にあるため。 複数エントリーすれば人員も費用も2倍必要になる。
女子の試合数の確保が難しい	女子の試合数が確保しにくい。 女子のチーム、大会、試合が少ない。

**チームに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていると思う理由についてたずねたところ、「試合にエントリーされた選手を全員出場させるように努めている」が74.3%と最も高く、次いで「複数チームを編成し、大会／リーグ等へエントリーしている」が36.8%、「チームを分けて、レベルに応じた大会／リーグ等へ参加している」が31.0%であった（図C2-4）。その他の回答からは、「指導者の方針」「練習試合を多く組むようにしている」「チームの人数が少ないため、補欠が生まれにくい」の回答があった（表C2-5）。**

【図C2-4】チームに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていると思う理由（複数回答可）

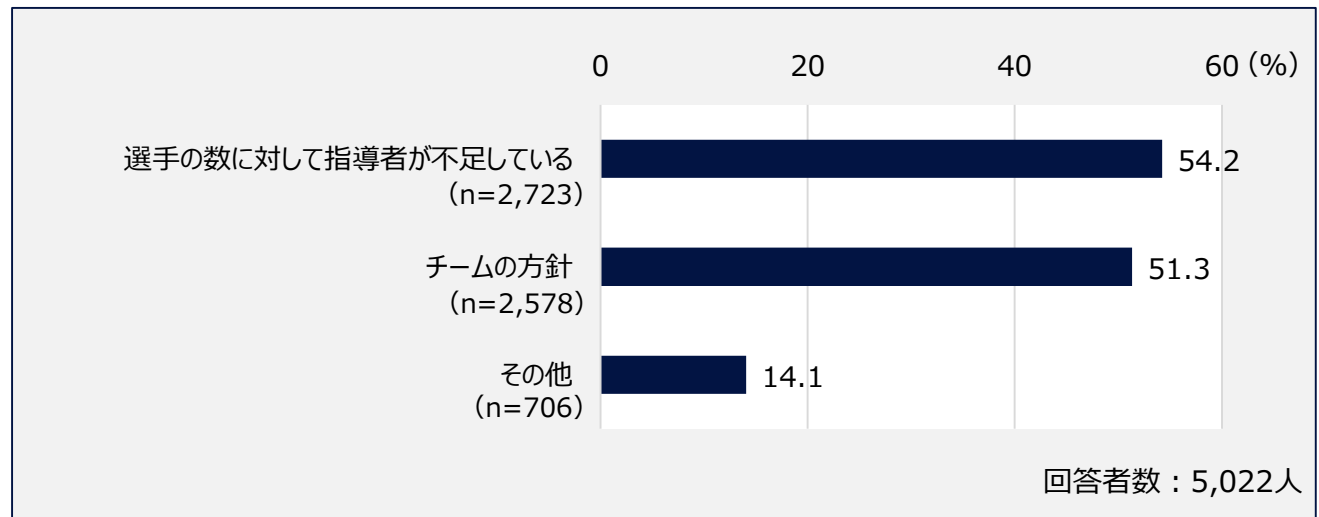


【表C2-5】チームに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていると思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
指導者の方針	全員出場する方針が明確になっている。
	チームの方針として推奨している。勝利ではなく子供の成長に主眼を置こうとしている。
	うちのチームは、来た人は必ず試合に出すようにしている。
練習試合を多く組むようにしている	公式戦は主力メンバーに出場機会が偏っているが、練習試合は増やしている。
	フレンドリーマッチやトレーニングマッチを多く組んでいる。対戦チーム間で協議し、Bチーム同士の対戦を組むなどしている。
	大会については、あらかじめ勝利優先としている。リーグについては全員が同じ時間とはいかないが極力全員の出場時間の確保をしている。当然トレーニングマッチ、招待試合等はチームカアップのため全員に出場機会を与えている。
	全員の到達の徹底と、練習試合の多さ。
	試合の回数を確保し、全選手出場させている。
	練習試合等では必ず全員出場機会を与える。
チームの人数が少ないため、補欠が生まれにくい	人数が少ない為補欠が居ない。
	チームが大所帯とならないように、少人数を心掛けています。

チームに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていないと思う理由についてたずねたところ、「選手の数に対して指導者が不足している」が54.2%、次いで「チームの方針」が51.3%であった（図C2-5）。その他の回答からは、「『補欠ゼロ』の概念の周知不足」「指導者が勝利至上主義」「指導者の理解不足、指導能力」「保護者から理解を得にくい」等の回答があった（表C2-6）。

【図C2-5】チームに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていないと思う理由（複数回答可）



【表C2-6】チームに関して、「補欠ゼロ」の取り組みが行われていないと思う理由（複数回答可）

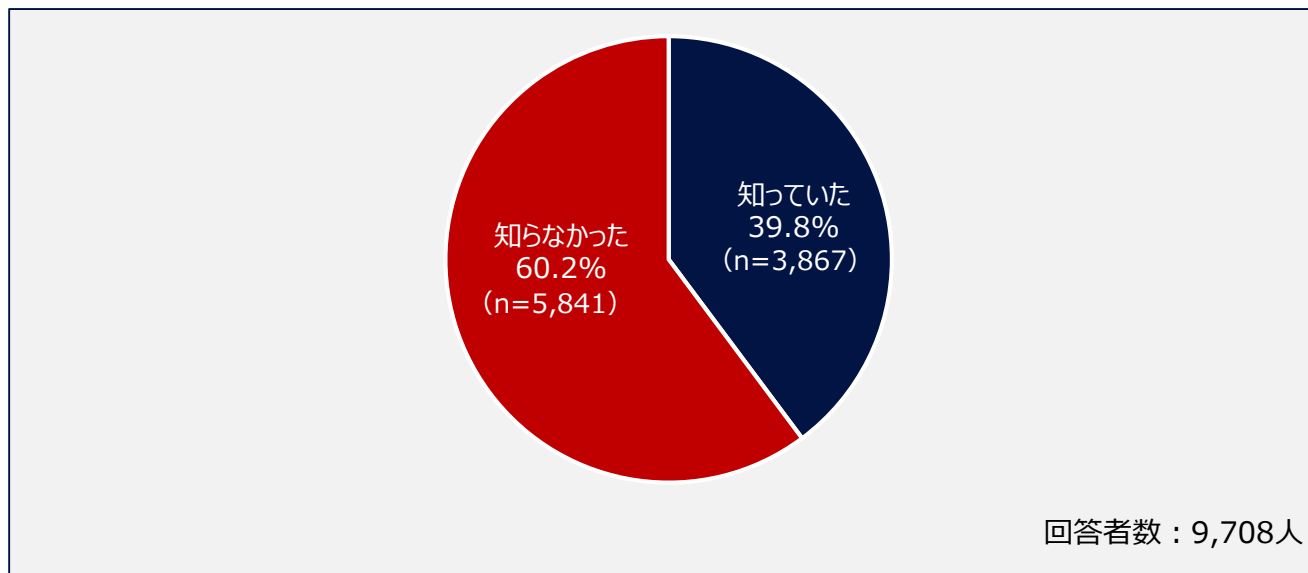
	その他の回答（一部抜粋）
「補欠ゼロ」の周知不足、浸透不足	「補欠ゼロ」という概念が広まっていないこと。 指導者及び協会の組織に趣旨を浸透させる必要がある。
指導者が勝利至上主義	監督の考え方。勝利の為に良い選手しか出していないと思う。 指導者が勝ちにこだわりすぎている。特に4種年代は勝利至上主義が酷い。 大会が少ない上、指導者への働き方改革の影響もあり、数少ない大会や練習試合でも勝利至上主義で、試合に出してもらえない子は、経験も積めずに成長する機会を奪われている。
指導者の理解不足	指導者の選手育成に対する認識不足。 指導者の問題。目先の成績だけにとらわれて、同じ選手ばかりを出す傾向にあると思う。選手は個人差があって成長する時期に個人差があることが分からない指導者が多いと思う。 「育成」なのに、勝つための指導（勝利至上主義の思想）がまだ多いため。育成年代は「指導者」でなくてはならないのに「監督」が多いため。やらせる指導が多いため。
保護者からの理解を得にくい	負けると出来の悪い指導者と保護者からレッテルをはられる。 勝敗に拘らなければ全員出場は可能だが、保護者の理解を得にくく、良い選手の流出を招いている。
選手が多すぎて、試合に出場させられない	選手を必要以上に勧誘し、施設環境や指導者数に見合っていない為、リーグ戦環境を整備しても出場できない選手が出ている。また、偏った勧誘により、チーム編成が困難な小規模チームが出てくる悪循環がある。 人数が多すぎて、試合に出場させられない。
結果が伴わないとチームの運営が厳しくなる・雰囲気が悪くなる	少子化の中で団員確保が難しくなっており、勝つという結果がないとチームはすぐ存続の危機に陥る。JFA主催のリーグや全少の運営は弱者を切り捨てるシステムになりつつあると感じる。 目の前の結果＝そのチームの指導の質と考える保護者や、新規入会者を増やしたければ目に見える結果を残さないと選んではもらえない。子供たちの出場機会を均等に作る努力はしているが、結果を残さないとそもそもクラブの運営が危ない。 全員出場に極力努めてはいるが、現実的に拮抗した試合で交代出場させるのは難しい。その子を出場させて敗戦した場合に、本人自身が居心地が悪くなる可能性も考慮しながら判断する必要がある。 負け込んでいるチームだと選手の意気を下げたしまい、指導者の方もしょうがないと諦め気味で悪循環になっている。 試合に負けるとケンカになったり、目の見えない所でけなしたりする場合もあるかもしれない。もちろん応援に来ているご両親も勝つと嬉しい。勝つと嬉しい。負けると負ける状況で納得出来る範囲だと良い。
チームのバランスが悪い	地域に複数チームができるチームと人数の少ないチームのバランスが悪すぎる。J下部組織や規模の大きいクラブと街クラブの環境がかけ離れている。 チームレベルに合わない選手がいる。 クラブチームが増えて来たこともあり、各チームの主軸選手の移籍が活発になっています。その為各チームでのレベル格差が激しくなり、移籍されたチームは補欠を出す余裕がない状態です（二桁失点もあり得る）。 複数チームをエントリーするにも、チームの指導者、スタッフが必要だが、その数が不足している。またA、B分けてエントリーすると、Bチームは大敗することが多く、複数チームをエントリーすればみんながサッカーを楽しめるかと言えば、そんなに単純な問題ではない。
その他	競技人口など含めて、女子の環境が悪すぎて補欠ゼロなどの考えに至る前に、存続が危うい女子チームが多くある。 仕組みがおかしいと思います。チームメンバーの人数が少ないのであれば下の学年からの選手を借りて試合にエントリーは良いかと思いますが、チームのメンバーがいるのに下の学年から上手な子を借りて試合にエントリーするチームが多く目立ちます。このような仕組み自身が補欠を作り試合に出る事が出来ないメンバーを何人も見てます。常にベンチの子がいるのが現実です。今のままでは補欠ゼロはあり得ません。私もチームにコーチとしてお手伝いさせて頂いておりますが、仕組みが変わらない限り、勝つためだけに価値があるつまらんスポーツになり得ないかと思っております。

JFAは2017年3月に「アマチュア選手の移籍に関する手続きの理解促進および大会要項等における出場資格の適正化に向けて」の通達を登録チームに対して発信し、アマチュアのリーグやチームにおいて不当に選手の移籍が妨げられないようにしています。その後の現状を把握するために、アマチュア選手移籍についてたずねました。

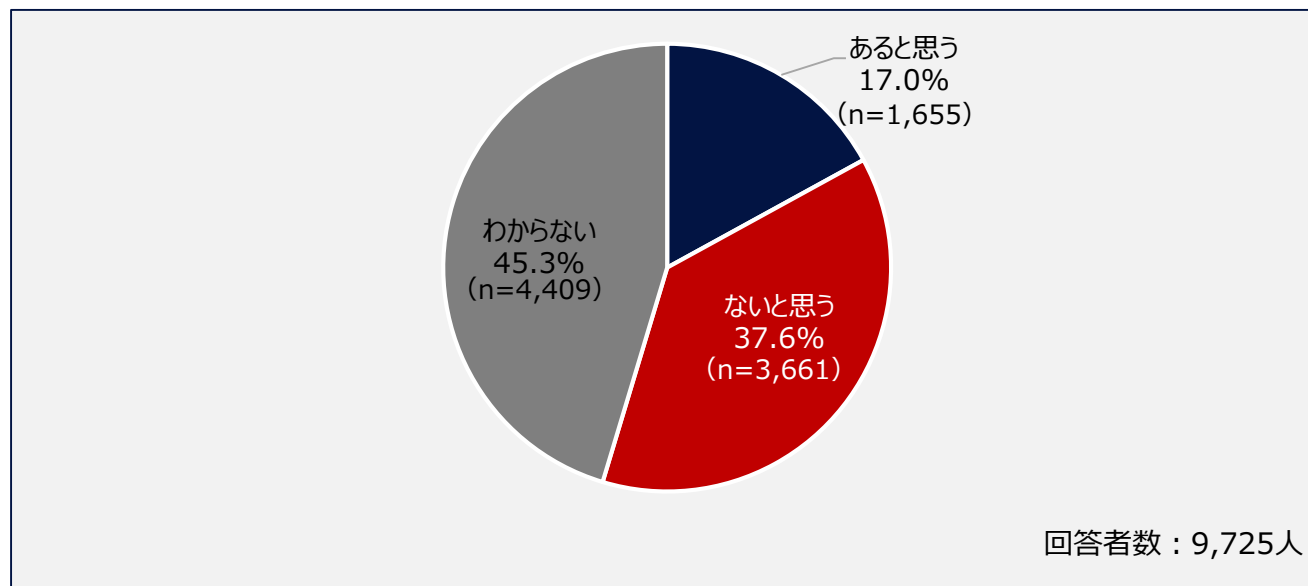
アマチュア選手移籍に関する通達を知っているかどうかについてたずねたところ、「知っていた」が39.8%、「知らなかった」が60.2%であった（図C2-6）。

アマチュア選手の移籍が不当に制限されている状況がまわりであると思うかどうかについてたずねたところ、「あると思う」が17.0%、「ないと思う」が37.6%、「わからない」が45.3%であった（図C2-7）。

【図C2-6】アマチュア選手移籍に関する通達の認知度



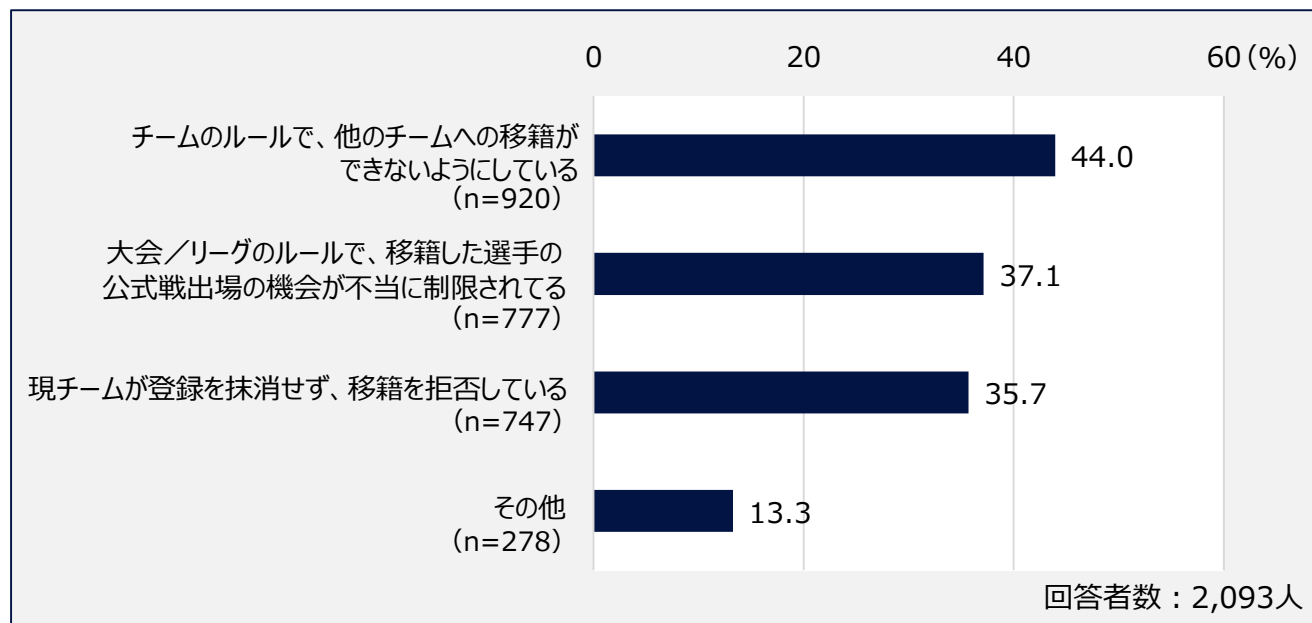
【図C2-7】アマチュア選手の移籍が不当に制限されている状況



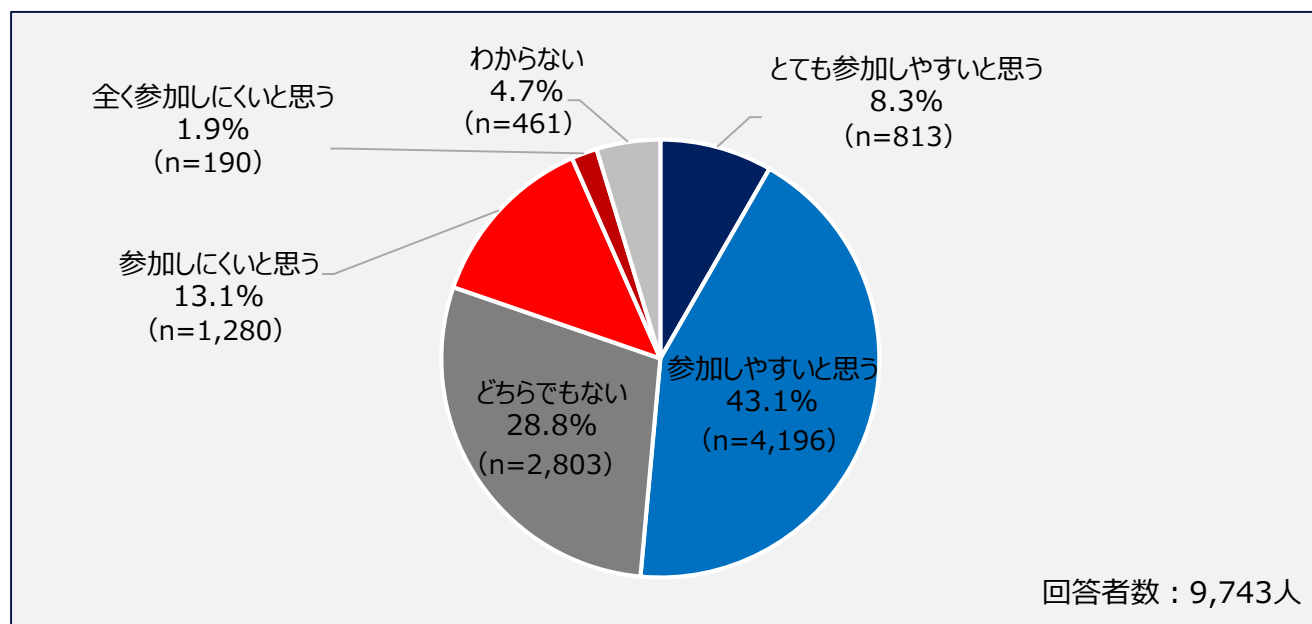
更にアマチュア選手の移籍が不当に制限されている状況があると思う理由についてたずねたところ、「チームのルールで、他のチームへの移籍ができないようにしている」が44.0%と最も高く、次いで「大会／リーグのルールで、移籍した選手の公式戦出場機会が不当に制限されてる」が37.1%、「現チームが登録を抹消せず、移籍を拒否している」が35.7%であった（図C2-8）。その他の回答からは、「指導者、保護者、チームメイトからの嫌がらせ」「各連盟や協会独自のローカルルール」「移籍されないような雰囲気がある」等の回答があった（表C2-7）。

あなたのまわりで、チームが希望する大会やリーグに参加しやすいかどうかをたずねたところ、「とても参加しやすいと思う」が8.3%、「参加しやすいと思う」が43.1%、「どちらでもない」が28.8%、「参加しにくいと思う」が13.1%、「全く参加しにくいと思う」が1.9%、「わからない」が4.7%であった（図C2-9）。都道府県別にみたところ、「とても参加しやすいと思う」の割合が最も高かったのは、「佐賀県」（18.0%）であり、次いで「鳥取県」（15.2%）、「三重県」（13.0%）であった。一方で「全く参加しにくいと思う」が最も高かったのは、「とても参加しやすいと思う」の割合が高かった「三重県」（5.2%）であった（表C2-8）。

【図C2-8】アマチュア選手の移籍が不当に制限されている状況があると思う理由（複数回答可）



【図C2-9】あなたのまわりで、チームが希望する大会やリーグへの参加状況



【表C2-7】アマチュア選手の移籍が不当に制限されている状況があると思う理由（その他の回答）

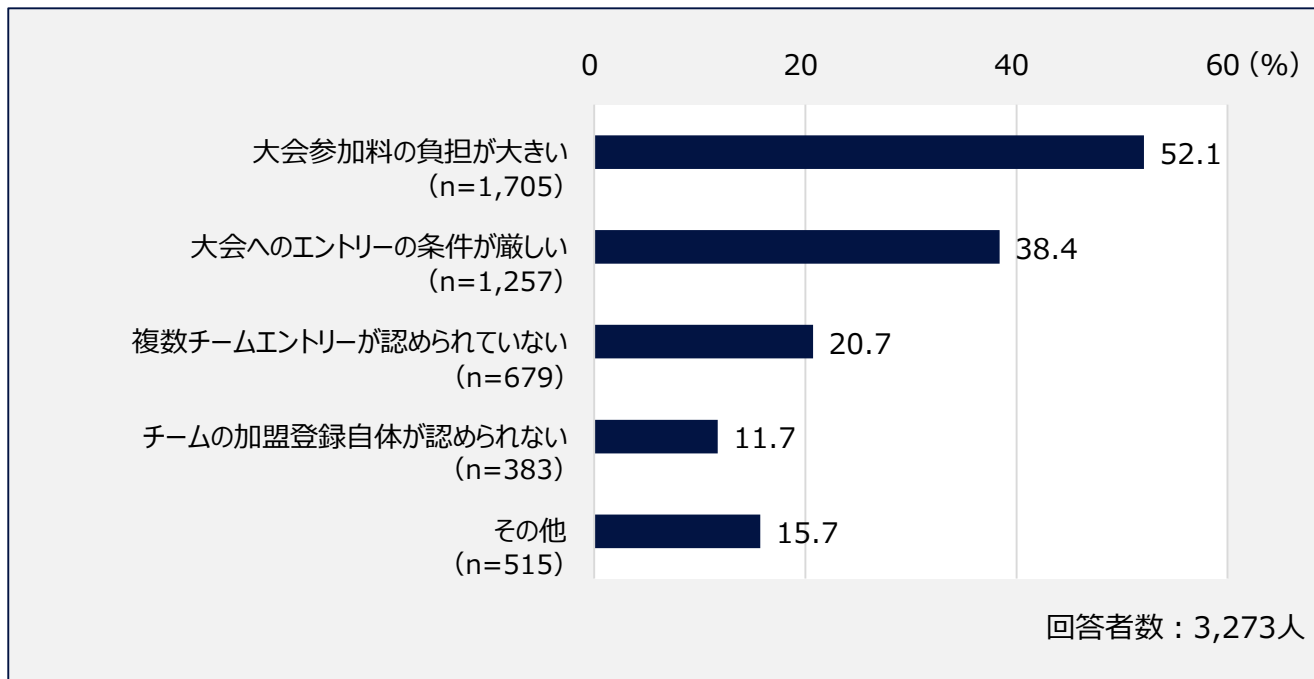
	その他の回答（一部抜粋）
指導者、保護者 チームメイトから の嫌がらせ	監督が移籍希望選手に対して脅すようなことを言っていた。
	コーチ、チームメイトからの裏切り者扱いが浸透している。
	以前所属していたチームは登録の抹消を中々対応してもらえなかった。
	移籍元のチームから移籍先のチームへのブロック会議での圧力がある。
	移籍元と移籍先の指導者同士が繋がっている為、移籍先へネガティブな情報を流している。
	移籍については口頭で認めたものの、選手証の返却を遅らせ、新しいチームでの登録を遅くさせ、中学生として最後の大会を出場させなかった。
	保護者の足止めがある。グループラインや他チームの誹謗中傷合戦があり、移籍にブロック、移籍を推奨の涅槃となっている。当クラブも昨年度から、現在まで他チームへの移籍承諾したら、コーチに止められなかった。うちの子は要らない存在であり、こんなコーチを信用してよいのか？といった言われもない話が出ている。また、その選手がいわゆるエース（保護者の中で）であったため、他の選手も移籍5名程度する運びとなった。システム、運用としては移籍フリーは大変良いことであるが、少年スポーツの現場では考えつかないようなことも起きている。
	愛知県の一部の強豪クラブチームは小学生から中学に上がるときに、他チームへ移籍しない事について、誓約書を書かせると聞いています。また、愛知県の別のクラブチームで、移籍を申し出たら、愛知県ではサッカーを出来なくしてやると言われたと聞いたことがあるから。
	学校で元チームメイトから仲間はずれにされそうな雰囲気がある。基本、親がコーチだから余計に。
	選手のレベルアップのために他チームセレクションを受けに行きたいが許可がもらえず、チーム内でもリーグ戦、県大会等試合に出してもらえなくなるということがある
	指導者が自分の能力の無さを認めず、アマチュア選手に罵声等を浴びせ、周辺チームに良からぬ噂を流し、移籍そのものを困難にしている（しようとする）。
代表者等が移籍希望者の引き留めなどすぐに動けない状況を作る。また管理者のシステムやルールへの理解不足がまだ多いと感じる。	
各連盟や協会 独自のローカル ルール（移籍後 6ヶ月は公式戦 に出場できない などがある）	3種ではクラブチームから部活には行けるが部活からクラブチームへは行けないようです。クラブチーム間の移籍もNGのようです。
	中学生などは学区内の学校にサッカー部がない人は学区外の学校を希望するが教育委員会が認めてくれず市内にクラブチームがないため片道2時間離れているクラブチームに行くしかない。
	引き抜きや、行き過ぎた選手補強防止のため、各連盟で独自のルールがある。
	地域の中でのローカルルールが横行している（例：自分が通う学校に少年団がある場合はそのチームに属さなくてはならないなど）。
	選抜チームに選ばれた場合に現クラブから除籍を求められるケースを見たことがあります。理由は選抜チームと同じ大会に出るにあたり、二重登録はできないから。大会の登録はルールに沿って行えばよいと思いますが、それが理由でチームから離れなければならない、というのは理解できませんでした。
	移籍後数か月公式戦に出場できない等のペナルティの存在。
	移籍申請後、6ヶ月(?)間、次のチームでは公式戦に出場できないという規定。
	地域のローカルルールにおいて選手ファーストではない環境が蔓延している。
移籍を受諾したチームへのバッシングと移籍した子供へのペナルティがローカルルールで見受けられる。結局は移籍しにくい雰囲気でチャレンジしようという子供が可哀想。今一度プレーヤーズファーストの精神でもっとスムーズに移籍できる環境になればと願うばかりです。	
移籍されないよう な雰囲気がある	移籍できないような空気。移籍した選手は良い印象をうけない。
	地区の暗黙の了解的ルール（移籍不可）があると聞いた。
トレセンに参加で きなくなる	トレセンに選ばれて選手が移籍すると、トレセンから外されます。

【表C2-8】あなたのまわりで、チームが希望する大会やリーグへの参加状況／都道府県別

	回答者数	とても参加し やすいと思う	参加しやすい と思う	どちらでもない	参加しにくいと 思う	全く参加しにく いと思う	わからない
全国	9,743	8.3	43.1	28.8	13.1	2.0	4.7
01北海道	291	12.7	44.7	25.8	13.4	0.7	2.7
02青森県	74	4.1	44.6	25.7	16.2	4.1	5.4
03岩手県	102	6.9	49.0	26.5	11.8	2.9	2.9
04宮城県	165	7.9	41.8	30.3	14.5	1.2	4.2
05秋田県	63	12.7	49.2	27.0	4.8	0.0	6.3
06山形県	94	5.3	53.2	26.6	9.6	2.1	3.2
07福島県	139	5.8	47.5	26.6	12.2	0.7	7.2
08茨城県	291	10.0	53.3	21.3	9.6	2.1	3.8
09栃木県	176	8.0	45.5	25.6	14.2	2.8	4.0
10群馬県	153	5.9	44.4	31.4	13.1	2.6	2.6
11埼玉県	631	6.3	39.6	35.0	13.3	1.6	4.1
12千葉県	537	11.2	44.9	28.7	10.2	1.1	3.9
13東京都	1,491	7.8	42.9	28.7	12.1	3.3	5.2
14神奈川県	884	7.4	37.9	30.8	15.7	2.7	5.5
15山梨県	58	5.2	48.3	31.0	10.3	1.7	3.4
16長野県	182	7.1	39.6	32.4	11.0	1.1	8.8
17新潟県	156	10.3	42.9	25.0	14.7	0.6	6.4
18富山県	107	12.1	43.0	28.0	12.1	0.0	4.7
19石川県	128	8.6	44.5	30.5	10.9	0.8	4.7
20福井県	60	6.7	45.0	25.0	18.3	0.0	5.0
21静岡県	475	8.2	47.2	28.2	9.3	0.6	6.5
22愛知県	394	7.9	42.4	26.9	16.0	2.5	4.3
23三重県	115	13.0	41.7	23.5	13.9	5.2	2.6
24岐阜県	186	8.6	50.5	30.1	7.5	0.0	3.2
25滋賀県	119	8.4	38.7	33.6	14.3	2.5	2.5
26京都府	140	7.9	30.0	30.0	22.9	2.9	6.4
27大阪府	326	8.9	34.7	31.0	20.2	1.5	3.7
28兵庫県	376	10.9	47.6	20.5	14.4	1.9	4.8
29奈良県	86	8.1	39.5	27.9	12.8	2.3	9.3
30和歌山県	64	10.9	37.5	32.8	10.9	4.7	3.1
31鳥取県	66	15.2	43.9	22.7	13.6	0.0	4.5
32島根県	52	7.7	40.4	34.6	7.7	1.9	7.7
33岡山県	124	4.0	44.4	29.0	13.7	3.2	5.6
34広島県	201	6.0	43.3	29.9	12.4	1.0	7.5
35山口県	109	8.3	47.7	29.4	9.2	0.0	5.5
36香川県	98	4.1	50.0	29.6	12.2	1.0	3.1
37徳島県	62	6.5	50.0	24.2	16.1	0.0	3.2
38愛媛県	115	7.0	48.7	30.4	8.7	0.9	4.3
39高知県	49	12.2	51.0	28.6	4.1	0.0	4.1
40福岡県	179	8.4	36.3	33.0	16.8	2.2	3.4
41佐賀県	61	18.0	45.9	24.6	8.2	0.0	3.3
42長崎県	81	9.9	46.9	25.9	11.1	3.7	2.5
43熊本県	114	11.4	28.9	41.2	11.4	0.0	7.0
44大分県	89	6.7	43.8	25.8	16.9	0.0	6.7
45宮崎県	75	6.7	46.7	26.7	16.0	4.0	0.0
46鹿児島県	87	4.6	43.7	21.8	24.1	3.4	2.3
47沖縄県	118	6.8	41.5	31.4	15.3	2.5	2.5

あなたのまわりで、チームが希望する大会やリーグに参加しにくいと思う理由についてたずねたところ、「大会参加料の負担が大きい」が52.1%、次いで、「大会へのエントリー条件が厳しい」が38.4%、「複数チームエントリーが認められない」が20.7%、「チームの加盟登録自体が認められない」が11.7%であった（図C2-10）。その他の回答からは、「人員の確保が厳しい」「チームの人数が揃わないので、エントリーが難しい」「大会の情報を得るのが難しい」等の回答があった（表C2-9、表C2-10）。

【図C2-10】あなたのまわりで、チームが希望する大会やリーグに参加しにくいと思う理由（複数回答可）



【表C2-9】あなたのまわりで、チームが希望する大会やリーグに参加しにくいと思う理由（その他の回答）

①

	その他の回答（一部抜粋）
人員の確保が厳しい（指導者と審判）	<p>中体連活動と協会活動の調整と連携の工夫が必要 運営を担う人的余裕が無い。</p> <p>指導者不足、審判不足。</p> <p>審判や大会の手伝いの人員を提供しなくてはならないので、コーチ一人のみで大会に参加するのが厳しい。</p> <p>栃木県では4級審判資格以外に講習の義務付けがあり、4級審判資格があっても講習を受けていないと試合の審判が出来ないため、審判の人数が足りない。</p> <p>予算・審判、運営スタッフ不足や会場の確保。</p>
チームの人数が揃わないので、エントリーが難しい（合同チームや助っ人を認めてほしい）	<p>人口の少ない地域のみ複数チーム合同エントリーを認めて欲しい。</p> <p>選手数の減少により、チーム自体が成り立たない現状がある。</p> <p>チビリルールなどにおいて、選手人数が条件に達していない為、公式に参加できない（少人数のチーム同士の短期的な合同チームを認めるべき）。</p> <p>カテゴリー人数が少ないチーム同士の合同結成が認められていない。</p> <p>高校女子サッカーに関わっていたが、登録人数の多い「補欠が存在するチーム」と人数が11人に満たないチームが混在し、いずれもサッカーをしっかりと楽しむことができない事情を持っている状況です。例えば「期限付き移籍」のような条件付きのチーム編成が叶えば、地域大会レベルでの選手の満足度は上がると考える。</p> <p>少子化で選手確保が困難な時代となっている。特に少年団では近隣にクラブチームがある場合更に困難となる。年代・大会毎の合同チームが認められれば参加しやすくなるので条件緩和をお願いしたい。</p>
大会の情報を得るのが難しい（前回の大会に出場していないとなかなか話が来ない）	<p>大会への参加が必ずしもオープンではなく、知り合いかが優先されることがあるから。</p> <p>新規チームには情報がこない。</p> <p>声のかかったチーム以外は受け入れられない。</p> <p>大会の存在を知る方法がない。</p>



【表C2-10】あなたのまわりで、チームが希望する大会やリーグに参加しにくいと思う理由（その他の回答）

②

	その他の回答（一部抜粋）
（地方において）遠くて移動が困難である、または金銭的負担が大きい	地区の範囲が広く移動が大変。
	開催場所が遠くて交通手段がない人がいる。
	協会への登録費が高い上、複数の協会へ支払わなければならない（JFA、県協会、連盟、各種大会など）ため金銭的な負担が大きい。
	バス代等経済的負担が大きく多くの試合が組めない。
	離島の場合、島ではチーム数も少なく島外の試合に参加するには大きな金銭的負担を伴うため。（1回20,000円） 私は離島で指導しており石垣市では1チームしかなく大会参加の場合沖縄本島まで行かなくては行けない。また、保護者の理解が得られず本島までの旅費確保が困難。
リーグ戦に参加する際、グラウンドの確保をする必要があるが、グラウンドの確保が困難である	加盟登録が厳しいのは会場確保のルマがあることです。安価に借用することができる施設、会場が潤沢ならばこの問題は一気に解決する。東京都だけの事情かも知れないので近隣の県協会にも働きかけてもらい近隣の施設を利用させていただき大会運営することなどを認めていただきたい。施設の対しての縄張り争いみたいなもの強い。
	会場提供しないとエントリーできない。
新規チームは参加しにくい	運営が細かくて新規参入に厳しい。
	各地域のサッカー協会関係者や古くからの指導者の新規参入者への嫌がらせや妨害等あり、そもそも市町村のサッカー協会に登録していないクラブも多い。完全にサッカー少年団が日本サッカー成長の妨げになっているように感じる。
	千葉県サッカー協会の登録は3年前のやめました。指導者不足により、対応が厳しくなった為。市の協会の大会に関しては非常に参加しやすいと思います。県は、実技講習の審判、D級指導員の引率など、縛りが多すぎて、参加しにくいと思います。
	厚木市サッカー協会に加盟する際に、加盟条件があり、新参者を受け入れない姿勢から、加盟自体を敬遠してしまう。更にその精神にもサッカー愛が感じられない。神奈川県サッカー協会にキッズの大会に参加したく加盟を求めたところ、担当者が知らなかったのか、理解できなかったのか、6年生以外は大会が無い為加盟の意味がないといわれ、加盟しないことを勧められた。
大会運営の負担が大きい	全県トーナメント大会の為経済的、日程的負担が大きい（組合せ抽選会への参加、一回戦からの長距離の移動等）。
	リーグ加盟に伴う運営サポート義務の負荷（審判、平日リーグ運営会合参加など）。
	リーグに参加すると事務作業、調整などがかなり大変。担当者の負担が大きすぎる。リーグのシステムや運営に抜本的な改革が必要。
	参加ばかりで運営を手伝わなければ、大会自体の開催が困難な状況。参加には運営手伝いが絶対の条件。金だけ出せばなどはおかしい。
	グラウンド取得ルールが劣悪なうえに、都協会はカップ戦ぐらいでしかグラウンドを提供する気がなくすべてチーム任せ。結果的に東京都リーグなのに茨城で5連戦等当たり前の状態で、グラウンド取得費も莫大な金額がかかり、かつ移動に物凄く時間がかかる。グラウンド取れないなら降格確定、といっても都内は抽選なんて勝てるわけなく遠すぎてやってらんない。まず4時間という2枠分の予約を強制するのをやめないと4部リーグのチームなんてどんどん減って減びると思う。
審判資格者を用意すること、審判資格の取得、継続に要する費用が高額であること。	
大会やリーグのルールが負担（ユニフォームなど）	ユニフォームを2着揃える負担が大きい。
	ビブスはダメ、指導者資格が必要、審判資格が必要、技術講習会を受講していないとダメ。子供達を主体に考えているとは全く思えない。
	キーパーのユニフォームについて、もっと寛容に。控え選手ならビブス可能などに。また、選手のユニフォームについても、型が変わるなどメーカー都合で買い替えなければならない事情もわかってほしい。
	ユニフォーム作りから始めるのに時間や費用がかかる。
	育成年代における過剰とも思える規定条件の設定。

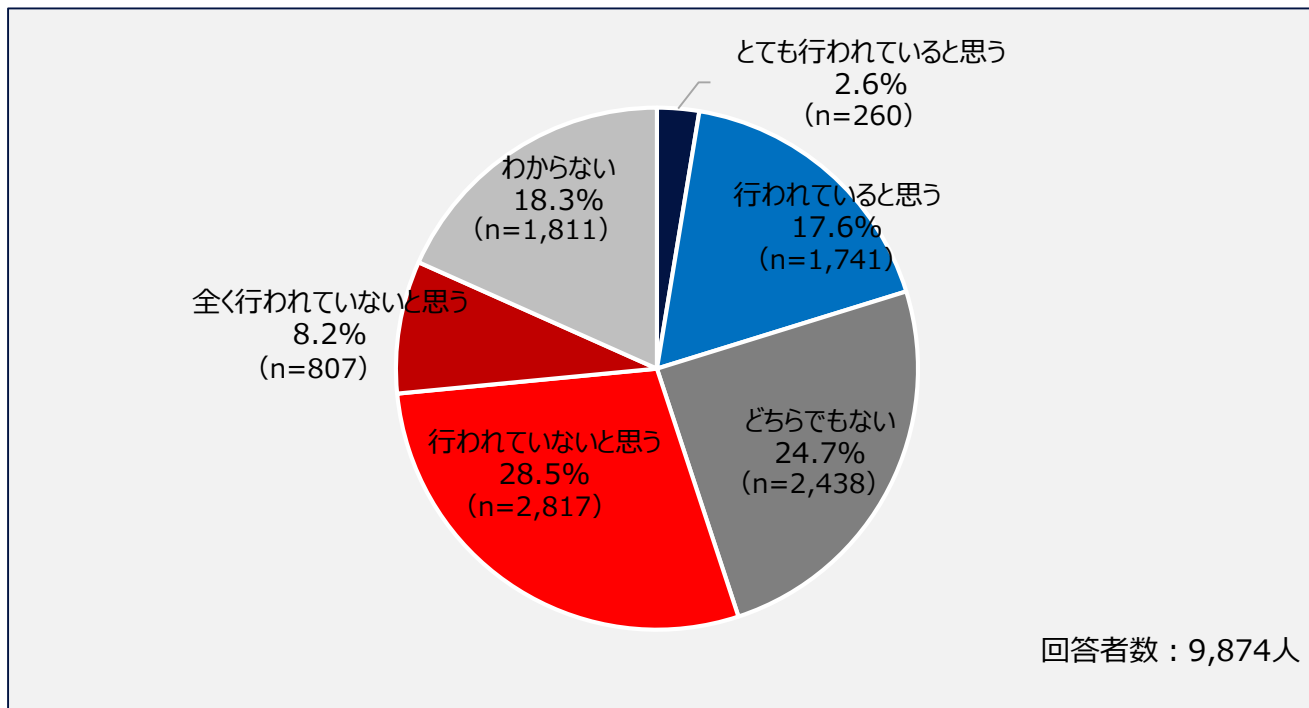
### キーワード3：障がい者サッカー

サッカーはみんなのもの。JFAは2016年4月、日本アンプティサッカー協会、日本ソーシャルフットボール協会、日本知的障がい者サッカー連盟、日本電動車椅子サッカー協会、日本脳性麻痺7人制サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会、日本ろう者サッカー協会と共に、障がい者サッカーを統括する「日本障がい者サッカー連盟」を設立しました。今後は、障がい者サッカーの普及や発展、及び障がい者と健常者が一緒にサッカーできる環境づくりに取り組むことで、障がいの理解につなげ、サッカーを通じて障がい者と健常者が普通に交わる社会の実現を進めていきたいと考えています。

### 「障がい者サッカー」の取り組み状況

「障がい者サッカー」の取り組みが行われているかどうかをたずねたところ、「とても行われていると思う」が2.6%、「行われていると思う」が17.6%、「どちらでもない」が24.7%、「行われていないと思う」が28.5%、「全く行われていないと思う」が8.2%、「わからない」が18.3%であった（図C3-1）。

【図C3-1】あなたのまわりでの「障がい者サッカー」の取り組み状況



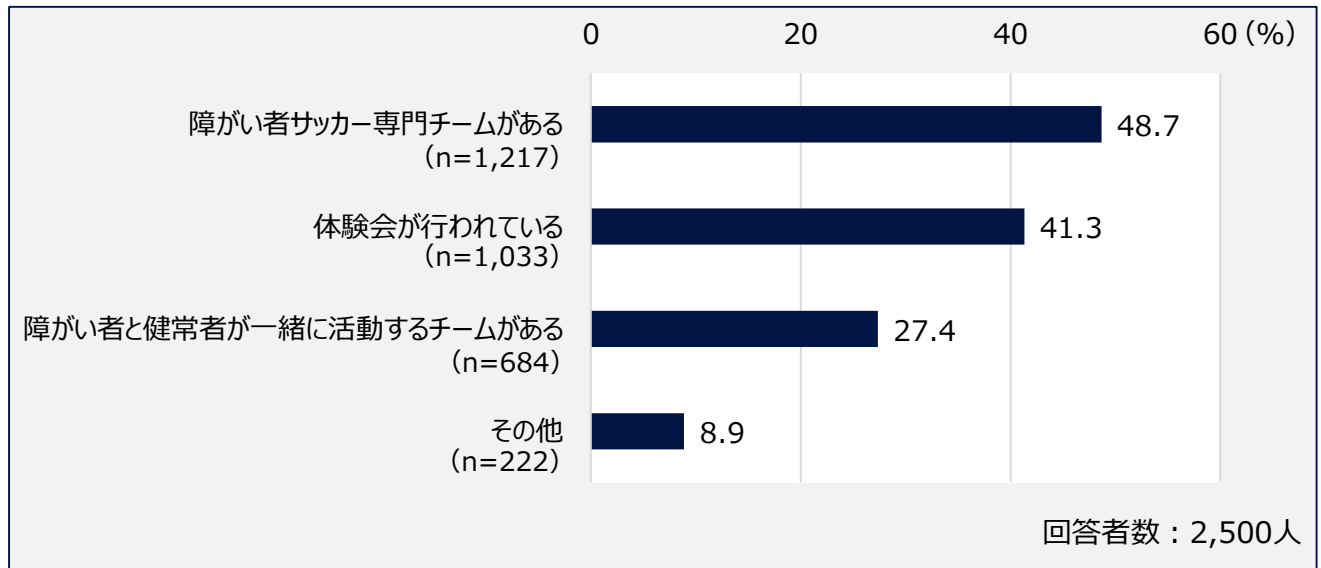
「障がい者サッカー」の取り組みが行われているかどうかを都道府県別にみたところ、「とても行われていると思う」の割合が最も高かったのは、「兵庫県」（6.3%）であり、次いで、「新潟県」（5.1%）、「長崎県」（4.9%）であった（表C3-1）。一方で「全く行われていないと思う」が最も高かったのは、「岩手県」（16.3%）、「秋田県」（15.9%）、「山形県」（13.7%）であり、東北地区が上位を占めた。

【表C3-1】「障がい者サッカー」の取り組みが行われていると思う割合／都道府県別

	回答者数	とても行われていると思う	行われていると思う	どちらでもない	行われていないと思う	全く行われていないと思う	わからない
全国	9,874	2.6	17.6	24.7	28.5	8.2	18.3
01北海道	298	3.0	26.2	25.2	22.1	8.7	14.8
02青森県	75	0.0	14.7	10.7	36.0	13.3	25.3
03岩手県	104	4.8	11.5	22.1	31.7	16.3	13.5
04宮城県	168	1.8	15.5	27.4	29.2	7.1	19.0
05秋田県	63	1.6	4.8	28.6	27.0	15.9	22.2
06山形県	95	1.1	9.5	21.1	41.1	13.7	13.7
07福島県	140	2.9	9.3	20.7	35.7	8.6	22.9
08茨城県	292	2.1	15.4	25.0	29.1	8.2	20.2
09栃木県	178	0.6	16.3	26.4	27.0	12.4	17.4
10群馬県	159	1.3	12.6	29.6	30.8	8.8	17.0
11埼玉県	639	2.7	14.9	23.0	32.9	8.3	18.3
12千葉県	543	1.7	15.7	25.4	29.8	11.6	15.8
13東京都	1501	3.2	19.9	24.0	27.4	7.6	17.9
14神奈川県	897	2.0	15.2	25.4	29.1	7.7	20.6
15山梨県	59	0.0	32.2	28.8	30.5	0.0	8.5
16長野県	184	1.6	10.3	22.3	32.6	8.7	24.5
17新潟県	156	5.1	16.0	21.2	26.9	13.5	17.3
18富山県	107	1.9	13.1	34.6	29.9	2.8	17.8
19石川県	131	1.5	19.8	28.2	25.2	9.2	16.0
20福井県	61	3.3	23.0	24.6	23.0	8.2	18.0
21静岡県	480	3.8	24.4	24.6	26.5	2.7	18.1
22愛知県	402	2.2	9.5	26.9	31.3	9.2	20.9
23三重県	117	3.4	22.2	18.8	27.4	6.8	21.4
24岐阜県	188	2.1	15.4	25.0	31.4	9.6	16.5
25滋賀県	119	2.5	21.0	21.0	27.7	10.9	16.8
26京都府	140	2.1	7.1	29.3	28.6	7.9	25.0
27大阪府	331	3.6	23.9	23.9	26.3	6.0	16.3
28兵庫県	382	6.3	26.2	20.4	22.5	5.5	19.1
29奈良県	88	3.4	12.5	22.7	27.3	8.0	26.1
30和歌山県	64	1.6	10.9	29.7	35.9	10.9	10.9
31鳥取県	66	3.0	18.2	19.7	31.8	7.6	19.7
32島根県	52	1.9	17.3	13.5	32.7	9.6	25.0
33岡山県	127	0.0	16.5	18.9	40.2	8.7	15.7
34広島県	206	1.9	16.5	29.6	24.8	9.2	18.0
35山口県	114	0.9	11.4	27.2	31.6	10.5	18.4
36香川県	98	1.0	11.2	22.4	30.6	12.2	22.4
37徳島県	64	1.6	12.5	29.7	37.5	6.3	12.5
38愛媛県	116	2.6	23.3	23.3	31.0	6.9	12.9
39高知県	49	4.1	18.4	22.4	28.6	6.1	20.4
40福岡県	180	2.8	20.0	31.1	22.8	6.1	17.2
41佐賀県	62	0.0	12.9	30.6	35.5	8.1	12.9
42長崎県	82	4.9	15.9	25.6	28.0	6.1	19.5
43熊本県	119	1.7	17.6	31.1	25.2	6.7	17.6
44大分県	90	3.3	22.2	20.0	20.0	12.2	22.2
45宮崎県	78	2.6	24.4	29.5	20.5	6.4	16.7
46鹿児島県	88	4.5	22.7	26.1	25.0	5.7	15.9
47沖縄県	122	2.5	33.6	24.6	17.2	5.7	16.4

「障がい者サッカー」の取り組みが行われていると思う理由についてたずねたところ、「障がい者サッカー専門チームがある」が48.7%と最も高く、次いで「体験会が行われている」が41.3%、「障がい者と健常者が一緒に活動するチームがある」が27.4%であった（図C3-2）。その他の回答からは「SNSやテレビなどで知られている」「自分が障がい者サッカーに関わっている、または身近（職場など）に障がい者サッカーに関わっている人がいる」「審判活動で関わったことがある」等の回答があった（表C3-2）。

【図C3-2】「障がい者サッカー」の取り組みが行われていると思う理由（複数回答可）



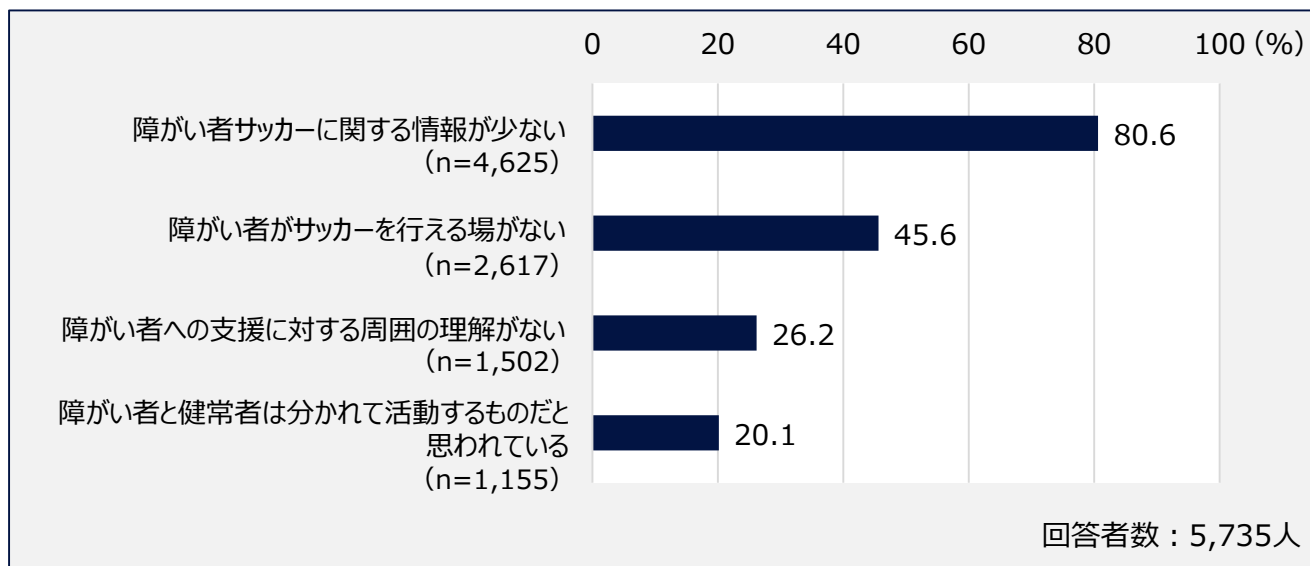
【表C3-2】「障がい者サッカー」の取り組みが行われていると思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
SNSやテレビなどで知られている	露出が増えて関心が高まっている。
	パラリンピックのブラインドサッカーの事前キャンプを誘致使用している。
	活動の様子をSNSでよく見るから。
	テレビなどで知った。
自分が障がい者サッカーに関わっている、または身近（職場など）に障がい者サッカーに関わっている人がいる	知的障害児の放課後デイサービスでサッカーを教えている。
	職場の人がやっている。
	監督が活動に関わっているため。
	障害者チームの大会の運営。
	子供がボランティアを行っている。
	障がい者と健常者が一緒に活動するチームの運営をしている。
	障がい者チームをリーグに受け入れている。
	新潟で障がい者イベント等開催している。
	社内の障害者選手の活躍がトピックスとして社内に紹介されている。
	障がい者チームと練習試合などで交流しているチームがある。
障害者を対象としたサッカー教室を行なっている。	
審判活動で関わったことがある	ろう者も参加できる審判講習会。
	大会における審判活動があった。
	審判として大会に参加したことがある。
特別支援学校で活動されている	近所の養護学校のサッカーサークルがある。
	障害者施設で行われているのを聞いたことがあるので。
	支援学校等では、いろいろな活動の中の一つとして行われているように思います。
その他	子供が聴覚障がい者ですが、地域の理解があり健常者とプレーさせてもらっています。環境に恵まれていて良かったと思いますが一部には差別的な扱いを受けたこともあった。今後は、自ら進んで障がい者サッカーに取り組み、改善に努めたい。
	行政と連携して取り組んでいる。
	県協会と障害者サッカー連盟が提携している。

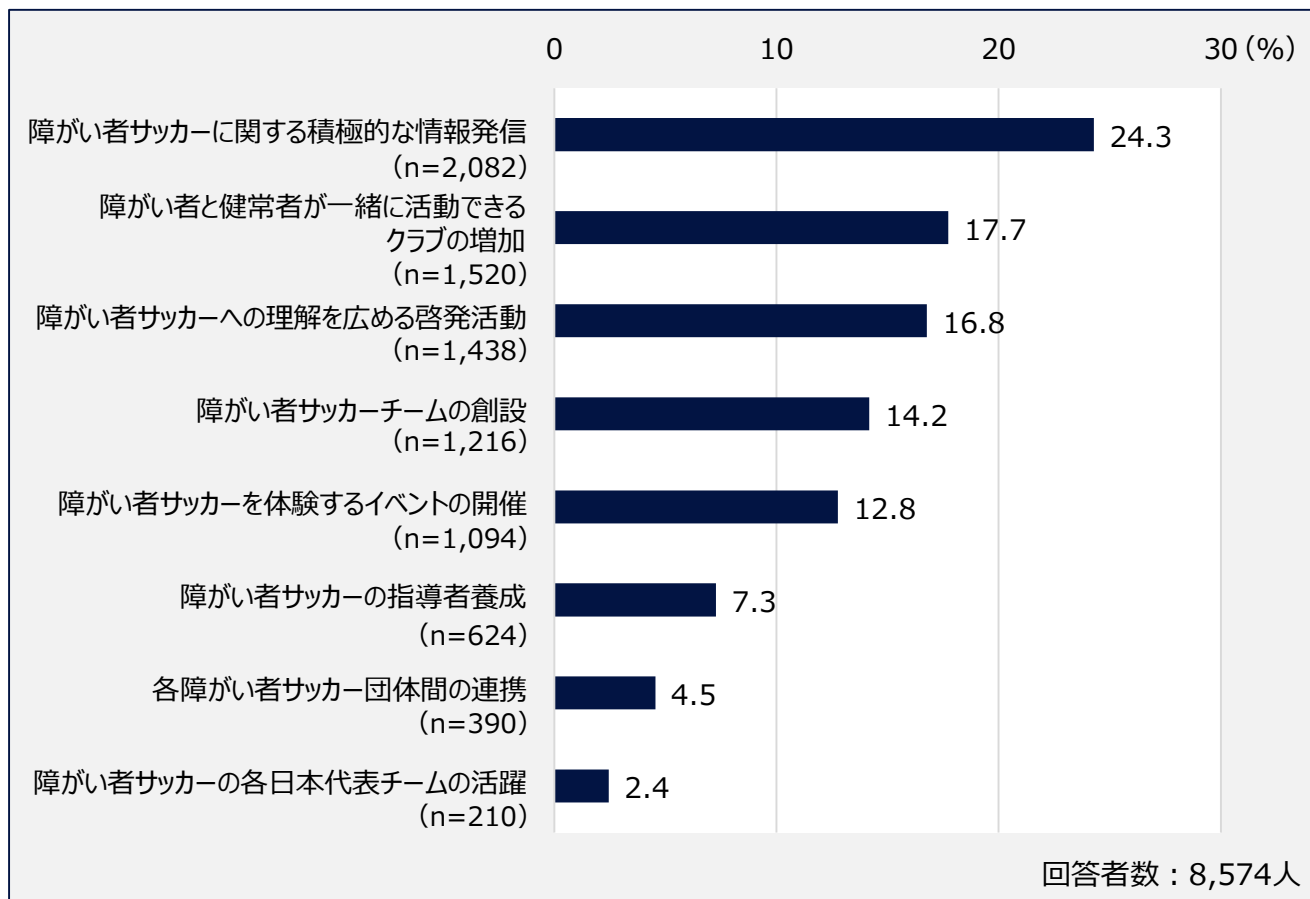
「障がい者サッカー」の取り組みが行われていないと思う理由についてたずねたところ、「障がい者サッカーに関する情報が少ない」が80.6%と最も高く、次いで「障がい者がサッカーを行える場がない」が45.6%、「障がい者への支援に対する周囲の理解がない」が26.2%、「障がい者と健常者は分かれて活動するものだと思われる」が20.1%であった（図C3-3）。

また、「障がい者サッカー」の取り組みがもっと行われるようにするために重要と思うことについてたずねたところ、「障がい者サッカーに関する積極的な情報発信」が24.3%と最も高く、次いで「障がい者と健常者が一緒に活動できるクラブの増加」が17.7%、「障がい者サッカーへの理解を広める啓発活動」が16.8%のであった（図C3-4）。

【図C3-3】「障がい者サッカー」の取り組みが行われていないと思う理由（複数回答可）



【図C3-4】「障がい者サッカー」の取り組みがもっと行われるようにするために必要と思うこと



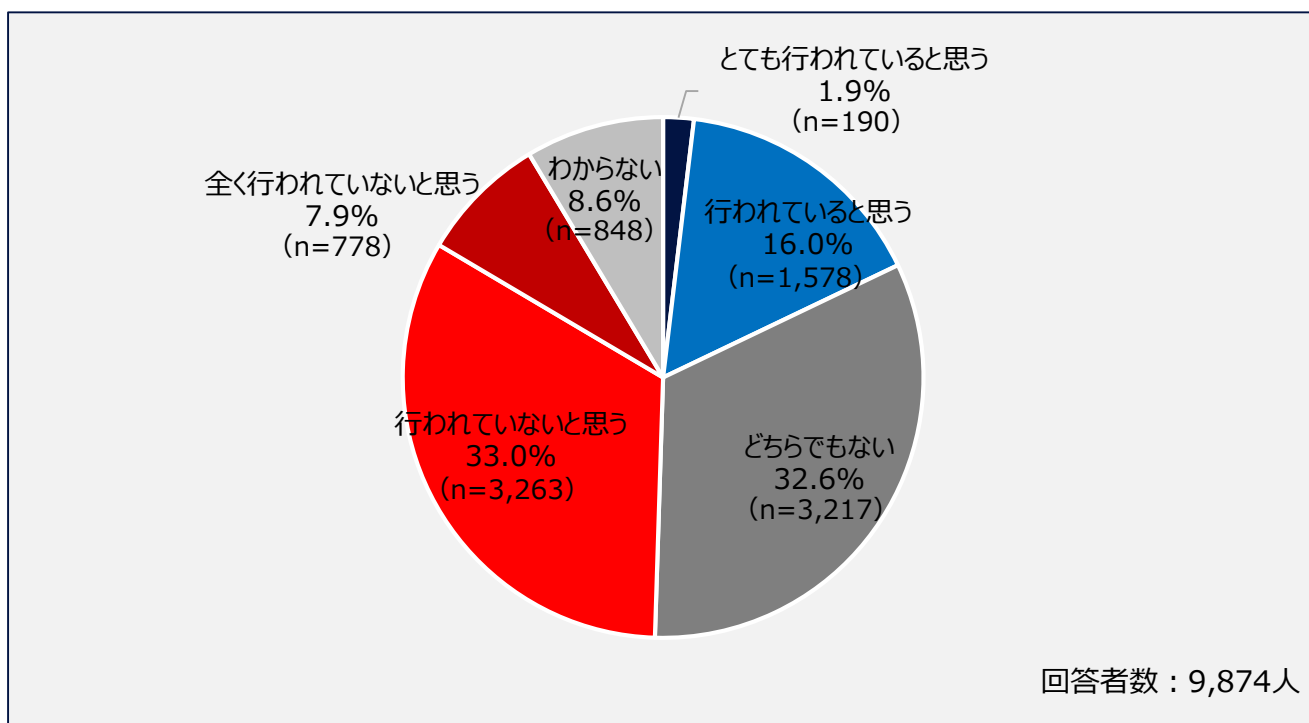
## キーワード4：他スポーツとの協働

幼少期は、サッカーだけでなく、他のスポーツや遊び、社会的な活動など、様々なことを経験することによって、豊かな感性・創造性・自主性などが育まれていくと考えています。サッカーが好きでサッカーだけ続けるのは本人の自由ですが、他のスポーツなどを選択するのもまた本人の自由です。本人の個性や特徴が活かせる選択肢を少しでも多く持てる環境があれば、楽しくスポーツを続けていくことができるのではないのでしょうか。また、サッカーの環境だけが充実すれば良いという考え方ではなく、他のスポーツ団体と協働し、より多くの人達がスポーツを継続して楽しめるようなスポーツ全体の環境整備を進めていきたいと考えています。

### 「他スポーツとの協働」の取り組み状況

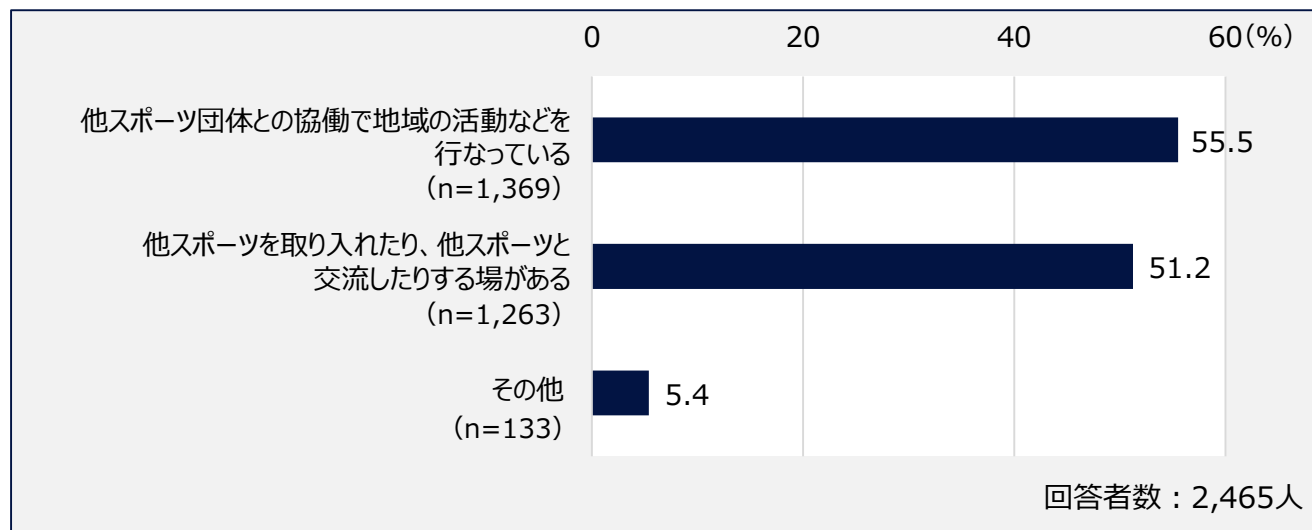
「他スポーツとの協働」の取り組みが行われているかどうかをたずねたところ、「とても行われていると思う」が1.9%、「行われていると思う」が16.0%、「どちらでもない」が32.6%、「行われていないと思う」が33.0%、「全く行われていないと思う」が7.9%、「わからない」が8.6%であった（図C4-1）。

【図C4-1】あなたのまわりでの「他スポーツとの協働」の取り組み状況



「他スポーツとの協働」の取り組みが行われていると思う理由についてたずねたところ、「他スポーツ団体との協働で地域の活動などを行っている」が55.5%と最も高く、次いで「他スポーツを取り入れたり、他スポーツと交流したりする場がある」が51.2%であった（図C4-2）。その他の回答からは「チーム間・指導者間で交流している」「練習で他スポーツを取り入れている」「他スポーツをしていることを容認している、行っている」「練習場所を共有している」の回答があった（表C4-1）。

【図C4-2】「他スポーツとの協働」の取り組みが行われていると思う理由（複数回答可）

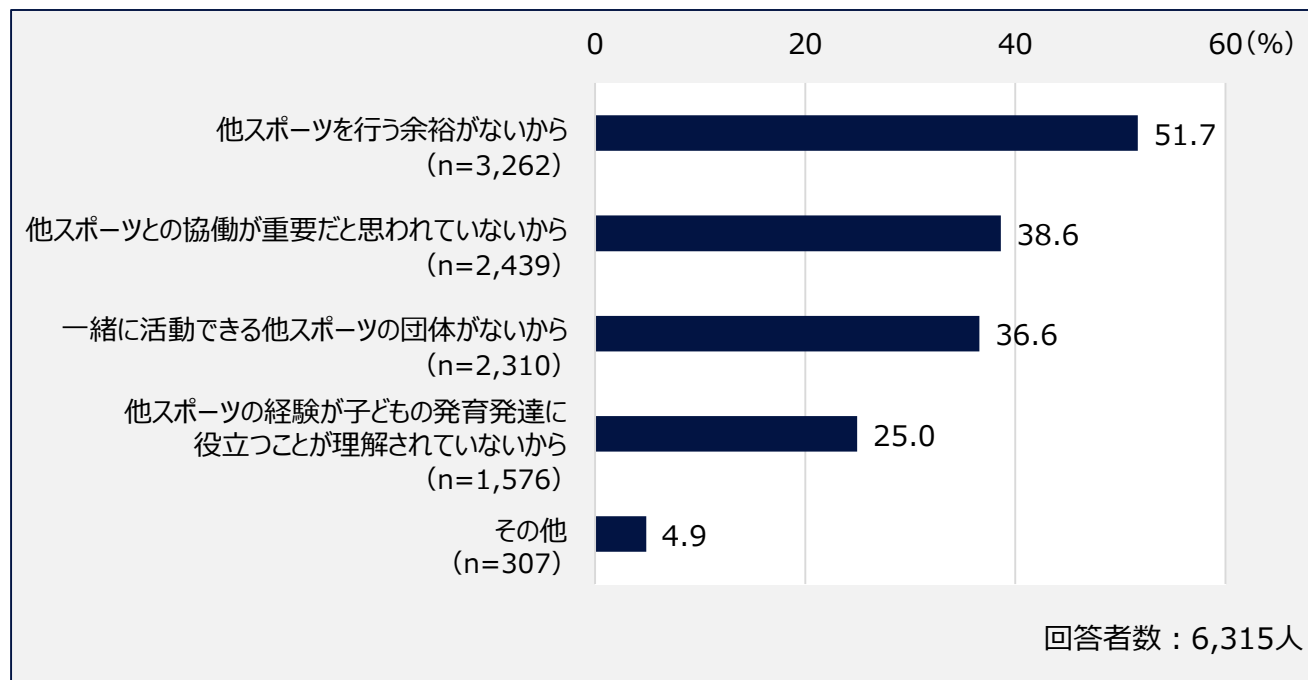


【表C4-1】「他スポーツとの協働」の取り組みが行われていると思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
チーム間・指導者間で交流している	指導者間での情報交換はしている。 スポーツ少年団での他競技団体との交流。 他スポーツの応援に行く。
練習で他スポーツを取り入れている	練習でも他のスポーツを入れている。オリンピックの他スポーツと運営が一緒なので、その影響も大きいと思う。 トレーニングに他のスポーツを取り入れている。 少年団のコーチなので、バスケットの指導も取り入れたりします。
他スポーツをしていることを認めている、行っている	私自身が総合型地域スポーツクラブの運営をしているのでサッカーの子でも他の競技に参加が出来る。 スポーツクラスにサッカー部以外の部活の生徒との混合なので、あらゆる場面において自然と協働ができています。 他スポーツも同時に行っていることをチームが認めてくれている。 学校敷地内にNPO法人のスポーツクラブが設置されており、サッカー以外のスポーツ活動も行われている。 自チームに所属している選手の半数が、他スポーツを行なっているから。 部活動で他競技に所属している選手がいる。 学校で、相撲や駅伝、クロカンなど、気軽に参加できる大会がある。 当クラブは複合型のスポーツクラブであり、プール・新体操などもある。小学生以下の選手の平日は、1~2回に制限をして、様々なスポーツを行うように推奨している。また、水泳にはオリンピック選手が在籍しており、トップアスリートを身近に感じる環境、高校生の試合などを親子で観戦する機会などを設けるなど、様々な工夫をしている。
練習場所を共有している	グラウンドの共用。 グラウンドの譲り合い。

「他スポーツとの協働」の取り組みが行われていないと思う理由についてたずねたところ、「他スポーツを行う余裕がないから」が51.7%と最も高く、次いで「他スポーツとの協働が重要だと思われていないから」が38.6%、「一緒に活動できる他スポーツの団体がないから」が36.6%、「他スポーツの経験が子どもの発育発達に役立つことが理解されていないから」が25.0%であった（図C4-3）。その他の回答からは「（少子化による）子どもたちの奪い合い」「他スポーツをすることに対する指導者の理解がない」「活動できる場がない、または施設の取り合いで協働できない」等の回答があった（表C4-2、表C4-3）。

【図C4-3】「他スポーツとの協働」の取り組みが行われていないと思う理由（複数回答可）



【表C4-2】「他スポーツとの協働」の取り組みが行われていないと思う理由（その他の回答）①

	その他の回答（一部抜粋）
（少子化による）子どもたちの奪い合い	少子化によりスポーツ団体で子供の取り合いとなっている。
	スポーツ人口の減少により、他スポーツへの流出を防ぐ動きによるもの。
	大きな町では無いので子供も少ないが選択肢はそれなりにある(サッカー、バスケ、野球、パレー等)ため、悪く言えば子供の取り合いのような感じになっており、他のスポーツクラブとはライバルみたいな関係になってしまっている。
	身体能力が高い選手を自分のクラブ・少年団に囲い込もうとする指導者のエゴ。複数のスポーツをする事の重要性及びそれが当たり前の文化・環境の欠如。スケジュールの重複。スポーツ毎の季節制・シーズン制が無い。
他スポーツをすることに対する指導者の理解がない	指導者が他の競技をすることに難色を示す。
	地域柄でしょうか？サッカーに理解をしようとしてくれない方が多いです。(かつては野球が盛んだ地域です。中学校でもサッカー部の復活をお願いしましたが、サッカー嫌いな教頭により却下されたりしています。)
	指導者、親、それぞれが、他スポーツがサッカーに役立つ、あるいは、サッカーが他スポーツに役立つという理解が全く無い。また、いわゆる「掛け持ち」は選手が冷遇される結果になるため、積極的に行なわれない。指導者自身が「掛け持ちを認めない。どちらか一方に決める。」と選手やその親に決断を迫るケースもある。
	他スポーツをやるために練習を休むと、サッカーの試合に出れなくなる。
活動できる場がない、または施設の取り合いで協働できない	野球チームの発言権が強く、地域のスポーツ拠点（学校の校庭）使用を独占しているため、他のスポーツ活動に支障が出ている。
	場所の取り合いやクレームなどあり、実態は協働がなされているような状況ではない。
	学校施設などを利用している団体は他団体とのグラウンドの取り合いなどにより互いにリスペクト出来ていない。
	グラウンドや体育館の取り合いで、他のスポーツはむしろ敵対視している。

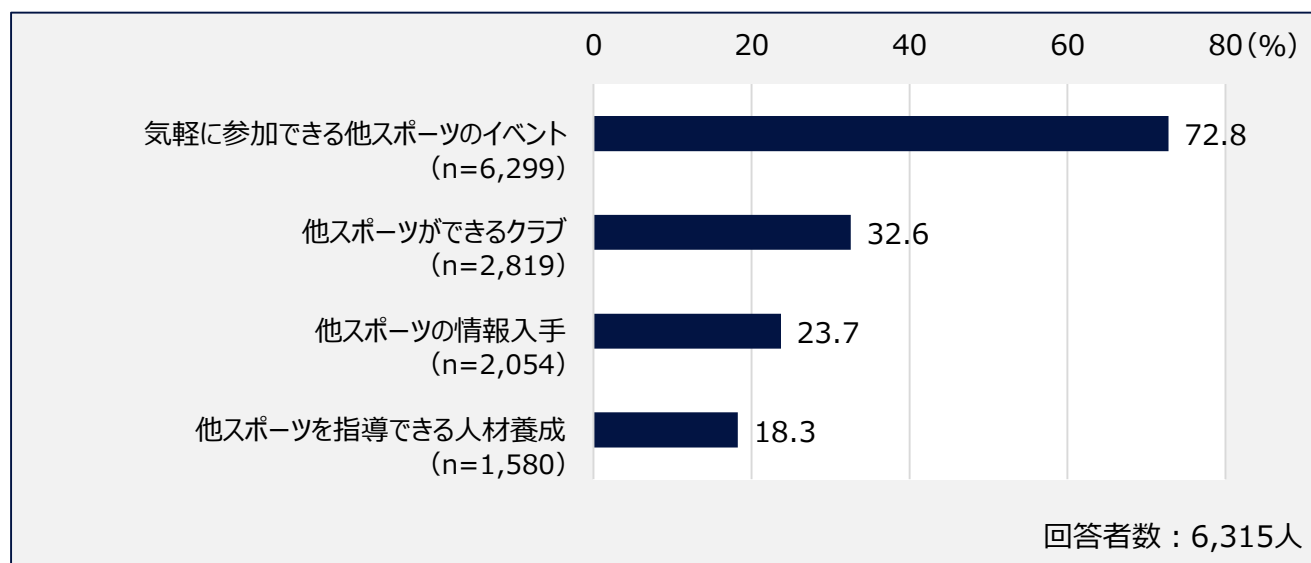


【表C4-3】「他スポーツとの協働」の取り組みが行われていないと思う理由（その他の回答）②

	その他の回答（一部抜粋）
1つのことをやり続ける美德があるため	指導者をはじめ父兄・保護者・選手が単一種目としてその競技力向上しか考えていないから。
	日本人は一つのことをやるのが良いという価値観が強い。アメリカではシーズンごとに競技変えて体験することも普通。
	一つのスポーツを追求することに価値があると思われるから。
	他のスポーツを行っている時間はある種の『裏切り』だという考えが日本人の心の奥底に少なからずあるから。
選手が他種目に移籍する不安	選手の他種目移籍が怖い。
	選手を「困む」事が目的になっており、他競技に「盗られる」事への恐れから。
他スポーツをする余裕がない（時間がない）	スケジュール的に掛け持ちする余裕が無い。
	少年サッカーチームの指導者が自分のチーム活動が精一杯で余裕がない。
	練習の休みがない、練習を休んで他スポーツをできる環境がない。
	リーグ戦で日程が詰まりすぎて、他スポーツをする余裕などありません。
協働する方法がわからない	どう協働すべきか不明。

「他スポーツとの協働」の取り組みがもっと行われるようにするために必要と思うことについてたずねたところ、「気軽に参加できる他スポーツのイベント」が72.8%と最も高く、次いで「他スポーツができるクラブ」が32.6%、「他スポーツの情報入手」が23.7%、「他スポーツを指導できる人材養成」が18.3%であった（図C4-4）。

【図C4-4】「他スポーツとの協働」の取り組みがもっと行われるようにするために必要と思うこと（複数回答可）



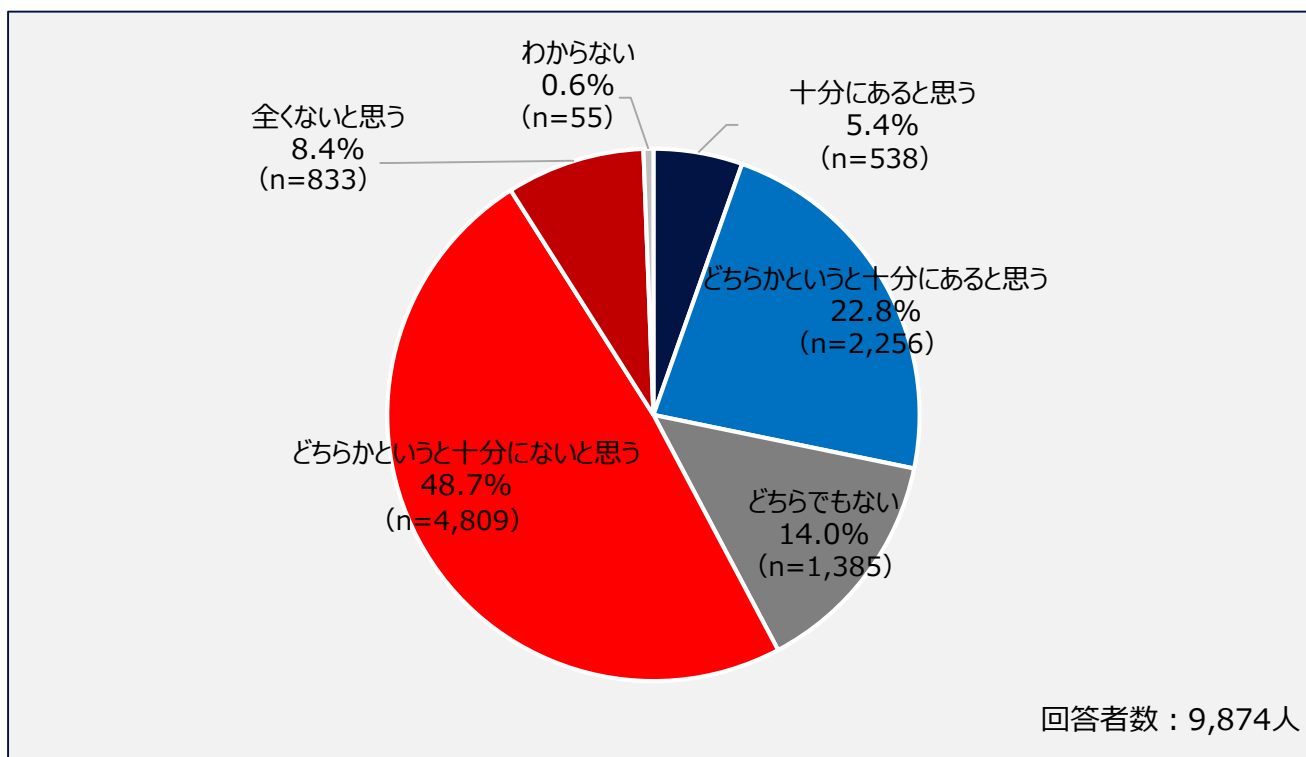
## キーワード5：施設の確保

サッカーに関わる様々な活動を行うためには、施設を確保することが最重要課題です。施設が不足している地域では、施設の取り合いで、チーム同士の関係が悪化しているところもあります。そのような状況から脱却するために、「施設を借りる」というだけでなく「施設を造る」という取り組みが必要だと考えています。遊休地、廃校、休耕田、空き倉庫、ゴルフ場空きスペース等の利活用やPFI方式(自治体の土地を利用して民間が施設を造る)等による施設づくり、各種助成制度を活用した場所の確保など、自由に使える施設を、チームやクラブが自分達で整備していけるような環境づくりを進めていきたいと考えています。

### 「施設の確保」の取り組み状況

「施設の確保」の取り組みが行われているかどうかをたずねたところ、「十分にあると思う」が5.4%、「どちらか」として十分にあると思う」が22.8%、「どちらでもない」が14.0%、「どちらか」として十分でないと思う」が48.7%、「全くないと思う」が8.4%、「わからない」が0.6%であった（図C5-1）。

【図C5-1】あなたのまわりで利用できるサッカー施設の状況



「施設の確保」の取り組みが行われているかどうかを都道府県別にみたところ、「十分にあると思う」の割合が最も高かったのは、長崎県（12.2%）であり、次いで、「秋田県」（9.5%）、「奈良県」と「鳥取県」（9.1%）であった（表C5-1）。一方で「全くないと思う」が最も高かったのは、「京都府」（22.9%）であった。

【表C5-1】あなたのまわりでの利用できるサッカー施設の状況／都道府県別

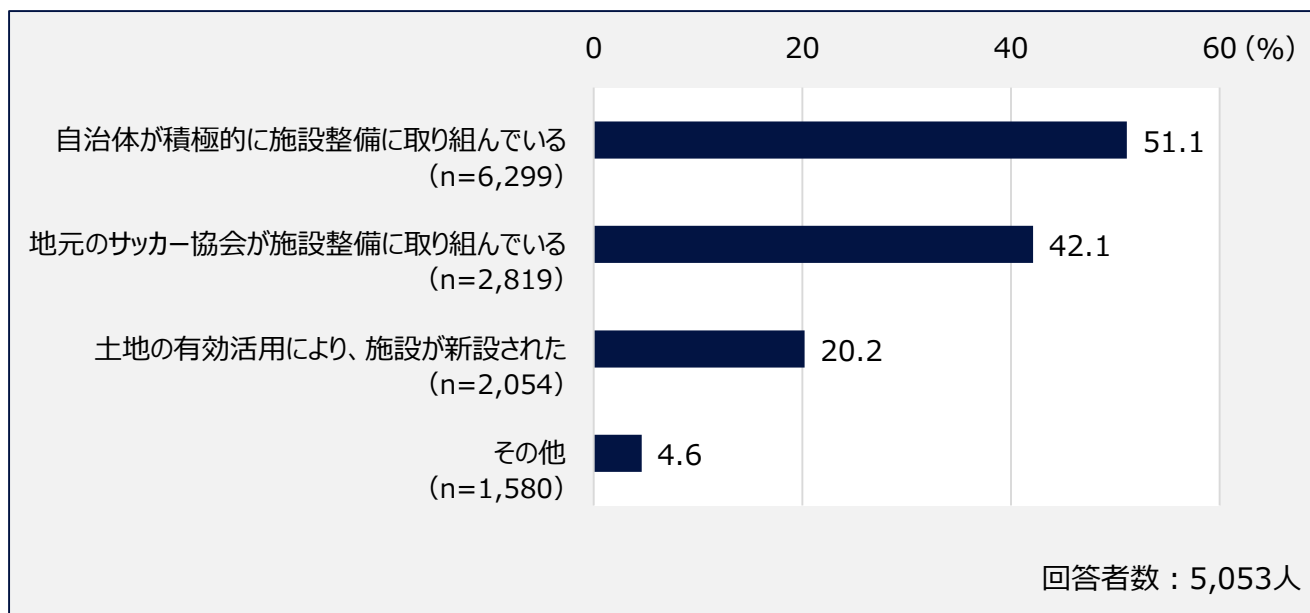
	回答者数	十分にあると思う	どちらかという 十分にあると思う	どちらでもない	どちらかという 十分がないと思う	全くないと思う	わからない
全国	9,874	5.4	22.8	14.0	48.7	8.4	0.6
01北海道	298	8.4	27.2	14.1	46.0	4.0	0.3
02青森県	75	1.3	21.3	18.7	53.3	5.3	0.0
03岩手県	104	4.8	29.8	12.5	49.0	3.8	0.0
04宮城県	168	7.1	22.0	11.3	49.4	10.1	0.0
05秋田県	63	9.5	31.7	12.7	36.5	9.5	0.0
06山形県	95	7.4	21.1	18.9	49.5	2.1	1.1
07福島県	140	6.4	15.7	13.6	58.6	5.7	0.0
08茨城県	292	8.2	27.7	14.0	42.1	6.8	1.0
09栃木県	178	2.2	21.9	11.8	56.2	6.7	1.1
10群馬県	159	6.3	30.8	18.2	39.0	5.7	0.0
11埼玉県	639	5.8	19.6	15.3	49.6	9.1	0.6
12千葉県	543	5.9	25.0	15.5	47.5	5.9	0.2
13東京都	1501	3.1	18.7	11.5	54.4	11.9	0.4
14神奈川県	897	3.8	18.3	12.9	54.1	10.5	0.4
15山梨県	59	5.1	22.0	22.0	44.1	6.8	0.0
16長野県	184	3.3	20.1	13.6	51.1	9.2	2.7
17新潟県	156	7.7	23.7	13.5	51.3	3.8	0.0
18富山県	107	5.6	23.4	15.0	52.3	3.7	0.0
19石川県	131	7.6	34.4	20.6	35.1	0.8	1.5
20福井県	61	3.3	18.0	6.6	57.4	13.1	1.6
21静岡県	480	8.5	31.9	16.5	39.4	3.3	0.4
22愛知県	402	4.2	19.7	15.7	49.0	10.9	0.5
23三重県	117	2.6	16.2	12.0	53.8	15.4	0.0
24岐阜県	188	8.5	23.4	12.2	47.3	8.5	0.0
25滋賀県	119	4.2	29.4	8.4	41.2	15.1	1.7
26京都府	140	2.1	13.6	12.1	47.9	22.9	1.4
27大阪府	331	7.3	25.1	16.9	43.5	6.6	0.6
28兵庫県	382	6.0	29.3	11.3	45.0	6.8	1.6
29奈良県	88	9.1	23.9	12.5	50.0	4.5	0.0
30和歌山県	64	6.3	20.3	10.9	43.8	18.8	0.0
31鳥取県	66	9.1	39.4	16.7	28.8	6.1	0.0
32島根県	52	3.8	34.6	7.7	40.4	9.6	3.8
33岡山県	127	7.1	22.0	11.8	53.5	5.5	0.0
34広島県	206	5.8	18.4	13.6	48.5	12.6	1.0
35山口県	114	5.3	30.7	16.7	39.5	7.0	0.9
36香川県	98	4.1	27.6	18.4	40.8	9.2	0.0
37徳島県	64	6.3	21.9	15.6	46.9	9.4	0.0
38愛媛県	116	7.8	26.7	14.7	49.1	1.7	0.0
39高知県	49	6.1	18.4	14.3	53.1	8.2	0.0
40福岡県	180	6.7	16.7	12.8	56.7	6.7	0.6
41佐賀県	62	3.2	24.2	17.7	46.8	6.5	1.6
42長崎県	82	12.2	19.5	18.3	40.2	9.8	0.0
43熊本県	119	6.7	21.8	19.3	47.1	5.0	0.0
44大分県	90	3.3	24.4	17.8	45.6	7.8	1.1
45宮崎県	78	5.1	38.5	7.7	44.9	3.8	0.0
46鹿児島県	88	2.3	23.9	13.6	51.1	8.0	1.1
47沖縄県	122	4.9	18.0	22.1	45.9	9.0	0.0

「施設の確保」の取り組みが行われていると思う理由についてたずねたところ、「自治体が積極的に施設設備に取り組んでいる」が51.1%と最も高く、次いで「地域のサッカー協会が施設設備に取り組んでいる」が42.1%、「土地の有効活用により、施設が新設された」が20.2%であった（図C5-2）。その他の回答からは「学校の校庭や運動場が開放されている」「ポット苗（※）に応募した」等の回答があった（表C5-2）。

※ポット苗：「JFAグリーンプロジェクト」の一環として、JFAが応募いただいた自治体・施設等に芝生の苗（ポット苗）を無償提供し、応募いただいた方のグラウンドを芝生化する取り組みです。

（[http://www.jfa.jp/social\\_action\\_programme/green\\_project/](http://www.jfa.jp/social_action_programme/green_project/)）

【図C5-2】「施設の確保」の取り組みが行われていると思う理由（複数回答可）

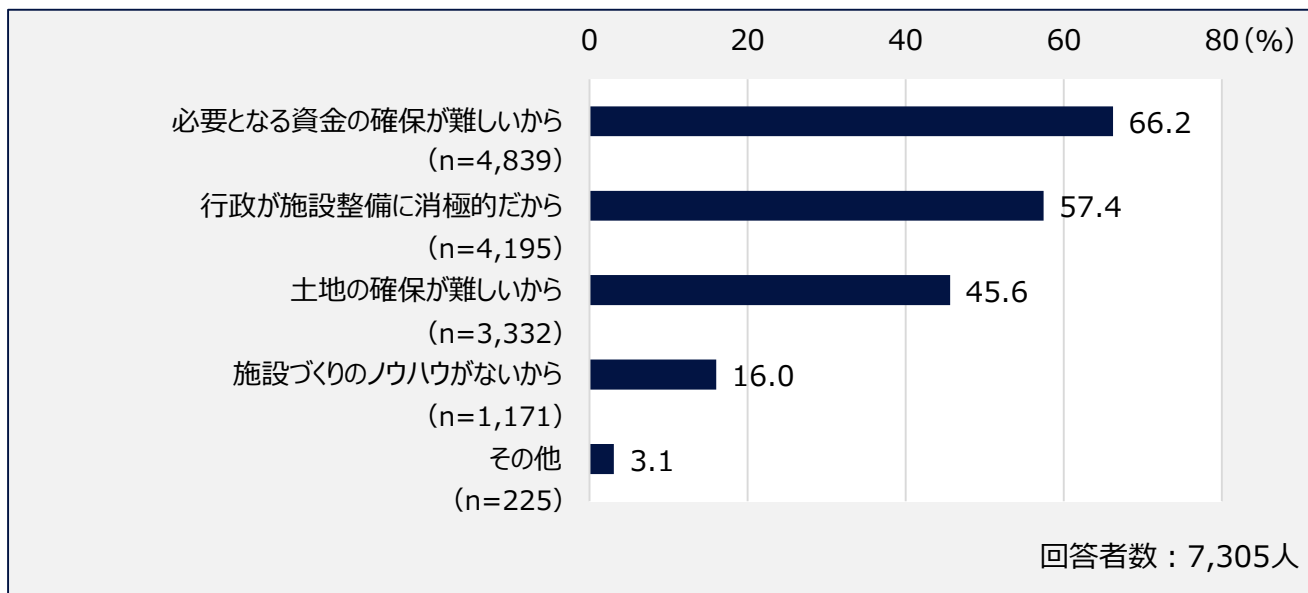


【表C5-2】「施設の確保」の取り組みが行われていると思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
学校の校庭や運動場が開放されている	学校の体育施設を開放している。
	大学チームと連携して、大学のグラウンドを利用できている。また、地元との連携がうまく図られているので、優先的に施設を使うことができている。
	学校の環境整備と開放。
ポット苗に応募した	ポット苗芝生化事業。
	自らポット苗芝応募。
その他	会社が保有している施設。
	個人が所有している田畑をサッカーグラウンドにしている。
	チーム内のコーチが自己負担でミニサッカー場を作っている。
	少年用のグラウンドを町が整備してくれた。
	地元企業が積極的に施設整備に取り組んでいる。

「施設の確保」の取り組みが行われていないと思う理由についてたずねたところ、「必要となる資金の確保が難しいから」が66.2%と最も高く、次いで「行政が施設設備に消極的だから」が57.4%、「土地の確保が難しいから」が45.6%、「施設づくりのノウハウがないから」が16.0%であった（図C5-3）。その他の回答からは「施設を利用しにくい」「サッカーやフットサルが禁止されている」「施設の予約や確保が難しい」等の回答があった（表C5-3）。

【図C5-3】「施設の確保」の取り組みが行われていないと思う理由（複数回答可）



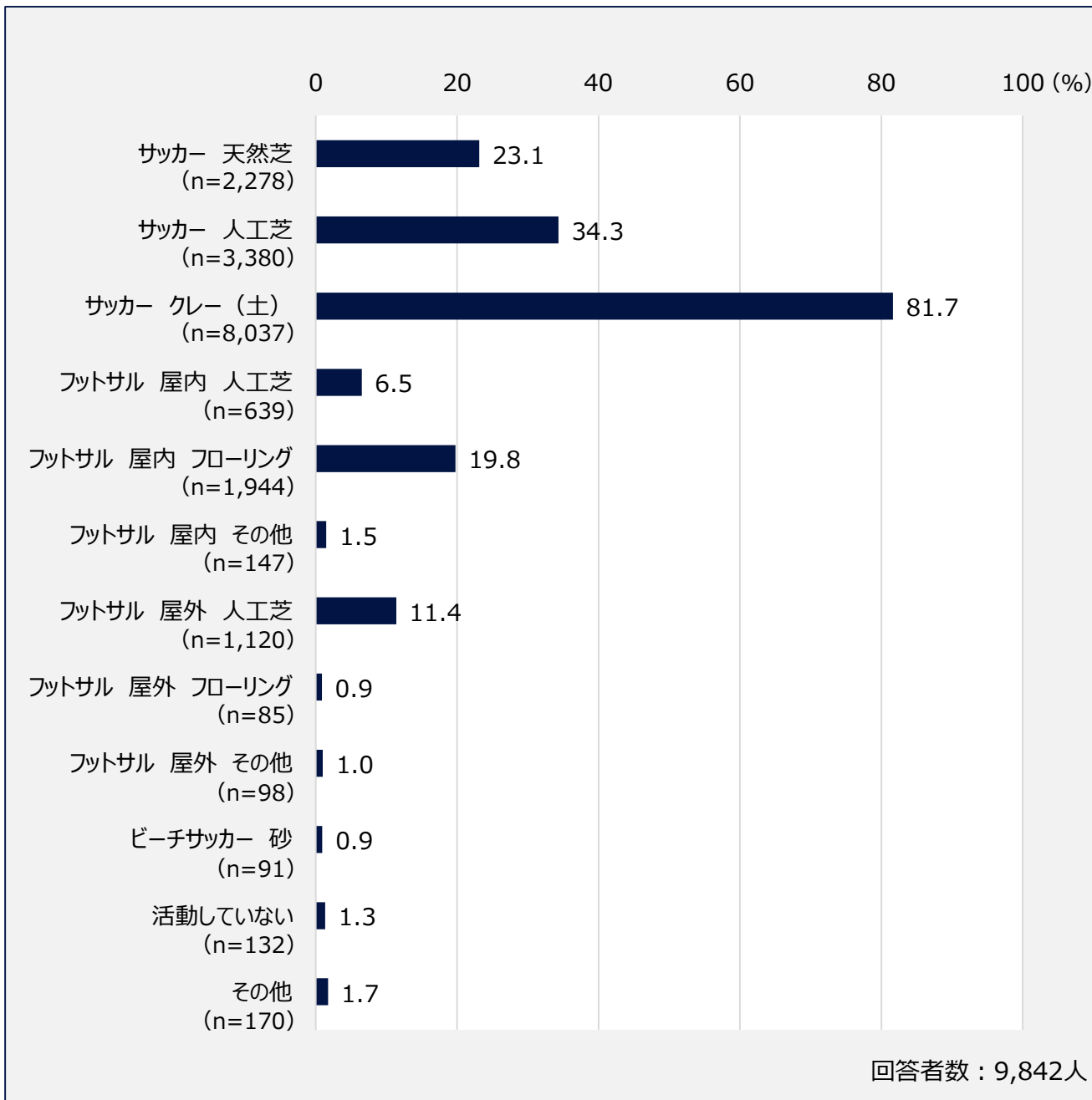
【表C5-3】「施設の確保」の取り組みが行われていないと思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
施設を利用しにくい（利用制限、アクセス不便、照明やゴール等の設備不足）	ピッチ（競技・練習場所）を作る努力はしてくれているが、アクセスが不便だったり、駐車スペースを犠牲にして拡張したりしているため、トータル的には使いづらい状況があまり改善されていない。
	小学校を借りているが校長などの理解が得られなくゴールポストの撤去や使用制限がもうけられている。
	現状の施設、新規の施設で定期的に自由に活動出来ないようなしらがみがある。
	フットサル施設は飽和状態ですがサッカー施設が少ないと思います。特に民間経営のサッカー施設がほとんどなく、だいたい市町村などの公共の団体が運営しています。
	施設利用料金が高額。
	照明施設のある小学校・中学校が少なすぎて、クラブチームなどは使用できるグラウンドが限られてしまう。
	経営が成り立たず無料グラウンドを有料にしていることが顕著に見られるため。
サッカーやフットサルが禁止されている	施設近隣住民から騒音等の迷惑施設ととらえられている。
	笛吹くだけで、近所からクレームが来る環境です。
	フットサルは使用不可な体育館が多い。
	小中学校の校長、教頭がサッカーフットサルを理由に体育館を貸し出す事に不満を抱いているから。
施設の予約や確保が難しい	施設が少なく、公園もボール遊びがNGの場所が多過ぎる。
	施設経営側から施設内でボールを蹴る事に関して施設に支障をきたす為、許可が下りない。
	施設の利用申し込みが簡単にはできない（平日の日中帯しか申し込みできない施設が多い）。
行政がグラウンドを作ることに消極的	シニア世代がグラウンドを占有している。
	地域の物ははずなのに、1チームが牛耳っていて他チームが使えないから。
	施設整備について、協会と地域のクラブチームが自治体に依存しているため。特に協会については、他スポーツ協会と連携し、廃校を利活用する等、自治体に頼らない施設運営を検討して欲しい。
	日本ではスポーツが文化として根付いていないため、行政や民間企業がスポーツ施設整備の理解に乏しい。
その他	人工芝、芝のグラウンドを増やそうと自治体が積極的に考えていない。
	市施設に協会として天然芝を植えサッカーグラウンドとしての活動を実施したが市は管理に消極的で、人工芝案も提示したが進捗は見られない。
	区連盟が一チームに優先的に貸し出している。
	そもそも造るのではなく、有効活用することを考えないといけないと思う。
	長崎は土地がありません。
維持管理の費用が無い。	
本格的な施設に拘りすぎ。単なる原っぱでもいい。近隣住民がクレームを入れると行政の緑地課などはすぐボール利用禁止にしてしまう。大人たちは子供たちの健やかな成長を阻害すぎ！	

## 普段の活動場所の状況

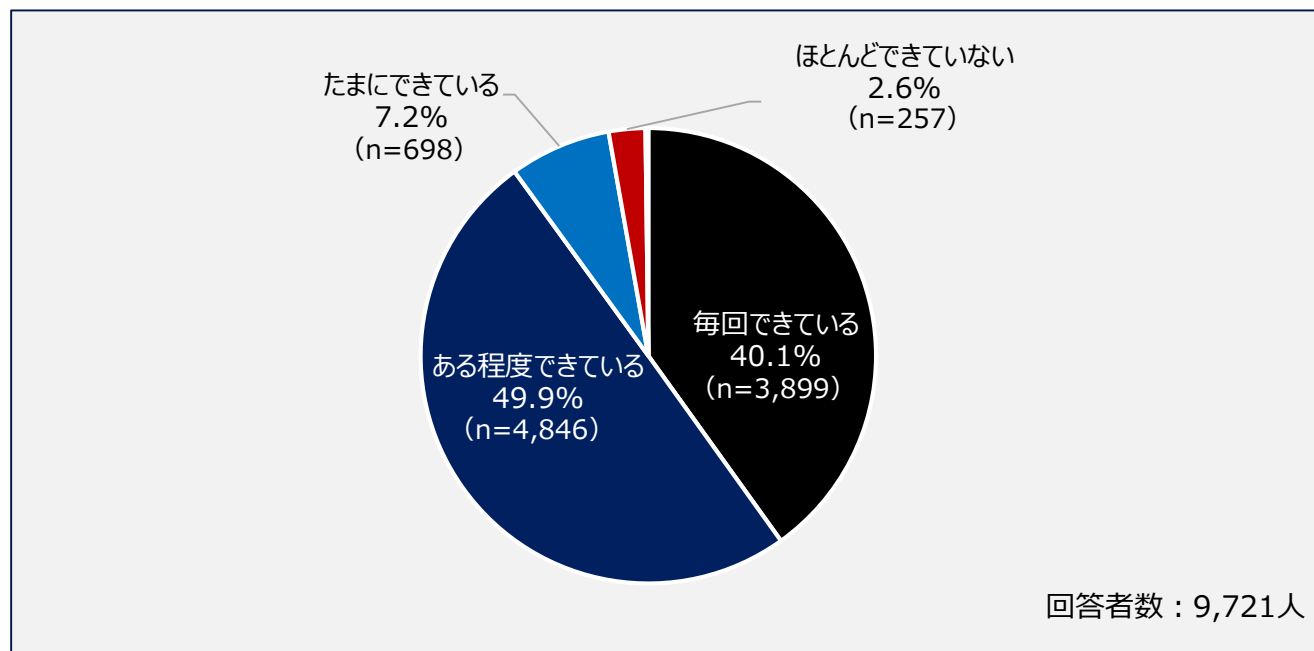
普段活動している場所のピッチについてたずねたところ、サッカーでは、「サッカー クレー（土）」が81.7%と最も高く、次いで「サッカー 人工芝」が34.3%、「サッカー 天然芝」が23.1%であった（図C5-4）。フットサルでは、「フットサル フローリング」が19.8%と最も高く、「フットサル 屋外 人工芝」が11.4%、「フットサル 屋内 人工芝」が6.5%であった。

【図C5-4】普段活動している場所のピッチ（複数選択可）

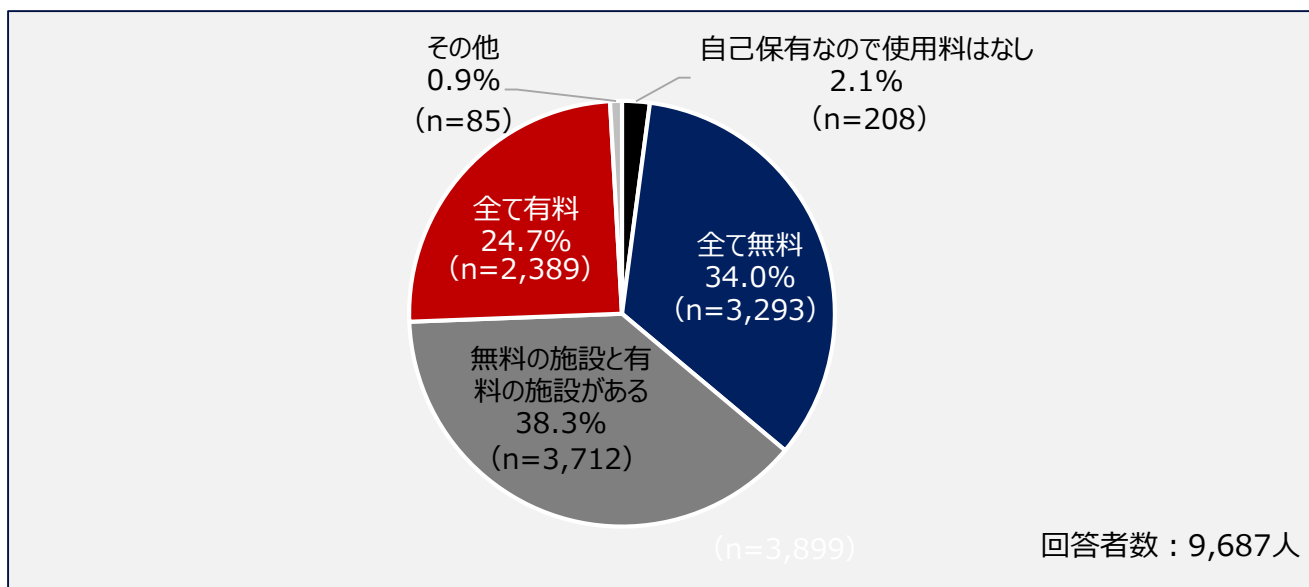


活動は同じ場所でできているかどうかをたずねたところ、「毎回できている」が40.1%、「ある程度できている」が49.9%、「たまにできている」が7.2%、「ほとんどできていない」が2.6%であった（図C5-5）。活動している施設は有料か無料かどうかをたずねたところ、「自己保有なので使用料はなし」が2.1%、「全て無料」が34.0%、「無料の施設と有料の施設がある」が38.3%、「全て有料」が24.7%であった（図C5-6）。その他の回答からは「照明代のみ有料（ナイター時）」の回答があった。

【図C5-5】同じ場所での活動状況



【図C5-6】活動している場所の利用料金



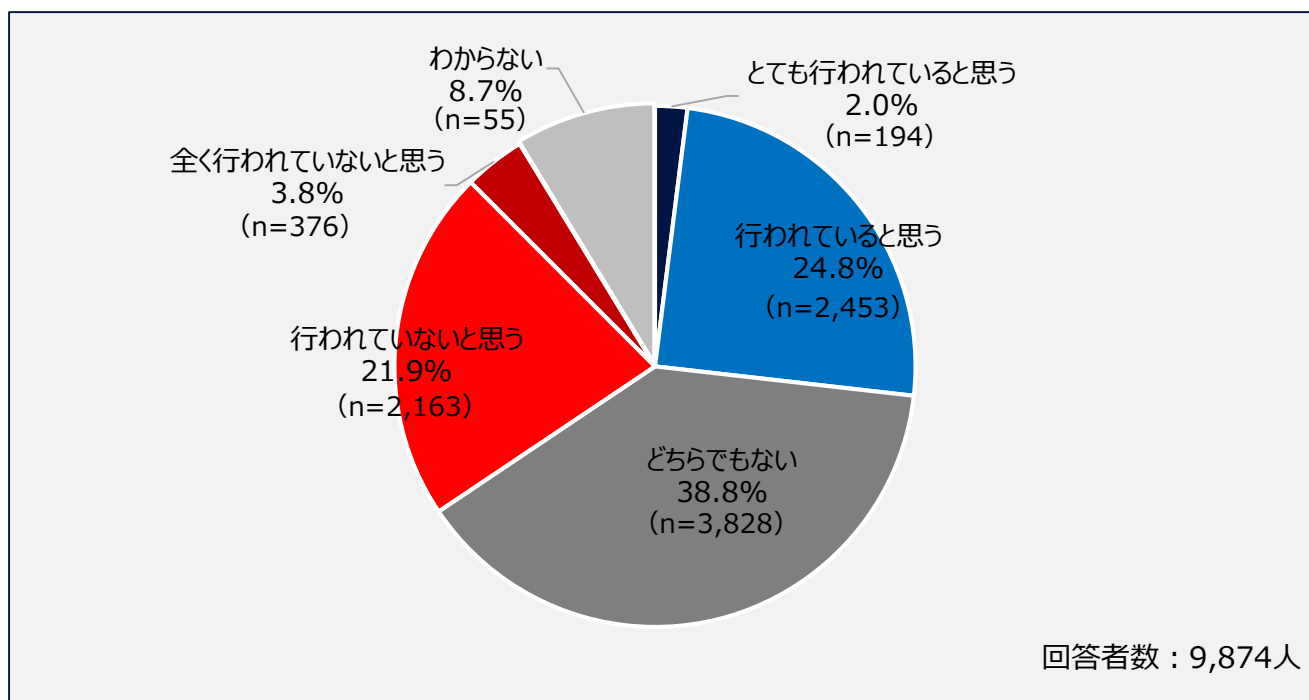
## キーワード6：社会課題への取り組み

私達の住んでいる地域には、それぞれに社会的な課題が存在します。いじめ、不登校、ひきこもり、自殺、ゲーム依存、児童虐待、待機児童、過疎化、少子高齢化など、その課題は様々です。スポーツにはそのような課題を解決する力があると考えています。サッカーやスポーツを通じて、それらの課題解決に取り組むことによって、少しでも社会が良くなれば、社会におけるスポーツの価値も高まります。その結果、より多くの賛同者や協力者が集まり、より良い活動に繋げて行くことができるのではないかと考えています。このような社会課題解決のための活動を進めていきたいと考えています。

### 「社会課題への取り組み」の状況

「社会課題への取り組み」が行われているかどうかをたずねたところ、「とても行われていると思う」が2.0%、「行われていると思う」が24.8%、「どちらでもない」が38.8%、「行われていないと思う」が21.9%、「全く行われていないと思う」が3.8%、「わからない」が8.7%であった（図C6-1）。

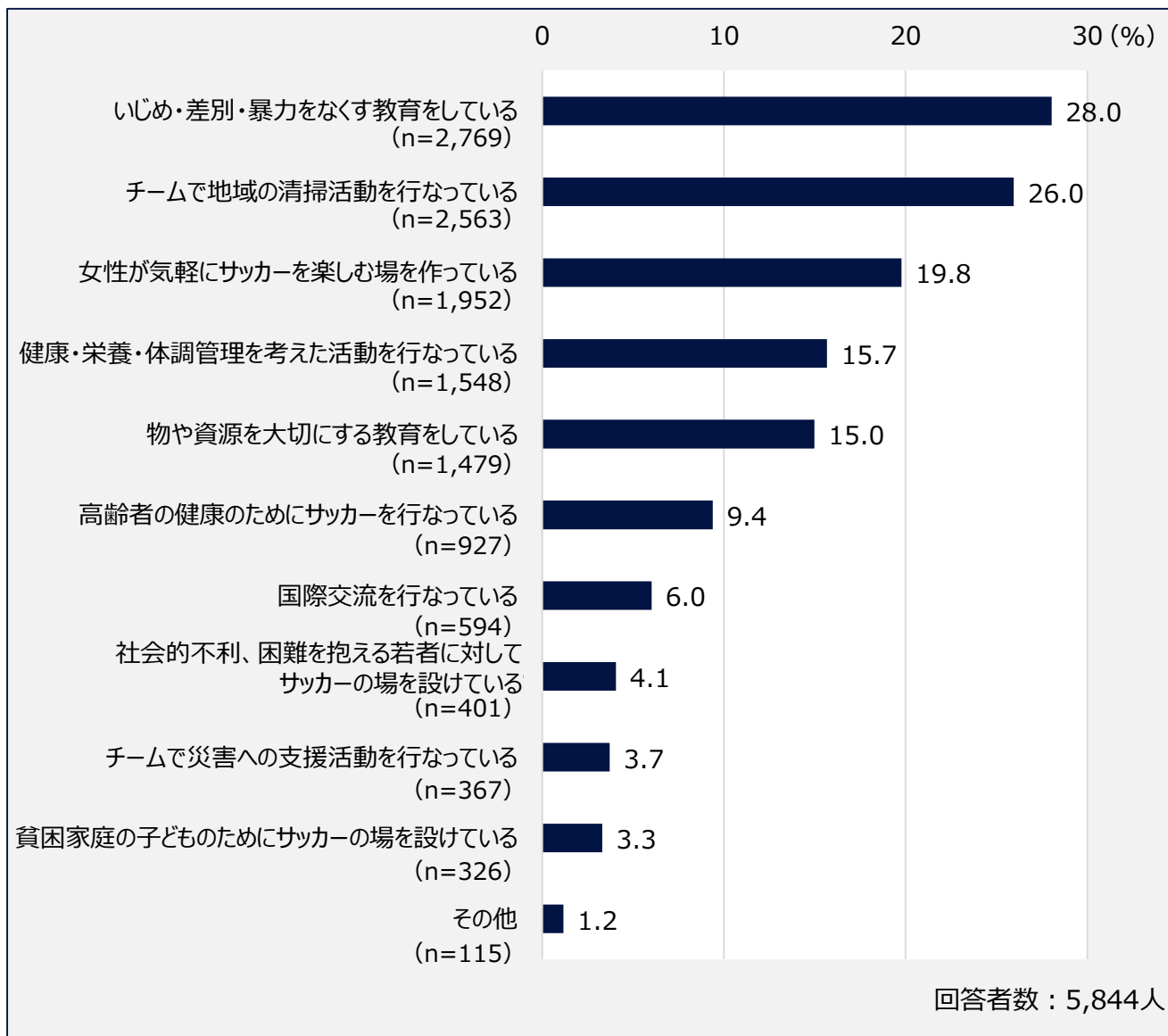
【図C6-1】あなたのまわりでのサッカーやスポーツを通じた「社会課題への取り組み」の状況





「社会課題への取り組み」が行われていると思う理由についてたずねたところ、「いじめ・差別・暴力をなくす教育をしている」が28.0%と最も高く、次いで「チームで地域の清掃活動を行なっている」が26.0%、「女性が気軽にサッカーを楽しむ場を作っている」が19.8%であった（図C6-2）。その他の回答からは「障がい者へのサポート」「プルタブやペットボトルのキャップを集めて車椅子にかえる」等の回答があった（表C6-1）。

【図C6-2】あなたのまわりでサッカーやスポーツを通じた「社会課題の取り組み」が行われていると思う理由（複数回答可）

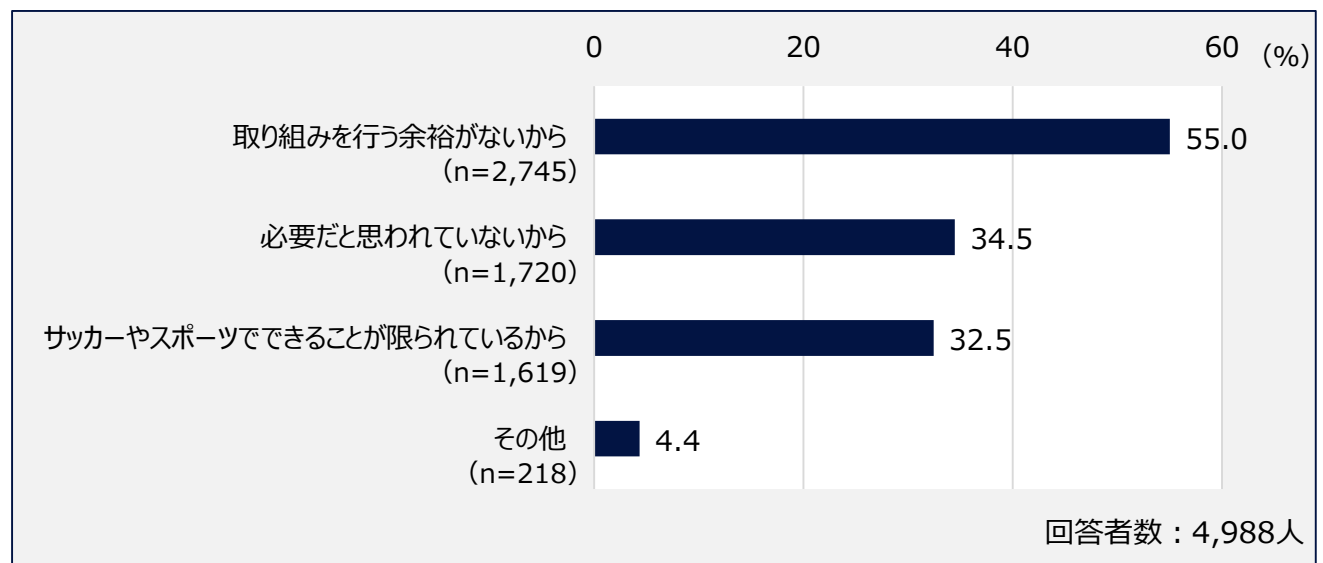


【表C6-1】「社会課題への取り組み」が行われていると思う理由（その他の回答）

その他の回答（一部抜粋）
ピンクリボンや交通安全などの啓蒙活動。
フェアプレーの徹底・他者へのリスペクト。
プルタブやペットボトルのキャップを集めて車椅子にかえる取り組み。
モンゴルに不要になったスパイクやボール、ユニホームを送っている。
学校でのアスリートを招聘しての講演会、特別授業などが行われている。
献血活動。
市区町村のサッカー協会のパワハラ問題に若者たちが立ち上がろうとしています。
指導者素質の不適正に関する是正。
自チームが試合、練習がない場合は、都合が合えば可能な限り、グラウンドを無償で貸している。
若い世代のUターン、Iターンの促進、地元企業との雇用促進の取り組み、人口減少に対する取り組み。
障がい者支援。
障害者と健常者との共生を目指している。
障害者大会の運営手伝い。
人との関わり方、コミュニケーションの取り方、大人になった時にしっかり自立出来る育成をしている。
地域サッカー大会のお手伝い。地域祭りのお手伝い。地域ソフトボール大会のお手伝い。
チームとして他地域のチームとの交流を行い、田植え体験やスキー体験を行っている。
地域の祭りなどのイベントへの協力。
貧しい国の子供たちに対して、サイズが小さくなったスパイク等を寄付している。
貧困解消に取り組む人への支援活動。
不登校児童に対して、大人主導のフットサル活動で登校支援。
施設の無料開放。
児童養護施設での活動。
平日放課後、長時間預かり場所の提供。
両親がいない施設の子供を無料でチームに入れている、用具は無料で個人的に私が負担している。
家庭環境などは関係なく受け入れ、かつ自助努力出来るよう教育などには取り組んでいる。

「社会課題への取り組み」が行われていないと思う理由についてたずねたところ、「取り組みを行う余裕がないから」が55.0%と最も高く、次いで「必要だと思われていないから」が34.5%、「サッカーやスポーツでできることが限られているから」が32.5%であった（図C6-3）。その他の回答からは「どのようにして取り組むべきかわからない」「サッカーさえできればいい考えがある」等の回答があった（表C6-2）。

【図C6-3】サッカーやスポーツを通じた「社会課題の取り組み」が行われていないと思う理由（複数回答可）

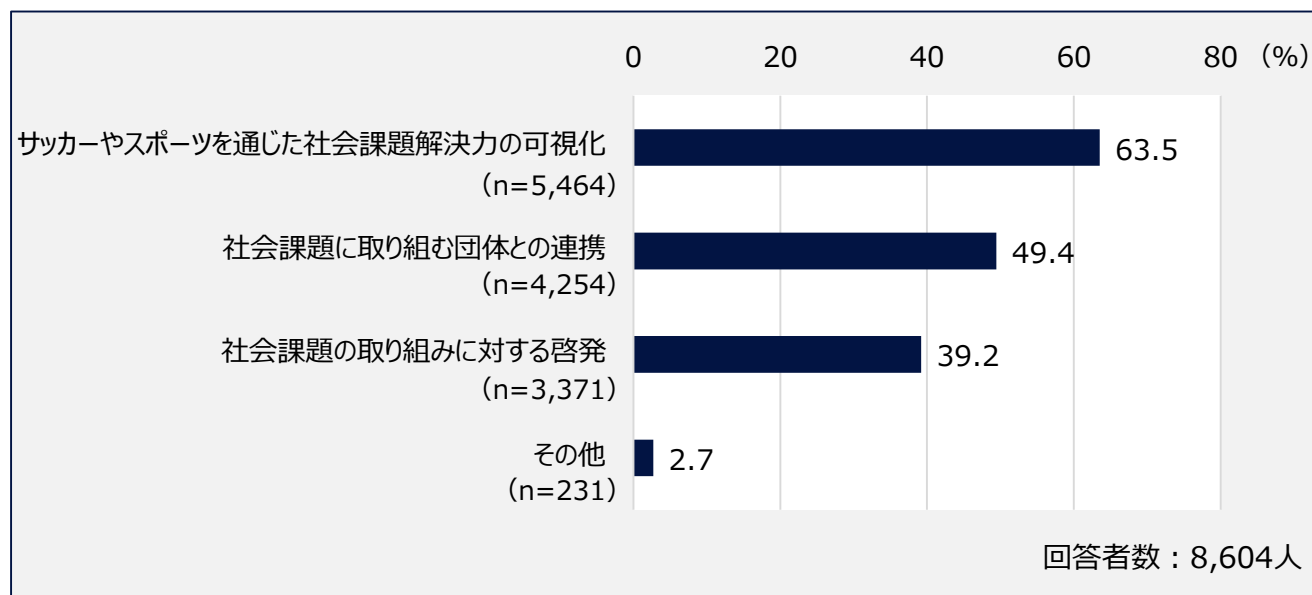


【表C6-2】「社会課題への取り組み」が行われていないと思う理由（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
どのようにして取り組むべきかがわからない	どう取り組むべきかがわからない 取り組む必要性がわかっていないのではないかな。 ノウハウや機会がない。
サッカーさえできればいい考えがある	学校スポーツ(部活動)の勝利至上主義。スポーツ文化レベルの低さ。 指導者(大人)の意識が低すぎるから。指導者＝教育者としての心構えがないから。 指導者や親自身が、サッカーさえできれば（上手くなれば）良いと思っているため。 目先の勝利にしか興味のない指導者や選手が多いから他のことを学んでいない。 競技スポーツが優先で、社会スポーツを行うことが出来ず 勝敗への拘りが強い。
「社会課題への取り組み」をする余裕がない	自チームの運営で精一杯。 サッカー以外のことに費やす時間がないから。
「社会課題への取り組み」をする考えがない	そもそも「スポーツ」と「社会課題」を結び付けようという考え方が薄いまたは無い。 社会課題の解決につながっているという認識がないから。 チームの運営者や指導者が営利主義や勝つことばかりを気にして、サッカーやスポーツを通じた「社会課題の取り組み」を意識してるチームがほとんどないと思う。 周りがサッカーを通じての社会課題に対して求めていないから。 サッカーを通じて多くの問題に目を向けることは可能だと考えております。しかし、そのことに対して、子どもとその保護者たちが目を向けていないことが課題です。まずはチーム内のメンバーに向けての講習会を開き、サッカーだけでなく新たな取り組みについて考えて行こうと思います。 そもそも社会課題とは何があるのかが分かっていない。
その他	パイオニアやイニシアチブを発揮する人が存在しないから。 社会課題を子供に触れさせない教育が、一部で見られる面もある。 スポーツを通じた啓蒙精神の理解不足。

「社会課題への取り組み」がもっと行われるようにするために必要なことについてたずねたところ、「サッカーやスポーツを通じた社会課題解決力の可視化」が63.5%と最も高く、次いで「社会課題に取り組む団体との連携」が49.4%、「社会課題の取り組みに対する啓発」が39.2%であった（図C6-4）。その他の回答からは「指導者への教育」「ノウハウの共有」「行政の理解や連携」等の回答があった（表C6-3）。

【図C6-4】サッカーやスポーツを通じた「社会課題の取り組み」がもっと行われるようにするために、必要と思うこと（複数回答可）

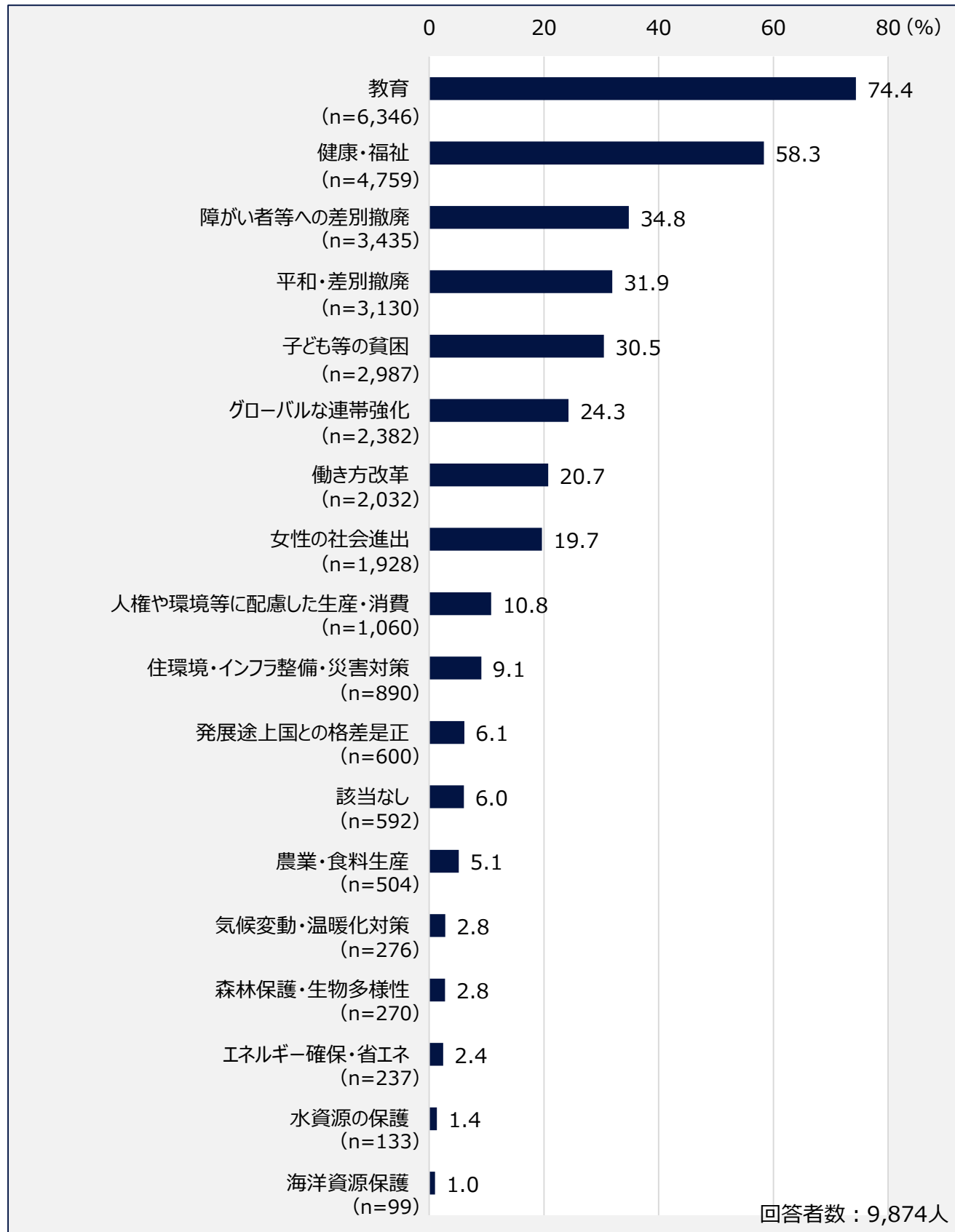


【表C6-3】サッカーやスポーツを通じた「社会課題の取り組み」がもっと行われるようにするために、必要と思うこと（その他の回答）

	その他の回答（一部抜粋）
指導者への教育	<p>指導者講習会で社会課題の取り組みを必須科目にする。</p> <p>指導者の質の向上だと思います。サッカーだけを教える指導者ではなく、人間育成に特化した指導者養成の方が重要だと思います。</p> <p>指導者・選手のモラルの向上・意識改革を行う。</p> <p>指導者のモラルが低すぎ、不祥事があった場合問題を隠蔽し公の場で明らかにならないなどサッカー内部に問題があるにもかかわらず、外部、社会に対していい影響を与えることは不可能です。まず、サッカー協会自身がスポーツ界で指導者による不祥事を少なくすることができれば他のスポーツにもいい影響を与えることができ、また、学校教育にも生かされると考えております。</p> <p>サッカーチーム運営者及び指導者の理解を促す。</p>
ノウハウの共有	<p>成功例を共有して広げられるシステムを作る。</p> <p>事例や具体例の情報共有をする。</p>
行政の理解や連携	<p>国レベルの社会課題解決方法のビジョンの提供とそれに連なる形での具体的なスポーツ関係活動の情報共有。地方行政とスポーツ団体との連携により、定期的かつ広範に地域の中の社会課題解決事業の中に、スポーツの関わり場を設けていく。</p> <p>行政との連携及び、行政の積極的なスポーツ支援をする。</p> <p>行政や地域の理解と行動をする。</p>
チームが社会課題へ取り組める余裕を持てるようにすること （リーグ戦を減らすなど）	<p>余裕あるリーグ戦などのスケジュール。保護者への理解と啓発をする。</p> <p>少年サッカーはリーグ戦を減らして、各クラブが色々な活動か出来るようにする。</p>
サッカー協会が率先する	<p>チーム単体ではやれることに限界があるため、市区町村協会が主導して全体で取り組む。</p> <p>まずはトップから率先して発信して見本を見せるべき。</p> <p>JFAから都道府県、都道府県から市区町村へ通達し、清掃活動などのイベントがあってもよいと考える。</p>
誰もが参加できるコミュニティ作り	<p>地域との連帯、その為のクラブハウスや人が集まれる場所を作る。</p> <p>各チーム及び協会が多様性を認められ、オープンマインドが進むことが必要。</p> <p>気軽に参加出来る様な環境と周知をする。</p>

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の17項目に沿って、サッカーやスポーツを通じた「社会課題への取り組み」ができると思う領域をたずねたところ、「教育」が74.4%と最も高く、次いで「健康・福祉」が58.3%、「障がい者等への差別撤廃」が34.8%であった。一方で「水資源の確保」が1.4%、「海洋資源保護」が1.0%と水関係の領域が最も低かった（図C6-5）。

【図C6-5】サッカーやスポーツを通じた「社会課題解決への取り組み」ができると思う領域（複数回答可）



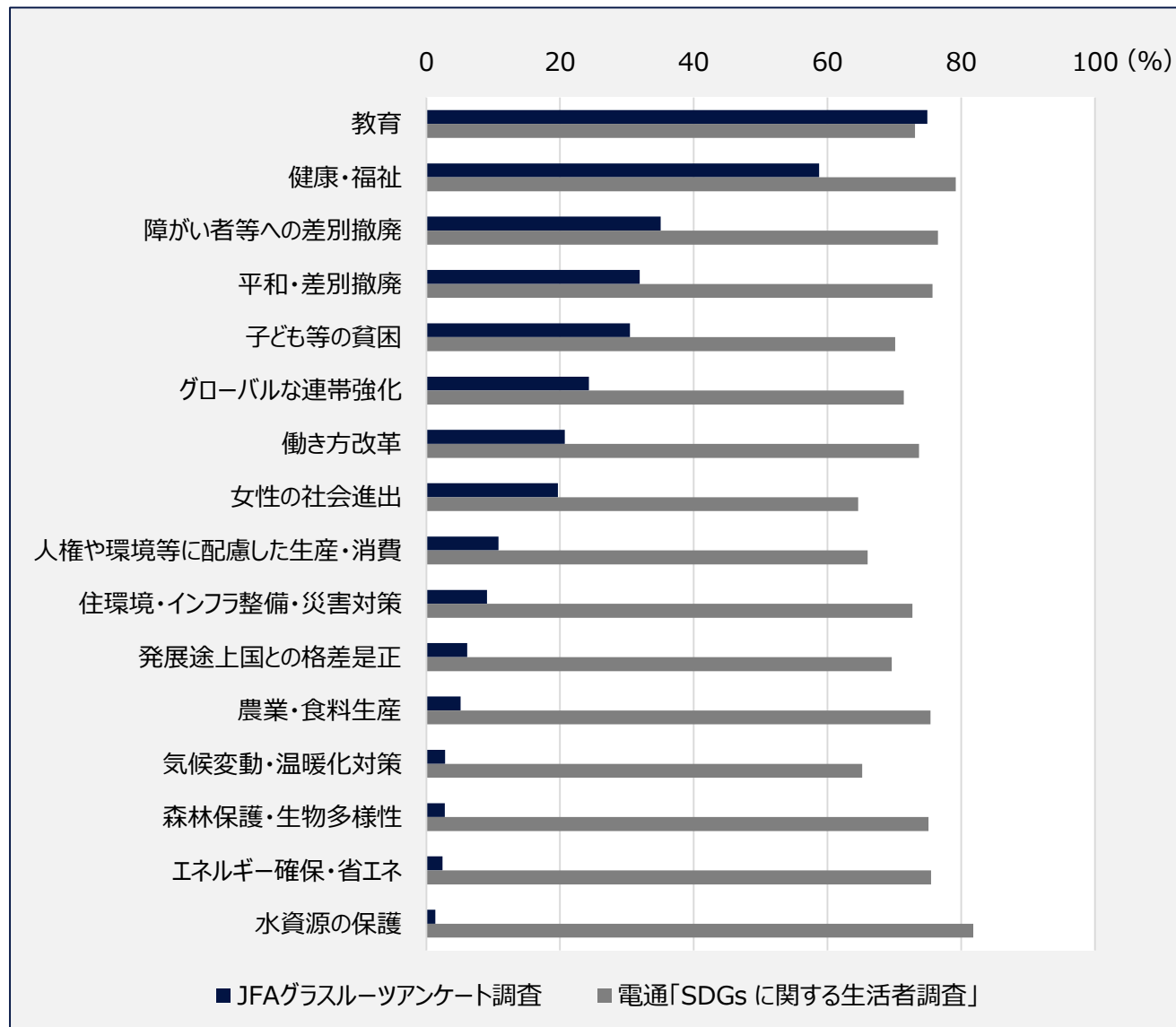
## サッカーとSDGs

「持続可能な開発目標（SDGs）」の17項目に沿って、サッカーやスポーツがどのような領域で社会課題解決に貢献できるか、電通が行った「SDGsに関する生活者調査」の結果と比較した（図C6-6）。その結果、本アンケートにおける結果は、「教育」領域のみ「SDGsに関する生活者調査」より高く、それ以外の領域は大きく下回る結果であった。

JFAグラスルーツアンケート調査：サッカーやスポーツを通じた「社会課題解決への取り組み」ができると思う領域をすべて選択してください。（複数回答可）

電通「SDGsに関する生活者調査」（2018年2月実施）：あなたの考え方や行いに近いものを下記の中からいくつでもお知らせください。（複数回答可）※回答者数1,400名

【図C6-6】「JFAグラスルーツアンケート調査」と「SDGsに関する生活者調査」の調査比較

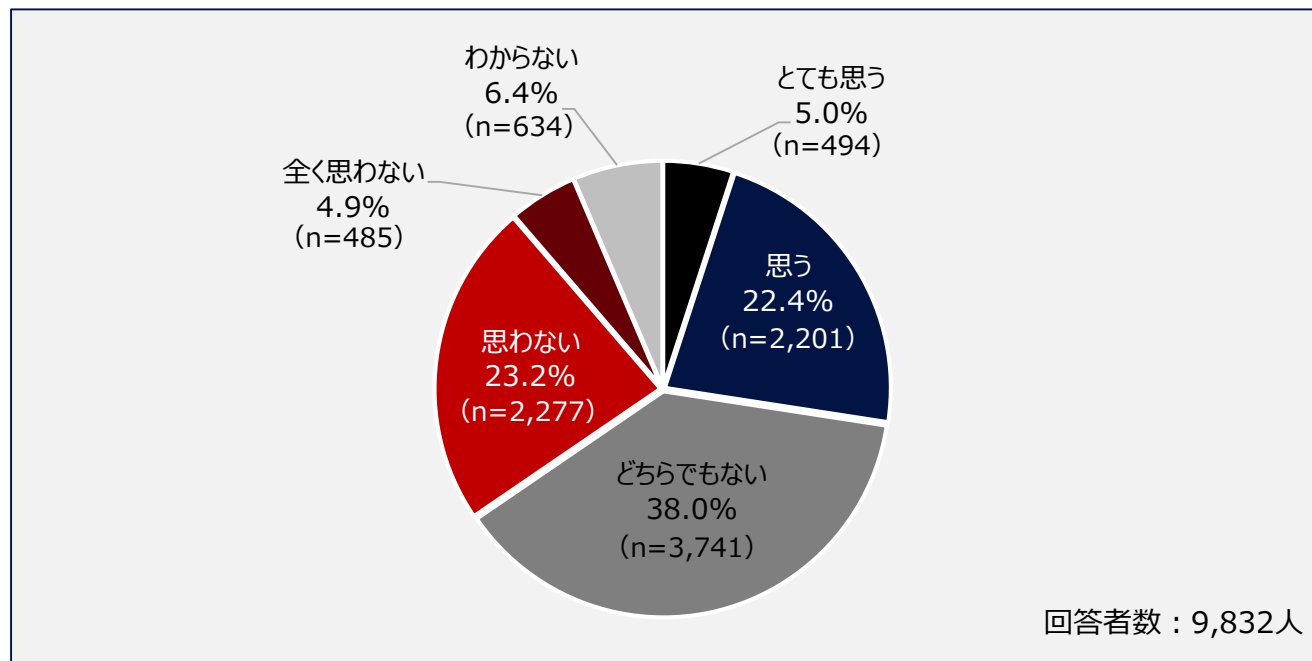


## その他

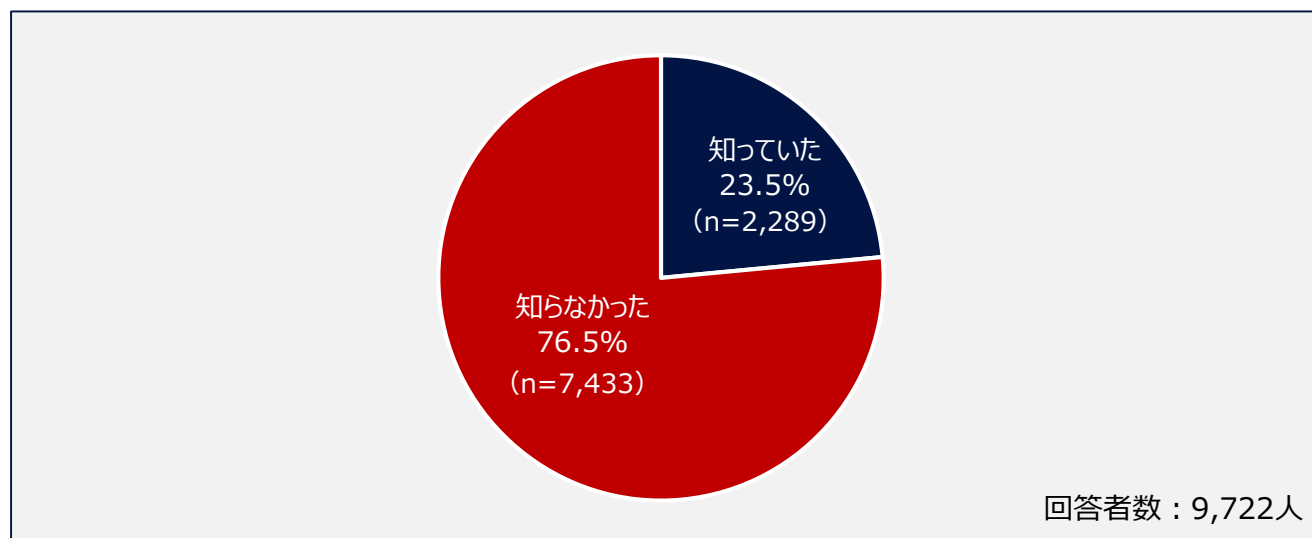
グラスルーツサッカーの環境は、「だれもが、いつでも、どこでも」サッカーを身近に心から楽しめる環境に近づいたかどうかをたずねたところ、「とても思う」が5.0%、「思う」が22.4%、「どちらでもない」が38.0%、「思わない」が23.2%、「全く思わない」が4.9%、「わからない」が6.4%であった（図D-1）。

「JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー制度」を知っているかどうかについてたずねたところ、「知っていた」が23.5%、「知らなかった」が76.5%であった（図D-2）。

【図D-1】「だれもが、いつでも、どこでも」サッカーを身近に心から楽しめる環境への具現状況



【図D-2】「JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー制度」の認知度



## 自由記述

グラスルーツ推進全般について、JFAに対するご意見、ご提案を自由記述でご回答いただきました。今後の取り組みの参考にさせていただきます。

## 活動の場①

	ご意見・ご提案等
施設	<p>最近では自治体による人工芝グラウンドの整備もされてきましたが、北海道は積雪期間が長く、この期間は他競技と屋内施設を取り合いになっていてプレーする機会が減少します。もっとある程度の面積がある屋内競技施設が自由に利用できればよいと思います。</p> <p>グラスルーツの取り組みについては、賛同したい考えであり、ぜひ推進に参画したいと思います。地方に住んでいます、まだまだ偏った体制がある現状です。生涯サッカーか子供の育成かですが、エンジョイスoccerが優位をしめ、サッカー環境のとり合いで力の強いものが施設の優先権を握っている状況です。子どもたちに良いサッカー環境で試合をさせてあげたいと思っても、施設がすくないのでままならない状況です。都会では障害者や発達障害の子供たちも元気にサッカーをしているところを、WEBで拝見して素晴らしい取り組みだと感動していますが、地方の理解度はまだまだです。</p> <p>県内の他の地域には人工芝グラウンドが増えてきているが、活動する地域に人工芝グラウンドはない。計画もない。雪国で冬季間の練習場所が限られている。室内競技と冬期間の施設調整をするが難しい（邪魔者扱いされる）。このような環境で、「いつでも・どこでも」は無理だと思います。</p> <p>地域によって関わるスポーツの違いによる文化が根強く、施設が少ないため共有することができず、常に施設の取り合いとなり、お互いの関係が悪く、悪循環となっている。各スポーツ協会がもっと連携を図ることが重要と考える。</p> <p>サッカーを行うグラウンドに関して、環境的に日本ではまだまだ欧米並みの天然芝には程遠い状況です。誰もが安心安全にプレーするには天然芝グラウンド、もしくは人工芝のグラウンドの整備が必要と思われます。毎年改善はされてきていますが、まだ子供たちは小砂利を含んだクレーコートで練習、試合を行っている状況が多々あります。今後もJFAから国、自治体に向けて環境づくりの働きかけを継続していただきたいと思ひます。環境が改善されれば、サッカーをやりたいと思う子供たちが増え、また障がい者サッカーが活動しやすい状況になると思ひます。</p> <p>気軽にサッカー含む球技を楽しめる場所が、自分が子供の頃比べて圧倒的に少なくなっています。近所の公園の立て札を見ると「球技は危険なので禁止」がほとんど。都内では、球技可能なネットなどで覆われたコートなどを度々見かけます。地域差をなくし、ボールと気軽に触れ合える場所を作って行く事がこの活動を広げていくには重要と思ひます。</p> <p>東京都の場合、小学生に遠いグラウンドに試合に行ってます。第7ブロックの場合、新宿のチーム同士の試合でありながら、新宿区にグラウンドがありながらそこを使わず、1時間以上かけて電車とバスを乗り継ぎと徒歩で15分も歩き低学年3年生が詰のグラウンドまで試合に行かされてます。これでは時間のロス・選手のコンディションなどマイナス面が多く、もっと皆にサッカーをしてもらう環境ではないと思う。ブロックのグラスルーツ意識が低いと思う。新宿のチームは新宿のグラウンドで試合できるようにマッチメイクするだけでいいのに？第7ブロック役員の怠慢でしかない。小学生がサッカーを好きになるために楽に試合ができるように考えるべきだ。</p> <p>サッカーができる場所を増やすことに尽きます。東京都小金井市で言うと、ジュニアチームは各小学校の校庭を使うことができますが、どの小学校も野球やその他団体との併用で飽和状態となっており、新チームを作ろうとしても活動する場所がありません。加えて市内の小中学校には夜間照明が設置されておらず、ジュニアユースチームを作ろうと思っても市内に活動場所を確保することはほぼ不可能です。夜間照明のある法政大学のグラウンドやフットサル場も、周辺住民の反対で夜間の使用は不可能です。JFA様には、夜間照明のある人工芝グラウンドの設置をお願いしたいです。</p> <p>グラスルーツ推進の全ての根幹は「施設整備」だと感じています。「施設さえあれば何でもできる」と思ひます。現実には、その施設がないことです・・・。</p> <p>施設が少なく活動が制限される。学校施設は照明設備が撤去され練習ができない。天然芝や人工芝の施設が少ないことと、少年団などの昔から力のある人に権力があり、まったく利用できない。</p> <p>施設増設は大切。その利活用はもっと大切。施設があっても使えなければ意味がない。土地があっても活用出来ない場合もある。制度上の問題もある。現実的には今ある施設や土地などをいかに利用するかをまだまだ再考する余地はあると思ひます。</p>



## 活動の場②

	ご意見・ご提案等
行政や自治体	小学生の時は、放課後や休日に小学校の校庭でサッカーができましたが、中学生になると放課後や休日に中学校の校庭で部活以外でサッカーをやりたい友だちだけで校庭を使うことができません。近所の公園も「サッカー・野球の使用は禁止」となっており、お金を持たない子供たちが放課後や休日に数人で集まったサッカー好きなどもだちと自由にサッカーができるグラウンドが少ないと思います。行政が市内在住の中学生・高校生を対象に無料で利用できるグラウンドを解放してくれるような制度を作ってもらえるように推進してもらいたいと思います。
	子供たちと大人が安心してスポーツできる環境を行政が積極的に取り組む必要がある。家庭の貧困、親世代の仕事を休まずやり続けられない生活ができないなど、大人(親)の都合で子供がスポーツに触れる機会を逸していると感じています。それとは別に学校施設の利用に関し大人の団体中心でなく子供を優先した団体同士の公平な利用ができる様に行政は公共施設の整備をし運営で民間のノウハウが必要であれば協働できる仕組みを作らないといけなと思います。
	残念ながら地元自治体は、ピッチの人工芝化や屋内施設でのフットサル施設大変消極的で、地元サッカー協会では限界があると思います。これらの支援を行ってもらえると良いと思います。
	サッカーをはじめスポーツをやりたい人が増えたとしても、あまりにも施設面の環境整備が遅れていると感じます。また、少子化の影響で統廃合となった学校のグラウンドを利用したいと考えますが、そこには行政の壁があり、なかなか話が進みません。子どもたちが自由に外で遊べないというこの時代で、せめてスポーツを行なえる施設を作ってあげることができないのか、と日々考えています。
	現在、地元自治体に対して人工芝サッカー場(多目的グラウンド)の建設を働きかけています。自治体首長への要望書の提出や署名活動を行いアピールしていますが、実現が難しい状況です。このような活動の早期実現に向けてJFAからも少しでも協力をいただければ助かります。
	サッカー、フットサルが出来る施設や自治体に働きかけて学校施設の一般開放をもっと増やしてもらいたい。料金が高すぎたり予約しにくかったりキャンセルに料金がかかったりで気軽に施設を使えない。廃校休校してる所の体育館やグラウンドを夜でも使えるようにできれば良いと思う。シニアリーグやオーバー30、40、50などのカテゴリーを作って欲しい。リーグがあっても審判3級が3名とか参加しにくいので県の協会から審判を派遣してもらいたい。
	施設的环境整備につきますと思います。「だれもが、いつでも、どこでも」という趣旨は理解しますが、既存の施設は年代別のリーグ戦・大会などがありJFA加盟チームが多い地区では、施設の確保が厳しい状況です。廃校を利用することも検討していますが、自治体との交渉を協会に行っていたかどうかは可能でしょうか。
	施設を整備したくても物理的・資金的な問題や運営ノウハウを持ち合わせていないクラブ・チームが、活動地域の自治体内にある他の民間クラブ・チームと連携・協働して施設整備の検討を行うおとする場合の支援や、活動地域の自治体に対して施設整備を働きかける(要望する)場合の仲介などをJFAや都道府県サッカー協会等が行えるような仕組みを考えていただきたい。
	地域の公園で、サッカーなどのボール遊びを禁止する看板が行政により設置されてきております。しかし、市役所に相談にいきますと、親御さんや友達同士でパスをしたり、キャッチボールをすることを禁じているわけではないとの回答でした。禁止に賛成する立場からすれば、道路にボールが飛び出してしまう、小さな子供に当たるかもしれないからという理由ですが、すべて禁止するのではなく、できるためにどう改善するかをこのグラスルーツなどでの取り組みで、行政へ働きかけて頂ければと思います。大きなグラウンドを作って欲しいだけでなく、身近な環境での改変に期待していきたくと思います。

## 少子化

	ご意見・ご提案等
	地域的少子化の問題が顕著に出てきています。その為、スポ少のチームから社会人まで、20年ほど前とは、チーム数は激減しています。これは、サッカーに限ったことではありません。他スポーツとの協同の精神はおろか、子供の争奪に躍起になり、他スポーツに参加され、他スポーツに移られてはと戦々恐々としている感じです。地域で名門と言われてきたスポ少、中学の部活がなくなりクラブチーム化しましたが、また、周辺地域から勧誘し、さらに他チームの存続が危ぶまれている状況です。現在自分自身がシニアサッカーで活動していますが、今後何年チームとして存続できるか分かりません。
	少子化の影響で廃校が周りにも増えてきました。廃校を利用して、子供から高齢者まで使用できるような施設を設置して頂きたい。更に子供達の安全を考えて、校庭の芝生化を更に進めて頂きたい。
	子供の人数やチーム数が減っているのに年間のリーグ戦の数が増えている現状。5年生のリーグ戦には3年生まで出さないと試合ができない。3年生は5年、4年、3年の3カテゴリーで出場し練習する時間もなく選手や保護者に過大な負担が掛かっている。完全にオーバーワークになっている。いつ辞めてもおかしくないし、そういうチームに入部する部員もいない。年間20試合程度のリーグ戦は必要なのか?毎年100人いた部員が5年前から徐々に減ってきて現在40人程度。今の6年生20人が卒団するともう廃部にするしかない現状です。少子化が進んでいる中、サッカー人口を増やす取り組みが最重要ではないですか?

## 指導者①

	ご意見・ご提案等
勝利至上主義・暴力	<p>地域のボランティア指導者の考えや意識は、依然と全く変わっていません。若い指導者は新しい情報を取り入れ、改善しようとはしますが、ベテラン指導者は旧態依然の自分の指導法や考えを変えようとはしません。若い指導者はベテラン指導者の意見には逆らえず、状況は変わっていません。都市部では変化がみられているのですが、地方の状況は「勝利至上主義」「旧態依然の部活動然のトレーニング内容」「最新の指導法などの取入れが皆無」のままです。</p> <p>日本のサッカーの指導者の資格が実技メインで取得する人が少ないこと、それにより間違った指導が行われて子供達が本当にサッカーをやっているのかやらされているのか分からない状況を目にする。ミスした子供を怒鳴る場面をよく見るが、怒鳴られている場面を見て果たしてサッカーをこれから始めようとする子供達が本当にやりたいと思うのだろうか？ 指導者の資格についても技術面の強化しか教えておらずそれにより技術はあるのにサッカーを本当に知らない子供が多い。ミスを叱るのではなく、どうすれば解決したのか、良いプレーをしようとしてミスした事を何故褒めてやらないのか、結果論のみで判断、評価している指導者が多く見受けられる。指導者の主観で評価しているのでプレイヤーはミスしないようにしかプレーしておらず、現状として皆が楽しむサッカーというより、一部の指導者に気に入られている、少しだけ上手い選手のみ環境になっていると思う。</p> <p>指導者に対する巡回指導及び監視を行ってほしい。指導者の行動や言動に対しての注意や警告、聞き入れない場合は資格停止や指導禁止のような厳罰を行ってほしい。ライセンス取得基準の明確化してほしい。</p> <p>少年サッカーに携わる指導者全員が指導員資格をとらないとダメだと思う。昔のサッカー理論で子供達を指導（恐怖によって制圧）するやり方が蔓延している。大会行くと半数以上がどなり声をあげてる。</p> <p>試合中ベンチから、選手の子供も達や、審判員に対する暴言が未だに聞こえます。暴言はあくまでも個人の問題ではありますが、せめてジュニア世代では、そういった事が無くなる様に、厳格なルール作りをしてほしいのかと思います。</p> <p>少年サッカーU12において、まだまだ勝利至上主義が、当たり前のような環境です。都道府県のサッカー協会では、協会がそれを許容しているようにさみえます。暴言は日常のようにありますが、チームが監督の所有物ようになっており、周りから意見が言えない状態です。通報機関のような、監督機関が必要に思います。</p>
指導者不足	<p>公立中学校サッカー部の扱いが曖昧です。JFA加盟チームに義務付けされているライセンスを持った指導者がいないクラブが過半数を占めている、いや大半です。</p> <p>選手が少ないチームでは、指導者や審判員が不足し、選手が8名以上いても試合に参加できなくなる場合があります。審判員の養成や審判の派遣等が充実していれば、審判資格保持者がいないチームも試合に参加できるのではないかと思います。人数がいても別の理由で試合に参加できないのでは、子供達がかわいそうに感じます。</p> <p>関西各府県のサッカー審判員の絶対数が不足しており各種大会の審判員が足りないケースが多くある。昔は監督・コーチが資格を持って帯同審判員としての活動も行われていたことから各チームも審判員を育成していたが最近では皆無である。関西では大学連盟に審判員部があり関西協会の指導者が指導し育成しているが、経費と指導者が不足し不十分でありJFAは全国の学連と連携して育成しなければグラスルーツ派遣できない日が真近に迫っています。</p>
講習会	<p>審判の資格や指導者の資格を取得出来る場と回数を増やしてもらいたい。よい指導者がいても、年間で資格を取得できる回数がたった一回なのは、指導者や審判員を育成していないのと同じと考える。誰もが資格取得できる機会は多いに越したことはないと考えます。</p> <p>第4種少年団のお父さん方へ向けた指導者養成または地域の指導インストラクターの設置も必須と感じます。平日夜（仕事と重ならない）・週末夜（試合と重ならない）、開催時間は幅広くしてほしい。</p> <p>JFAの資格取得をもっと簡単に取得できるように、日付の指定を無くしてほしい。例えば、C級希望なら、好きな場所と日取りが選べるようにしてほしい。もしくは、仕事の関係でどうしても行けない日が1日あった場合、補講日のようなものを設けて、取得し易くするなど、現在は仕事の関係上どうしてもC級取得を断念している。</p>

## 指導者②

	ご意見・ご提案等
育成	<p>指導者資格(D級)が満18歳以上であることが不満。サッカー先進国は16歳以上の制限である国が多いし、若手の(ブンデスリーガ・ホッフェンハイム・ナゲルスマン監督のような)指導者が出てくることが日本サッカーの発展に繋がると思う。指導者の育成が日本の課題なので若い段階から指導者資格の取得が可能になるべきだと思う。</p> <p>グラスルーツでの活動はボランティアの方の熱意のみで成り立っているが、その方々の高齢化も課題。グラスルーツの活動をこれからも継続していくには若い人を巻き込んで、後継者を育てていくのも必要。</p> <p>息子が小学1年からサッカーを始め、私もコーチとして6年目を迎えました。長文になりますが、今の教育に問題があると思い記載いたします。中学、高校の部活動の競技志向が強いのが問題であると考えます。少年サッカーのコーチのほとんどが中学、高校で厳しい指導環境を経験し乗り越えてきた方です。その指導が小学生にも実施されている実態です。罰走のようなものはないものの、指導ではなく、指示・命令などが試合でベンチから飛び交っています。最近の子供は大人のようなプレーをする選手が増えた反面、とんでもない発想のプレーが減ったということをよく耳にします。また、最近は中学のサッカー部の人数が減少しています。私は、サッカーを経験した多くの小学生がサッカーの楽しさ以上に厳しさを目の当たりにし、中学からは違う競技を選択していると考えます。中学校の部活動も私の娘が現在活動しておりますが、やはり競技志向が非常に強く、土日も終日活動している状況です。ただし、プレーしているのはレギュラー選手のみです。ここでもまた、レギュラー選手は楽しさを知り、レギュラー選手以外は競技の楽しさを知ることなく、中学校で該当競技を引退していきのらうと思います。(スポーツ庁より土日のいづれかは休日とするよう指針が発表されましたが、顧問が校長先生へ直訴して活動している部もあるとのことです。)この悪循環を回避しなければ日本のスポーツ界全体のレベルアップはないと思います。スカウティングや素晴らしい環境は増えていますので一部のトッププレイヤーは継続的に輩出すると思いますが、生涯スポーツ人口は増えることはないでしょう。</p> <p>私が考える施策としては、以下を考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少年サッカーであれば試合中での指示は禁止(少し強引ではありますが、なぜ禁止なのかの意味を指導者に改めて考えてほしい)</li> <li>・中学校の部活動においては複数校で混成チームを結成する。(レベル分けや指導者を複数にすることで活動範囲が広がる。また、先生の働き方改善にも繋がる)</li> <li>・モデルチームや指導者の表彰(素晴らしい指導をしているジュニアユースや指導者、先生を表彰。決して結果ではなく、指導方法を評価。その指導方法が周りのチームの目標や模範となる。評価するには基準づくりが必要。)</li> </ul> <p>まずは上記指導法を改善すべきと思います。指針や基準をスポーツ庁なりJFAなりが示すのも重要なことと思いますが、やはり身近な存在にモデルチームがないと実感が湧かないと考えます。練習場所なども少ないという声は多いですが、あくまで専用で活動できる場所が少ないだけで場所はたくさんあります。共有できていないだけで、1つ1つの場所の稼働率は低いと予想されます。</p> <p>地域により考え方が全く違い先進的に活動をしているところもありその活動に反して古い考えを持って批判ばかり行う方々もいる。今までサッカーに携わってきた方々はいまだに権力等にしがみつき、その権力を離そうとしないのが現状でありこのような状況が続く限りサッカーにとどまらず日本のスポーツの停滞していくと思われる。指導に関しても若い指導者に道を譲り発展的な考えを持って行動していただきたいと切に感じます。</p>

## クラブ

	ご意見・ご提案等
理想とするクラブ像	<p>サッカークラブを経営しているが純粋にサッカーを楽しむチームが少なくなったと思う。原因はリーグ戦や公式戦の多さやサッカーを楽しむ為の育成指導者不足。今のままでは、サッカー競技人口は減少するばかりで他スポーツに有望な選手を奪われそう。学校生活にも課題が多く、不登校の選手もいる。もう少し学校とクラブやチームが歩み寄り情報交換をし、選手としても生徒としてもその子や子供達の将来に触れていることの意味、熱意、愛情を持って一人一人を育成指導してほしいと願います。生涯スポーツがサッカーであること、生涯スポーツがサッカーになること、サッカーがあったから楽しい人生が送れたという取り組みが今一番重要になってきたと本当に思います。今後も勝つチームになることより、楽しむチームになるように努力していきます。</p> <p>昔は町内でソフトボールをどこでもやっていたように、もっとサッカーが楽しく、誰もが参加出来るスポーツだということを広め、野球に偏りがちな地方、特に子供がいなくチームが出来にくい状況をもっと合同でチームを作りやすい環境を作るべき。</p> <p>この度、私たちのサッカー場がある地域に、自治会を中心としたNPO法人が立ち上がり、地域のスポーツ環境をさらに充実させる活動が活発化しました。地域にある大学、ゴルフ場、公立小・中学校、病院等も、協力し合う関係ができました。これからも、地域に根差した活動を進めてまいります。</p> <p>少子化が進む中、親の思いは「小さい間はいろいろとさせてみたい」というところにあるのではないかと。幼少から特定の競技・種目・習い事などに取り組む場合は、親にその分野への関わりがあるか、子供自身に特別な関心がある場合であろうが、その場合は取り組み方としては非常に競技志向・勝利志向が強くなるはずで、そのようなものとは分ける形で、あらゆるスポーツ・文化活動が、もっと門戸を広く生涯にわたってスポーツや文化活動に関わって生きていくための種をまく場としての「地域クラブ」としての形をとってほしいと考える。</p> <p>ドイツのゴールデンプランに見るような、スポーツを通じて国民の健康を増進し、医療費の削減をする政策が必要です。スポーツ省がこれを牽引すべきです。具体的には、総合型地域スポーツクラブを十分な数地域ごとに作り、NPO法人化を推進し、学校の部活動を廃止し、勉強は学校、スポーツは地域スポーツクラブという棲み分けを確立するべきです。各年代別のリーグ戦を日本サッカー協会、あるいは都道府県サッカー協会の直接の運営として実施することにより、各選手が自分の実力に合ったリーグに所属するクラブやチームを選択でき、そのことにより徒労に終わるだけの補欠生活を撤廃することができる。</p> <p>当チームは日本で唯一、小・中学生に 年会費・月会費・入会費・指導料すべて無料でサッカーを指導させて頂いてます。奉仕活動・自転車交通安全講習・ボランティア活動・チャリティー活動などを展開。保護者の当番や保護者会・育成会もなし。クラブチームや少年団のあたりまえを根底から覆す、180度真逆の活動です。大人の都合やスポンサーや保護者などの顔色をうかがう事も不要。子供自身が自分達だけで準備・片付け・清掃・練習・試合をする。保護者が日中そばに誰もいない。その環境が自立への近道。サッカーからもっともっと変えて行くべきです。</p>
クラブの課題	<p>競技志向よりもエンジョイ志向のクラブを増やす取り組みをもっとして行くべきと思います。巷には、そこまで激しい競争はしたくない、でもサッカーに興味はある、だからチームに所属しないで単純に週に数回ボールを蹴ってみたいだけ、という子どもはたくさんいると実感していますが、そういった子どもたちの受け皿となるクラブが全く無く、結果的に他競技に流れて行ってしまっています。裾野の拡大のためには、まず小学生レベルからのエンジョイ志向のクラブを増やすべきです。</p> <p>補欠ゼロについてだが、特に私立の強豪高校の部員数に制限を設けるべき。入学者増にサッカーが利用されていて、部員数が数百人、7軍まであったり、GKだけで20数人いる高校もある。多数のサッカー少年を集めることで、自らが強くなると同時に、ライバル校へ有力選手が行かないという「効果」を生んでいる。他校へ行けばレギュラーになれる選手が2軍でしか出られない。有能な選手の成長に大きな障害になっている。いくらリーグ戦で試合に出られているといっても、あくまでもその選手の能力レベルにふさわしいリーグ戦に出られないなら、ガス抜きにしかすぎない。そういう強豪校が多くのサッカー選手をつぶしていることになっている。</p> <p>娘が少年団に所属しています。少年団は、保護者運営なので、大変苦勞して運営しています。最近、「少年団は親が大変だから」と、お金は高いけど親の負担が少ないクラブチームや、週一回のサッカースクールに子供を入れさせる親が増えているように感じます。部員が減ると、部費のやりくりも大変で、そんな中で大会費が高かったり、遠征で指導者懇親会があるときは、懇親会費や宿泊代を負担しなくてはいけなかつたりすると、とても残念に思います。少年団は、基本的に指導者もボランティアなので、交通費を負担しなくてはいけないのはわかりますが、懇親会はそもそも絶対に必要なのでしょうか。サッカーをする子供の環境を整えるために、本当に必要なのであれば仕方ありませんが、それならサッカー協会主催の懇親会にして一次会は負担しないようにしてほしいです。少年団は学校のグラウンドなどで練習を行い、地域の大人がボランティアをして、一生懸命教えてくれます。このことは、子供たちの健全な育成のために、本当に素晴らしいことだと思いますし、グラウンドで地域の子供達がサッカーする、というのは、この取り組みにもかなうことではないでしょうか。世界で勝てる強いチームをつくるための取り組みではないのであれば、少年団サッカーを本当に支えて頂きたいです。また、中体連や高体連があるように、少年サッカーも、少年団だけの大会をやってほしいです。</p>

## ローカルルール

	ご意見・ご提案等
用具	某ブロックでスポーツ少年団に協力している者です。当ブロックでは選手及び審判までも「メガネ」(スポーツメガネも含め)試合では使用禁止です(他ブロックはOKのようです)。誰でも楽しめるサッカーに規制がされています。大人は審判をするためにコンタクトレンズを用意しなければならないです。詳しくは分かりませんが、過去には使用を許されていたようです。メガネをした子が怪我をしたようで、その後禁止になっています。近年、メガネを必要な子が増えています。当ブロックにスポーツ少年団の上層部より改正をお願いしておりますが、色よい返答はいただいております。メガネを使用する事でリスクは伴うと思いますが、何卒、メガネを必要な子どもたちのため、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。
登録	<p>設立3年のジュニアチームですが、横浜市南区のサッカー協会には入れません。Aサッカークラブが承認しないことから、協会役員理事?であるBサッカークラブも承認せず。一部の大人達のエゴにより、子供達の活動する環境や未来への可能性を阻んでいます。もともと、Bサッカークラブに所属し、チームから排除されたコーチが、その後Cチームを設立しました。しかし、周りから反発を受け、区の協会に登録できず、区の大大会は愚か、横浜市の大会にも参加できていません。Cチームメンバーの数は50人近くになり、横浜市南区の中でも大所帯となり、Aサッカークラブは30名以下と減少を辿り、各年代の人数が揃わない状況で協会に登録しています。Cチームのように揃っているところが登録できないのは、可笑しな組織です。</p> <p>諸事情により協会に登録していないチームもサッカーに取り組んでいるにもかかわらず協会登録していないと他団体から排除されることが多い。登録の有無にかかわらずサッカーファミリーに加える方策はないものなのか。</p> <p>現在、新規4種登録に向けて活動していますが、登録が認められないのが現状です。登録に向けて指導者もライセンスを取得し色々準備や段階を踏んできましたが認めてもらえません。無加盟のままチーム活動していますが、一番大切な選手たちが公式戦に出場することが出来ないのを、とても悲しく思います。私達はプレイヤーズファーストで考えていますが、協会の方々は役員ファーストになっていると感じます。</p> <p>私のチームでは、4種登録の申請に向けて、サッカー協会の指導者資格や審判資格を取得しました。しかし、4種登録の許可はしてもらえません。選手達が成長できる環境である、トレセンや公式戦には出場できません。市のサッカー協会の常任が必要と県のサッカー協会の方に言われ、市のサッカー協会で断られている状況です。理由は市内のチームの選手登録数が少なくなっていること、市内のチーム全部に理解をもらうために、営業活動をすることです。私のチームで解決できる話ではありません。私のチームの選手達は、登録が出来なくてもこのチームに残り、6年生まで続けると言ってくれていますが、何とか公式戦に出場させてあげたいです。</p> <p>私は2013年から活動しているジュニアチーム代表です。某地区を拠点に活動しています。チームをJFAに登録し2年前から福岡市中央区に所属し支部の活動にも参加しキッズ部門や中央区のトレセンなどの活動に努めさせていただきましたが、未だ支部登録を認められておりません。全国的に同じような問題を抱えたチームが多いと存じておりますが誰が何のために反対され認めさせないのか納得できません。結果子ども達はリーグ戦はもちろん全日本少年サッカー大会にも出場することができていません。選手ファーストであるべき正しい形が歪められ不公平な状態が続いております。日本サッカー協会の考えがこんなローカルルールと同じであるならば日本サッカー界の発展は難しいと思われれます。なんとも歯痒い心境です。</p>

## 制度①

	ご意見・ご提案等
ユニフォーム	<p>埼玉県の4種の審判部はユニホームについて、非常に厳しく指導するが、体の成長が早い4種年代では、公式戦でもビブスでの出場を許可するなど、貧困家庭でも気軽に参加できるように配慮すべきだと考える。ユニホームは、審判がやりづらくなく、安全が確保できれば十分だと考える。経費を抑えることが、選手の確保につながると思う。</p> <p>少年やシニアの大会でユニフォームの規定が厳格なのはグラスルーツ的には逆行していると思います。色があってもメーカーによる線やマークで認められない、GKもシャツ・パンツ・ストッキング全部違う色を求められるため、前後半でフィールドプレイヤーとの交代が困難、又背番号規定も厳しいので誰でもやらせるわけにはいかない。GKもフィールドの技術が必要な時代に何故と思います。用具代がかからないサッカーは子供の貧困を救えるスポーツであってほしいと思います。小学校の大会は全てビブスで良いと思います。</p> <p>U12までの試合においてユニフォーム等の規則が厳しすぎ。経済的に負担になっている家庭があり、辞めていった子供がいる。小学生の試合をもっと自由に伸び伸びできるようにしてもらいたい。</p> <p>少年サッカーの地域の大会まで、ユニホームの統一、アンダーシャツの統一が義務付けられている。アンダーシャツの色がユニホームの主たる色と異なっていると、出場できないという地域サッカー審判員の役員がいます。統一されたウェアを購入できない家庭の子は、試合に出れません。ひょっとしたらそのような子供の中に将来有望な原石がいるかもしれません。私は、ビブスを来た子供が混じっていても問題ないと思います。プレイヤーズファーストです。県大会ならまだしも地域レベルの大会で、細かいことを言う必要は、無いと思います。</p>

## 制度②

	ご意見・ご提案等
登録料	<p>誰でも協会登録をできるよう、協会登録費を安く、個人登録費も安く考えていただけるとありがたいと思います。うちのチームは人数が少ないので親の負担が大きく、その辺りも人数を増やせない問題点にも繋がっております。大会参加費、ユニホームなど含めるとかなりな額を必要となります。</p> <p>グラスルーツを支える審判員に対して、サポートしてほしい。1級審判員などトップリーグを担当する審判員に対するサブライヤーの提供が充実している一方でその他のクラスにはサポートがないのは残念。登録費が審判活動のサポートに使われることを切実に希望する。ある県では審判の登録費が審判委員会の活動費に十分配分されていないと聞いている。審判の登録費は審判の指導、登録費を収めている審判員の活動に反映してもらうために収めていることをJFAも地域・都道府県に任せるのではなく主体性をもって取り組んでほしい。</p> <p>シニアサッカーの役員をしております。当県ではJFA登録を全員に義務付けており、選手、審判、指導者すべてに登録料が生涯毎年発生し、生涯サッカーをするには生涯金銭負担があります。グラスルーツでの金銭負担低減を検討いただきたい。</p> <p>指導者ライセンスを取得する為の費用が掛かりすぎる。フットサル指導者D級ライセンスを作ってほしい。ゴールキーパーC級フットサルC級ライセンスは通いでも取得できるようにしてほしい。</p> <p>学生のサッカーはお金持ちのスポーツになってしまったように感じています。いくら才能があっても金銭的余裕がなければ、小学生クラブから高校サッカーまで名門に進むことを諦めなければなりません。地域のトレセンですら遠征費など家庭に負担がかり、お金がなくては活動を続けることはできません。せめて地域のトレセンくらいは奨学金のような形をとれないものでしょうか。</p> <p>オフィシャルライセンス登録は必要なものと考えていますが、もっと安価にするほうがたくさんの方が登録すると思う。複数の登録を持つ者には割引があってよいのではないか。例えば、審判と選手、審判と審判インストラクター、指導者と選手など。身体は一つしかないことから、同時に行う可能性が少ない、複数登録の場合の割引があっても良いのではないか。</p> <p>大会に参加するための費用や個人登録が高すぎる。本校には、フィリピンの生徒が多く在籍しており、その生徒たちの大半は、母子家庭で、母親が病院などの清掃業で生活している。高校に進学するのも、厳しい経済状況だけに、個人登録費(2,000円)、チーム登録費(20,000円)、大会参加費(20,000円)などの費用はかなり大きい負担となっている(学校から補助はないので、選手で頭割りしている)。実際に、試合に出場したいが、登録費が払えないので、辞退した生徒もいる(この状況のみかねて、指導者が支払うことが以前に何度もあった)。クラブチーム(Jクラブ、街クラブ)で活動している選手には、あまり問題のないことだと思うが、公立の学校には、様々な家庭状況の生徒を抱えています。地域によれば、交通費すら出せない家庭も当たり前存在する。しかし、指導者としては、「サッカーが好き」「サッカーを頑張りたい」という気持ちをもっている生徒に、環境を与えて、直向きにサッカーへ取り組ませてあげたいし、サッカーを通して、様々な経験をさせてあげたいと強く思っています。そのために、今後、費用について考えていただきたいです。</p> <p>登録費が高すぎてサッカー、フットサル、ビーチサッカーに関われない。もっと、登録費を安くした方がよい。サッカー、フットサル、ビーチサッカーをするには高額なお金を払わないとできないのですか？お金を払わないとフットボールができないのであれば、真の意味でのグラスルーツ推進にはならない。今、やっていることは、お金を徴収するために、サッカー、フットサル、ビーチサッカーの競技人口を増やしているのに過ぎない。</p>
その他	リフレッシュポイントに、社会貢献のイベントやワークショップを必須とするような仕組みを作るのも一案だと思う。

## 障がい者サッカー

	ご意見・ご提案等
	<p>障害者サッカーが軽視されていると感じます。障害があるないに関わらず、様々な年齢、性別、障害の方が1つの競技を楽しむ機会が欲しいです。そのようなイベントを開催するにも、ノウハウや協力者が見つかりません。</p> <p>私は障がい児の通所施設で働いています。現在、ブラインドサッカーなどの普及がある中、知的障がい者(児)がサッカーを楽しむ場や経験する場が少ないと思います。大阪府堺市にはJ-Greenという素晴らしい環境がある中で障がい者(児)・発達障害・知的障害でのサッカーを楽しむ場を増やして欲しいと思います。「障がい」がある・ない関係なく一緒にサッカーができる環境を増やして欲しいです。</p> <p>グラスルーツにて障がい者サッカーの情報は掲示されていますが、47FAで取り組む温度差はかなり大きいです。JFAから47FAに対し障がい者サッカーへ取り組む指示をしない限り、全国で取り組むレベル差はもっと大きくなると思います。</p> <p>自分のチームでは発達障害の子供が入部したのですが、指導者が少ないので苦労しています。個人で練習をするメニューはいいのですが、パスやゲームになるとルールが理解できない為、カンシャクを起こし泣きながら必ず他の子供に暴力をふるいます。その度に指導者がなだめて2時間の練習中、20分位は他の子供たちだけで練習をしています。今は困り果て練習中は親について貰うようにしました。他にもいろいろ困り事はありますが、地域のスポ少のチームでは我々が全員ボランティアで時間が限られた中、どこまでサッカー協会の取り組みに沿って育成や活動が出来るか疑問があります。協会がサッカーを教える楽しさや必要性も広めて若い世代にも指導者が増える事を願っております。</p> <p>障がい者サッカーについて、各団体で日本代表活動として国際大会にも参加していますが、障がい者サッカーの大半は自己負担となっています。健常者の代表活動は各カテゴリー年代関係なく協会からの支援があり、自己負担は少ないと聞いています。障がい者は健常者と比べ、仕事・収入の点でも健常者より厳しい環境で生活・プレーをしています。各団体が別々に活動しているため、ある程度仕方がないことかと思いますが、国際大会等はJFA主体で資金等の支援をお願いしたいと思います。実際、自己負担が妨げとなり活動出来ない選手は多数います。支援頂けることで、障がい者サッカーの選手拡大・裾野を広げていけることに繋がると思います。</p>

## 女子サッカー

## ご意見・ご提案等

サッカーも同じかと思いますが、まだまだ公共施設のフットサルコートが学校開放が少ないです。私営でのコートは高額であり、これでは普及は進まないと思います。JFAの方で、こういった働きかけをもっとして欲しいです。単独チームで、要望を出しても受け入れられない事が多いです。「なでしこひろば」を開催していますが、まだまだ認知が少ないようです。周知方法が難しく、人があつまず赤字で続いています。より多くの方に知ってもらえるように「なでしこひろば」の宣伝などをよろしく願います。

娘がサッカーをしている保護者です。現在は女子チームでプレーしていますが、小学生の時は男の子と一緒にプレーしていました。実際に体験して来た事、他チームの状況を見て思った事、トレセンで出会った保護者のお話などから確信している事として、ほとんどの指導者は、同レベルの男子選手と女子選手がいる場合、男子選手を重用しているという事です。公式戦の出場機会もそうですし、与えられる役割もあくまでも脇役。しかし、男子と同レベルのプレーができていない女子選手こそ、才能を伸ばすべき将来の宝であると認識すべきです。指導者の意識改革につながるような通達と体制づくりをJFAに期待します。私が住む長野県は、北信越の中で最も女子サッカーが盛んな県ですが、小学生年代は女子も4種登録になったことでガールズリーグが衰退し、女子サッカー人口が減少傾向にあるようです。協会関係者ではないのでデータは存じませんが、実感としてガールズサッカーのレベルは落ちてきたように思います。昨秋、U10の地域リーグを見物したときに、女子選手が各チームに平均1名程度いるようでしたが、どの子もベンチにいる時間が長く、レベル的にも今一つでした。裾野を広げることで頂もより高くなることを考えると、JFAには女の子がもっと楽しくプレーできる環境づくりに取り組んでいただきたいと切に思います。

小学生のサッカー指導者が低能で、参加している子ども達全体のサッカーレベルを育成出来ていなさすぎる。女子サッカーチームがほとんど無い状態、中学生や高校生の活動チームが制限されている、もっと女の子だけで活動できるチーム環境を整備構築してあげて欲しい。

私は現在、少女サッカーの普及を行っています。地域の少女においてはサッカーがしたい、しかし活動できる場所がない。少年団は各地区にあります。少女は、そのチームに1~3名程度です。子供を持つ親さんの意見は、男子の中に一人では？等で参加しません。しかし、私が指導を始めた女子チームには、男子と混合チームではないため100%サッカーを楽しむ環境を整備するように努めています。しかし、チームに集まる距離と時間的问题があり苦労しています。また、U12までサッカーをしていた少女が中学校U15の年代で激減しています。これは中学にサッカー部があっても学校により入部を拒否されるケースがありました。教育の場は、男女の差別なく学ぶ権利と同様にサッカーに限らず受け入れる環境を作るのが教育委員会の使命ではないのでしょうか。この現状は、他の都道府県の方と懇親を深める中でも同じ悩みを持っています。このままではサッカーを愛する女性が減少し明るく開けた「なでしこ」は生まれません。これを解決するにはFAがキッズ委員会・4種委員会・女子委員会・技術委員会全ての人々が協力しあう体制が急務です。これからの日本は少子高齢化が加速していきます。男女問わず、サッカーに触れ合い、経験し、その楽しさを伝える事が重要に思います。

グラウンド問題も大きな声をしたのですが、もっと深刻な問題。女子選手が減っています。間違いなく小学生から中学生へとなるとき辞めている選手が多いです。私はU15女子チームを作り環境を考えてますが、より高い意識の中で続ける小学生女子が減っています。小学生年代で女子の大会はいらないとお考えでしょうか？少なくとも私の周りでは必要と感じています。「女子は女子の中での楽しさもなくてははいけない。」と感じます。地域で、チームで参加ができる、U12、U10女子の為の大会を考えていただけるとより生涯サッカーは生きるのではないのでしょうか？

妊娠、出産後の活動が難しい。チームとしては活動しやすい環境にあるが、子どもを預けられない場合はベンチには入れず、チーム帯同を諦めなければならない。かといって、実家も遠く、土日は保育所なども無く、預けられる場がない。レディース大会や、女子の大会からまずは変えていっても良いのではないのでしょうか。もちろん、男性が子どもを連れてくる場合も考えられるので、ゆくゆくは全大会で考慮していただきたい。女性チームが複数あるわけではないので、トップチームが上位リーグにいる場合、下位リーグにセカンドチームが出られるようになればと思う。

## リーグ戦

## ご意見・ご提案等

サッカーやフットサルをやりたい、試合に出たいと思っても、経験や実力が理由でやれない人がたくさんいます。特に育成年代ではトーナメント形式による大会や全国大会をやるよりも、各地域でレベル別のリーグ戦を普及させることが、グラスルーツの推進につながると思います。

勝利至上主義をチームや選手に強制する大人を助長してしまう育成年代の全国大会は直ちに廃止すべき。それが出来るのはJFAしかない。特に全少は百害あって一利なし。なぜ、グラスルーツを唱えるJFAが全国大会を後押しするのが疑問。育成年代の全国大会を廃止しているサッカー先進国を見習うべき。その大会があるために、結果が優先され全員出場が失われ補欠が生まれ引退が生まれ、ゲームを楽しむ本質から離れていく。育成年代は楽しみたい分母の拡大がメインであり、勝ちたい大人の満足はどうでもいいはず。レギュレーションで全員出場をルール化すればといった、会長の発言は論外。全員出場をさせなくなる全国大会をJFAが開催するから、そういう勘違いの大人が生まれる。なぜそこに気づけないのか？学校や部活中心のU15、U18のカテゴリーを、学校から切り離して全国大会を無くせば、引退も補欠も無くなる。好きで夢中になっている学校の先生がボランティアで尽力されている地域連盟とそこでのトレセンも廃止して、地域で突出した子の育成はその地域で広域で選手を集めるクラブチームがその役を担えば、またそこへの移籍をもっと容易にすれば、より分母が拡がりピラミッドの高さも高くなる。選手から審判から指導者からチームから上納金を巻き上げられている立場から見上げて、JFAの育成年代への取り組みは矛盾だらけで、登録する気なくなる。無登録で活動するチームが増えているのも納得できる。その現状に全く気づかない、役人、先生主体の協会には期待もしていない。育成年代では全国大会廃止すると言えば全てがかわり始める。

補欠ゼロにするのがグラスルーツを広げる優先事項だと思います。指導者、親に勝利至上主義者が多い日本だから選手、子供もそうになってしまう。またその子らが指導者になるという悪循環。育成と補欠ゼロを両立させるにはレベルで細分化された昇格降格のあるリーグ戦がいいと思います。

・U12の8人制リーグ戦のレギュレーションの統一

全員出場出来る試合形態(ピリオド制など)、実力差に伴ったリーグ形態(昇格、降格制の導入)、実力差のカテゴリー分け、プロと同様実力差のピラミッド型を導入する。

・試合スケジュールの工夫

学校側への理解を得てリーグ戦での施設利用を促す。試合日程(昇格、降格制に伴った1日の試合数)プロが行うように1日1試合で試合の重要度を高める。子供達の過度の活動への拘束を避ける為。

## JFAやFAのあり方

## ご意見・ご提案等

グラスルーツの各カテゴリー毎の活動推進JFAだけでなく、47FAも一体となってもっと進めて行けば良いと思います。生涯サッカーであれば、集まったメンバーごちゃ混ぜでチームの合計年齢が同じ様にして交流会、補欠ゼロであれば、同じようにごちゃ混ぜで、指導者は介入せず、選手達で試合を進める、障害者サッカーでは、障害レベルに合わせた交流会、などの仕組みを作れば面白いかと思います。

大会の申し込みに際して、4種委員会の態度の横柄さに愕然としました。常に上から目線、権力ある立場を利用して、街サッカーチームを下に見る態度許しがたいです。まずはJFAの理念を委員会内に浸透させることが必要ではないですか？

技術委員からプレイヤーズファーストという名の暴走。上手いチームや強いチームだけが高円宮杯の全国大会に出場できるようなリーグ戦の条件整備への一方的な指示。今は中学校の部活や町クラブは高円宮の東海大会、全国大会は無縁となっている。また、移籍が自由になっていけば、中学校総体にもトップ選手が参加できるようになり、試合のレベルは上がるが、今まで試合に出ていた選手が出られなくなっていく。そのことをどのように考えているのか？トップのチームや選手だけを優遇するサッカー協会技術委員のやり方では、グラスルーツには浸透しない。このままでは学校部活縮小のため、学校の部活はサッカー協会に登録しなくなって、自主運営していく流れができていく。また、トレセンや試合の役員、協会の役員などはほぼボランティアである。指導することは仕事とは思っていないが、サッカー協会の運営にも疑問が残る。

キッズ巡回活動に関わる、とある者です。本当にキッズ関連は悲惨な状態です。運営、巡回方法・回数、備品、謝金手当ての異常な少なさ、謝金の振り込み時期が大幅に遅れること等。本当に必要な人材がグラスルーツに貢献し、意味がある事業になっているとは言い難いです。サッカーの裾野がこの現状でサッカーは広まりますか？個人的に危機感を抱いています。このFA内のことをJFA主導で積極的介入と、とことん整理して頂きたいと強く望みます。

## グラスルーツ啓発

## ご意見・ご提案等

グラスルーツの意味が全くわからない、知らなかった。もっとわかりやすい言葉で説明してほしい。Jリーグのテレビなどでも取り上げてもらう。会場でも宣伝するなど広報の充実を。

私が所属している地域の連盟では、まだまだこのような活動に対し、積極的に取り組んでいこうと考える人が少ないように感じています。その原因としては、「知らない」が大きな要因と考えます。毎年、D級指導者養成講座を、所属の市で開催しているのですがそのような機会に、この取り組みについて、もう少し時間を割いてサッカー指導に関わろうとする方々に普及をすることが望ましいのでは、と感じます。

グラスルーツを推進する事を支援する指導者がボランティアが主体のチーム指導者である場合は、チーム活動がメインで賛同はしても積極的に活動するのは時間的にも大変厳しいのが現状です。グラスルーツや底辺のサッカーチームを運営する地域レベルでは、指導者はその事を生業とはできません。現実論グラスルーツだけでは食べていけないからです。地域に根差したグラスルーツからトップまでのクラブ運営があり、そこで働く環境整備が整えば、アンケートにもある様々な社会貢献が可能となると思います。

JFAからもっと啓発して欲しい。今回のアンケートであらためて考える機会となったが、もっとイベントとして案内をしてくださることも必要と思う。日常の活動では、今回アンケートにあったような障害者へのスポーツ、全ての年代へのスポーツ、補欠なしという目的について、大きく語られ大会・イベント等開催することは少ないのではと思う。

思想自体は理想的で賛同するものの、具体的に何をどうしたら良いか分からない。もっと機関紙やメールなどもっと発信して欲しいし、活動自体を活性化させて欲しいと願います。

グラスルーツ推進活動の存在をJFAからメールを受領するまで全く知らなかった。審判員である私でさえそうですから、サッカーに関与していない人たちは知るすべがないでしょう。JFAがTV/新聞/ネットを通じて情報発信を行う必要ありと思います。

現状では、JFA及び地域協会からの情報提供量が不足していると思う。また、行政の参画が積極的でないことも推進の妨げになっていると思うので、各地域単位での行政への働きかけが重要と思う。（だれもが、いつでもスポーツを行える場所の確保や整備が必要）

グラスルーツの本来のフィロソフィーが理解されていない。ただの普及活動の一部との認識しかない気がする。指導者、公共機関への意識の浸透から、啓発活動を展開しないと、一個人や一団体だけでは広告活動としてしか受け取られない。

今回はU12のチームのことを念頭において回答しましたが、一部の中学校部活動にはこのグラスルーツの理念が降りていないように思います。再交代制を採用した大会運営がなされているにも関わらず、交代を十分行わず、体力が切れて負けていく子供達、部員をレギュラーと補欠に分けたため、参加機会を与えられないまま引退する子供達を見ました。中学校部活動の顧問はFAのコーチ資格者でなくても構わないこと、および中体連の試合の多くで1校から複数チームが出場できないことが主な原因ではないかと思えます。もちろん複数の学校を見渡せば、この理念を理解し、強いチームでベンチ入りした全員を出場させる指導者もいらっしゃるのです。従って、どこの学校でも、子供達に出場機会をより多く与える戦略をとることが可能だと思います。初心者を含む、大多数のU15世代がプレーの場として選ぶのは学校の部活動です。学校の先生方にグラスルーツの理念の普及を望みます。

JFAが主体になり講演活動や運動を全国の自治体で行う事が出来れば関心を高めるための機運が生まれるのではないのでしょうか？また情報が取りやすい都市圏でなく地方都市から開催することが重要だと考えます。地元に関心を持つ土地ほど機運が高まりやすく取り組みに賛同した際の力は大きくなるのではないのでしょうか。スポーツを通じた地域活性化を目指す者として地方を元気にしたいと考えております。



## グラスルーツのあり方

## ご意見・ご提案等

サッカーをプレーすることの意義だけでなく、実施すること、練習することのプロセスにもっと視点を置いた活動が進むとよいのではないかと。過去にアメリカで活動する「street soccer USA」という社会的弱者、貧困層の子どもたちをサポートする団体の活動を視察させていただいたことがあります。彼らはタイムズスクエアのような場所での大会開催(子供たちの晴れ舞台の創出とともに社会課題の啓発)や各地域でのサッカートレーニングの中で考える力や生活スキルに直結するような事例をサッカーの例えを交えながら子どもへレクチャーするなど、日本ではほとんど見聞きしない独創的な活動をしていました。

高齢者が多くなっている中で、競技サッカーから、健康サッカーを老若男女誰でも参加出来るような、柔らかいボールでの扱い方や健康サッカーを通してコミュニケーションの取り方等、テレビ、ネット、ユーチューブ等のメディアで広く宣伝して下さい。

勝利を意識してサッカーでありスポーツに没頭する事は大切なのは分かりますが、これから社会人になろうとする前にスポーツに対して燃え尽きたり、他の遊びを覚えたい・・・といった若者を圧倒的に多く見受けれます。様々な理由はあると思いますが、外傷・障害を予防しきれなく慢性的にケガをしてしまったり、オーバートレーニングに耐えられなくなったり、と、考えた時に、その辺りの正しい知識を持って指導をしている学校やクラブチームは全然不足をしていると思います。スポーツで一番つまらない事は、外傷・障害であってケガではないでしょうか？スポーツの技術だけではなく、予防・コンディショニングも指導する、つまりアスレティックトレーナー等をチームスタッフへ帯同させたり、定期的な巡回指導も大切です。食育もそうです。これからの少年・少女・青年たちがより健康志向で逞しく人生を謳歌してもらうためにも、そういった事も実行していく必要があると思います。

私達の地域では日系人の子供達やハーフの子供達と日本人の子供達が沢山いて、私達のクラブも日本人、ペルー人、ブラジル人など国籍が様々な子供達が在籍しています。ただ、日本人の子供達が少ないこともあり、JFAへのチーム登録や主催の大会には出られない状況です。練習試合一つにしてもなかなかそういうチームを受け入れて頂けない状況です。もっと子供達が試合を出来る環境、国籍問わず共存している社会の仕組みを期待したいですし、私達自身も、なお一層の努力を続けていくことが必要だと思います。

努力目標と言うだけでは、補欠ゼロの実現は難しい。協会から、各試合会場に人を派遣し、会場責任者と連携して事細かく(各選手の出場時間等)チェックする様な体制作りが必要なんだろうと思うし、従わないチームには罰則も与える様にする必要があると思う。試合に殆ど出場出来ない子供の数だけ、4種のサッカーに対する悪い噂が毎年流れて行く為、新規の入団者が年々減少する上に、出場出来ない子供達がチームを、サッカーを辞めて行ってしまいう現実をもっと知るべきなのではないか？

底辺にサッカーの楽しさが伝わらない現実が変わって行かなければ、生涯スポーツとしてのサッカーの実現はありえないと思う。上手い子供にトレセン制度がある様に、下手な子供にも似た様な合同練習会の様な制度や混合チームの様な物があるのも良いのかと思う。公式戦にベンチ登録出来る人数制限がある事も良くない。ベンチ外となった子供達やその親御さん達にも不快感、不信感を与えてしまっている。片や補欠ゼロを訴えているが、片や子供達を差別する様な作業を現場に強いている矛盾をどう説明するのか？これが、サッカー界全体の悪しき体質なんだろうと思う。

ライセンス保持者しかベンチに入れない、指示できない様な運営の仕方を始めたのも、指導者不足を加速する事になり出している。数日間掛かるライセンスの取得は、少年団等では正直敷居が高いのが現実。趣味で取得するには、時間も費用も掛かり過ぎると言うのが印象。なので、少年団には今後指導者不足が深刻化して行く事間違いないと思う。結果、チームの減少、それに伴ってサッカー人口の激減も加速して行く様な気がする。現場では、もうそれをひしひしと感じ始めている。

全員均等な時間の出場を目指して、ルールも自由交代にしたのに、皮肉にもベンチに縛り付けられる子供達が増加してしまった。何の為に8人制の導入だったのか、今となってはさっぱり分からない。交代自由の11人制の方がフィールドに立てる人数が3人だけでも増えるから、その方が良かったんじゃないか？

子供の大会の運営が厳格すぎる。メンバーリストなどもっと簡易化するべき。審判の負担が大きいのでスキルを求める今の体制ならサッカー協会が審判を整備するべき。年々、審判のやり手が居なくなっている。エリートばかりに目を向けるのではなく、底辺を大事にし、まずはサッカーを始めようという試みを考えて頂ければと思います。それと、中学に顧問を派遣できるようなシステムを作れると良いかと思っています。

目的や目標が良いが現実離れしている部分が多い。立ち位置としてJFA側からのグラスルーツというより今で行けば働き方改革の一環として余暇時間を運動(サッカー)に使いましょう。そのために公共施設を開放しましょうといった方法や、社会人リーグ(地域草サッカーレベル)でのより簡易的に参加ができる大会の開催。特に昔の仲間と年1回参加や、人数が少ないから会社の同僚を1人入れるといったことが安易にでき、簡単にチームが登録・参加できる大会があれば参加しやすい。ルール上ユニフォームの統一やエントリー表の必要性は上位リーグになればあるが、グラスルーツ推進に当たってはそういったものが無くても参加できる程度の安易なものももっと活発にならないと難しい。またより幅広い年代が楽しめるためにはジュニアチームに保護者が楽しめるチームを作りプレイヤーを広げるといった方策もある。

私自身は40代のシニア世代で、自分で作った社会人チームとシニアチームのかけもちでプレーしていますので、社会人&シニアサッカー目線で書かせて頂きます。年齢やレベルに応じたリーグや大会、気軽に参加できるリーグや大会がもっとあればいいなと思います。各都道府県のサッカー協会が主催する大会やリーグは運営のしっかりした競技志向のチームのみ楽しめる環境になつてくるような気がします。例えば新しくチームを立ち上げたときに、この先チームがうまく続いていくかわからない状況でいきなりユニフォームを揃えて数十万もする登録費を払ってリーグに加盟するのはなかなかハードルが高く…。でするので気軽に参加できる低予算、短期間、ピンスでも参加可能とかのエンジョイ志向の様子見の大会やリーグがあったらいいなと感じています。そういった大会やリーグに何度か試しに参加してみてチームが軌道に乗ったり、向上心が芽生えてきたら、競技志向のきっちりしたリーグにチャレンジする…。そういった形があればもっとサッカーチームが増えたり、サッカー人口も増えるのではないかと考えています。私も自分で私設のエンジョイリーグを作って活動はしてるのですが、個人主催なのでできることが限られてしまいます。でするのでサッカー協会主導のそういったエンジョイリーグがあれば、参加してみたいなと常々思っています。それとO40、O50と年齢だけで一括りにするのはなく、シニア世代もレベル分けが必要なのではと思います。シニア世代のサッカー人口が少ないから難しい面はあるかと思いますが、逆にレベル分けを先にしたらシニアのサッカー人口が増える気もしています。というのも私自身がO40の試合に参加したときに、相手に元プロの選手が何人かいて強すぎて全く試合を楽しめなかったり、逆に相手がエンジョイ志向過ぎてちょっとの接触ですごく怒られたり…という経験があり、それが原因で辞めていったメンバーもありました。でするのでシニア世代もレベル分けがあればなと思っています。



**Thank you.**